

故ニ我ハ決シテ恨ヲ發サント欲スル者ニテサレバ汝ハ宜ク其神ヲ
 冒瀆セシ罪ヲ謝スベシト懇々勸告セシニ遂ニ默然トシテ答ヲ爲サ
 リシト語レリト稱ス然レニ當時此人ノ舉動甚ク酷薄ナリシコトハ此等
 辨護ノ有無ニ關ハラス到底其過失云ハサルベカラズ
 四 カルウノ教系ノ行ハル、地方ニ改革教會ノ者ハ恰モ一群ノ如ク
 カルウノ教系ノ下ニ纏綿セリ即チスウイツルラノドフラノドフテ
 ルラノドフスゴトヲラノドフ新教徒カ全ク其教系ヲ受理スル耳ナラス
 イノクランノドノ國教ノ如キモ其教會政治ノ異ナルニ關ハラス彼ノ三
 十九條ノ教義ハ全ク此人ノ教系ヲ受理スルナリ抑モ改革教會ハ「レ
 テ」教會ト互ニ自説ヲ固守シ遂ニ全ク相分離スルニ至リシカニ是レ
 ハ却テ兩教會ノ幸福ト爲リ奈何トナレハハ互ニ接近スルハ種々
 ノ高藤ヲ生ズレニ其分離スルニ及ビテハ又相親ムハ人情ノ常ナレハ

改革教會ニ用ルル信仰個條ハ種々アリ即チ其最古者ハ千五百三
 十年彼ノアウグスブルグノ會議ニ呈出セル信仰個條ニシテ是レ「四
 府」牧師等カ編纂セシ者ナレニ重ニスタラスブルグノ改革家マルテ
 シ、ブツセルカ手ニ成レリ又彼ノ「ルウテ」ノ信仰個條ハスウイツルラ
 ノ「ド」ノ改革家ブリノケルカ千五百三十六年數人ノ改革家ト共ニ編纂
 セシ者ニテ是レハ始メ改革教會ト「ル」テ「教」合チ輯睦セシムル爲メ
 編纂セシ者ナレニ兩教會ハ遂ニ輯睦スル能ハサレハ改革教會ノ「ミ」之
 ヲ受ケタリ然レニブリノケルハ其後又スウイツランドノ神學者等
 ノ委嘱ニ因テ之ヲ修正シ第二ノ「ル」ウテ「信」仰個條ト稱シ千五百六
 十四年出版セリ却説此信仰個條ハ實ニ「歐羅巴」諸國ノ改革教會ニ用ル
 ル諸信仰個條ノ基礎ト爲リシカ其文中ニ「晚餐」ニ就キ基督ヲ受ケルム

眞正ノ事ナレトモ是レハ靈ニシテ且立與ナル者ナリト書セリガリクノ
 信仰個條ハ千五百五十九年フランスノ改革教會ニテ編纂セシ者ニテ
 其政治教義ハ共ニカルウヰノ説ニ從ヘリイソングランド國教ノ三十九
 條ハ千五百六十三年女王エリザベツノ命ニ由テ先王エドワルド第六
 ノ時ニ編纂セシ四十二條ニ基キ修正セシ者ニテ其後國會ニテ之ヲ受
 ケタリ又彼ノ有名ナルウヰストミンステルノ信仰個條ハイソングラン
 ドナルロンドンノ古修道院ニテ編纂セシ者ナリ初メ此國ノ國會議員
 等ハ其國教ナル監督教會ノ教義政治ニ満足スル能ハスチヤレス第一
 ノ時之ヲ改良セシムル爲メ教師百廿一人貴族十人平民廿人ヲ舉ケ之
 チ委嘱セシカ此頃スコットランドノ長老教會ヨリモ亦其委員會ニ加入
 センコチ願ヒ其委員五人ヲ派出セシメシカハ此等ノ者ハ千六百四十
 三年ヨリロンドンナルウヰエストミンステルノ古修道院ニ於テ開會シ

タリ然ルニ此委員ハ監督長老獨立等ノ諸教會ヨリ出タル者ナレハ監
 督政治ヲ信仰スル者ハ或ヒハ暫ク出會シテ其後欠席シ或ヒハ全ク出
 會セサル者モアリタレトモ其他ノ委員ハ開會後凡ソ四年半ノ間ニ千百
 六十三回ノ會議ヲ開キ信仰個條及ヒ問答書等ヲ編纂シ直チニ其院名
 チ采リテ之ニ名ケタリ然ルニ此信仰個條等ノ教義及ヒ政治ハ全クカ
 ルウヰノ説ニ契合スル者ナレハ廣ク歐羅巴諸國ノ改革教會ニ用キテ
 レ其勢力アルコトハイデルベルクノ信仰個條ニ亞キタリ但イソングラン
 ドナル獨立教會ノ者ハ此信仰個條ノ政治ヲ満足スル能ハス千六百五
 十八年ロンドンナルサウヰニ於テ更ラニ信仰個條ヲ編纂セリ蓋此信
 仰個條モ唯其政治ノ異ナル耳ニテ其教義ハ全クウヰストミンステル
 ノ信仰個條ニ從ヘリ合衆國ナル組合教會ノ中ニ能ク行ハル、三種ノ
 信仰個條ハ政治ノミハ獨立政治ヲ用ユレトモ教義ハカルウヰノ説ニ從

第二節 諸教派

改革ノ起ルニ方リテ種々誤謬ノ説モ亦隨テ起リ其障礙ヲ爲シタル
 在當時ル^ルテ^ルヲ除クノ外其弊ヲ辨識スル者ナシ^ルテ^ルハ實ニ天
 性英敏ニシテ教會ノ啓導者ト爲ル充分ノ才略アリ且神言及ヒ信仰ノ
 輔翼ニ由テ教會ノ改革ヲ計畫シ又能ク謬説ノ傾嚮スル所ヲモ洞察セ
 リ因テズウヰングリハ此人ヲ評シ神ノ恩惠ヲ受ケ能ク聖書ノ蘊奧ヲ
 説明スル^ル千年未曾有ノ者ナリト云ヘリ抑モ此頃改革ノ障礙ト爲リ
 シ者ハ三個アリ即チ(一)文學者 此ハ普通ノ學問及ヒ自由自治ヲ重ス
 ル者ニテ改革頃自由説ノ行ハルニ乘シ殆ト國家ヲ轉覆セント起圖
 セリ即チ彼ノ後年イ^イン^グラ^ンドニ起レル^ル「^ビユ^リタ^ン」派ノ如キ此主義
 ナ貫徹セシナリ(二)玄奧學 此ハ聖書ニモ超越セル超理的ノ論説ヲ主

張シ福音ヲ以テ世ノ法律ヲ破壊セント欲スル者ニテ即チ彼ノ^ルテ
 在^ル世頃ノ「復バプテスト」派ノ如キ是レナリ蓋此派ノ者ハ^ルテ^ル
 爲メ頗ル抑制セラレタリ(三)批評家 此ハ聖書ヲ輕シ自己ノ見識ニテ
 批評ヲ下タス者ニテ^ルテ^ル在^ル世頃ヨリ既ニ世ニ顯ハレタリ

一「復バプテスト」派 此派ハ原トセルマニ及ヒスウイツラ^ンド^ホ
 ル^ラン^ドニ起リシカ幼少ノ時既ニ「バプテスマ」ヲ受ケシ者ニ向キ成長
 ノ後又之ヲ施行スルニ由テ斯クノ如キ名稱ヲ得タリ却説此派ノ或者
 ハ自ラ其教義ハ古昔ノ「ワルデンセ」派ト符合スルナリト稱スレ^レ此派
 ノ「ワルデンセ」派ト同シカラサル^ル二個アリ即チ「ワルデンセ」派ノ者ハ
 兒童ニ「バプテスマ」ヲ施行シ又此派ノ者ト一致スルヲ拒ミ却テ改革教
 會ト一致セシナリ此派ノ形狀ヲ略述スレ^ハ此派ノ者ハ自ラ神ノ默示
 ナ受タリト稱シ兩約聖書ヲ輕ンシ又教會ハ聖ナル邦國ニテ更生者ノ

ミ居ルヘキ者ナリト稱シ其家族等ヲ加入セス更生者ハ特別ニ聖靈ノ感化ヲ受シレハ普通ノ者ト同シカラスト稱シ或ヒハ幻象ヲ觀或ヒハ過度ニ熱信スルヲ抄カラス又信徒ハ皆道ヲ傳ユル權アリト稱シ神ヲ命セシ聖職者ヲ拒ミ且此世ノ邦國ハ凡ヘテ轉覆シ神ノ邦國カ威力ニ由テ建ラレ人類ハ皆此邦國ニ入ルナリト主張スルナリ

抑モ此教派ヲ起レル發端ヲ釋スルニセルマニニ於テハトマス、ムンツエルナル者カ千五百二十年始メテサキソニナルツウカウニ於テ其徒弟等ヲ嘯集シ敢狂ナル講義ヲ爲セシカ其後騷亂ノ際此地ヲ驅逐セラレタレハ此徒弟等ハ彼ノルイタルカワルトベルグニ潛居セシ頃ニウイッタンベルグニ來リ改革中心ノ地ニ於テ其說ヲ弘メント起圖シ其頃又ニコラス、ストルツナル者ハ此主義ヲ以テ更ラニ一教派ヲ建設シテ欲シ其教徒中ニ十二使徒及ヒ七十二徒弟ノ名稱ヲ建テシカ彼ノル

トテノ朋友ニシテ改革家ナルカルス、クットモ遂ニ其說ニ誘惑セラレタリス、ウイッタル、ランドニ於テハ改革家中ノ或者等ハズウ、キングリノ述ヘタル會堂ニテ講義ヲ爲スコハ教會ノ古禮式ニアラストノ說ニ拘泥シ新クニ使徒時代ノ如キ教會ヲ建設セント欲シ漸々其教會ヲ離レ普通民舍ニテ集會ヲ爲セシカ此等ノ徒ハ後年ニ至リ兒童ニ「バアテス」ヲ施行スルコト否ミ又稍ヤ感奮セシ形狀アリタレト未タ騷亂ニ至ラスシテ止ミタリホルランドニ於テハライデンノ裁縫師シヨン、ブッコルドナル者アリ千五百三十三年頃セルマニノ西部ナルムンステルニ至リ基督ノ邦國ハ此處ニ於テ建設セラルヘシトテ其地ノ人民等ヲ誘惑シ遂ニ人民等ノ推薦ニ由テ其王位ニ登リ此土地ヲ占領セシカ其後或者ヲ擇ヒ管事者ト爲シ之ヲ監督ト號シホルランドナルライデン及ヒアムステルダム等ノ地ニ派遣セリ然ルニ此ライデンニ赴ケル管事

者ハ將ニ火ヲ放シ其市街ヲ焚燒セントセシカ未ダ事ヲ舉グルニ及ハ
 ス早ク官吏等ニ檢出セラレタリ又アムステルダムニ赴ケル管事者ハ
 其地ノ復バアテスト派ノ者カ千五百三十五年頃ハビロニユ悲哉神ノ
 龍怒ト叫ヒ男女共ニ赤胆ニ爲リ其市街ノ内外ヲ走り巡リ官等カ之ヲ
 制抑シテ衣服ヲ被セシメント爲シタレハ敢テ用井遂ニ殺害セラレタ
 ル者許多アリシニ由テ今者此地ニ來ルニ及ヒ竊カニ其餘類ヲ煽動シ
 騷亂ヲ起サシメ機ニ乘シ其地ヲ占領セント謀リシカ亦早ク官吏等ノ
 爲メ鎮定セラレ其謀首等ハ皆種々ノ刑罰ニ處セラレタリ且又彼ノム
 ンスナルニ於テモ從前ノ監督等軍兵ヲ募リ千五百三十六年其市街ヲ
 圍ミシカハフッコル以下ノ者ハ遂ニ之ヲ防禦スル能ハス此等軍兵ノ
 爲メ鐵橋ニ入レ或高塔ノ上ヨリ吊下セシ後暗殺セラレタリ抑モ彼ノ
 ルーテルハ深ク此等カ舉動ヲ惡ミシニ由テ徧ク人民等ヲ諭シ尙特異

ナル神ノ默示ヲ受ケシ者ナラハ特別ナル證據ヲ顯ハサ、ルヘカラス
 ト雖我儕ハ神言ノ外別ニ據ルヘキ者ナシト云ヒ其加入スルコトヲ戒メ
 シカ此教派中ニモ斯ル教狂ニ與セサル者許多アリ蓋此等教狂ノ結果
 ハ「エラスチアン」政治即チ教會カ其國政府ヲ干涉ヲ受ケサルヘカラス
 政府モ亦止ムヲ得テ教會ニ干涉シ其紛亂ヲ靖定セサルヘカラス形
 狀ト爲レリ
 ホルラジドノ或者等ハ千五百三十六年メソングジモンスナル者ノ勢力
 ニ依リ一教派ヲ起シ其名ヲ「メソングナイテ」派ト稱セリ抑モ此メソング
 モソンスハ原ト天主教ノ教師ニシテ甚ク酒ヲ嗜ミ無學識昧ナル者ナリ
 シカ或時「マス」ノ禮典ヲ行フニ方リテ其麵包ハ實ニ基督ノ肉ニ變化ス
 ルヤト想起シ是レヨリ聖書ヲ讀ミ心ヲ改メ其後遂ニ福音ノ眞理ヲ講
 述セシカ後又復バアテスト派ノ或者カ死セシ時聊カ感覺スル所アリ

始メテ「バプテスマ」ノ教義ニ就キ考案ヲ起シ新約聖書ヲ調査セシニ其書中毫モ兒童ニ之ヲ施セシ明文アラザリシカハ遂ニ自ラ兒童ニハ必ス「バプテスマ」ヲ施スヘキ者ニアラスト考定セリ然ルニ其頃此國ナル「復バプテスマ」派ノ教徒等ハ種々ノ迫害ニ逢ヒ甚ク困窮セシ際ナレハ今者メソノノ事ヲ聞キ直ニ其許ニ至リ懇切ニ此派ノ爲メニ周旋セシメテ願望セシニメソノハ之ニ從ヒ自ラ其教師ト爲リ妻子ヲ携ヘホルラソド及ヒ北セルマニ諸邦ニ至リ大約二十五年許リ其擴張ニ從事シ之カ爲メ種々ノ迫害ニ逢ヒ殆ント生命ヲ喪ハントセリ却說此人ハ天資活潑ニシテ辨舌雄爽ナル耳ナラス信仰篤ク耐忍アリ且其頃諸書ヲ涉獵シ稍ヤ學識ヲ備ヘシニ由テ其勢力教徒ヲ專制スルニ至リシカ大ニ其教義ヲ更改シ唯更生者ノニ教會ニ居ルヘキ者トスルハ敢テ從前ト異ナラサレヒ幻象ヲ觀又ハ過度ニ熱信スルヲ以テ更生ノ證據

ヲ爲メテ拒ミ且世ノ學問ヲ以テ聖靈ノ感化ヲ妨クル者トシ聖職者ハ更ナリ教徒等モ之ヲ修メサラシメ又教徒ノ職階ニ臨ミ或ヒハ裁判所ニテ宣誓ヲ爲スヲ禁メ千福年ノ說ヲ主張セリ此人ハ千五百六十年頃死去セシカ其著述セシ信仰個條及ヒ問答書等ハ皆ホルラソド語ニテ其文章極メテ蕪雜重複セル者ナリ抑モ歐羅巴大陸ノ「復バプテスマ」派ノ者ハ大概其規律ノ同シカラサルニ由テ兩派ニ分レシカ一ハ甚ク嚴格ナル教系ヲ守リ一旦蹉跌セル者ハ設令改悔ヲ爲スヒ教會ニ復歸スルコト許サス「バプテスマ」ハ唯浸禮ノミヲ以テ正式ト云ヒ一ハ其教系稍ヤ寬ニシテ「バプテスマ」ノ如キモ其正式ハ固ヨリ浸禮ナレヒ酒禮モ亦正式ニアラサルナシト云ヘリ蓋此等ノ派ハ從前ノ「復バプテスマ」派ヨリ稍ヤ善良ナル者ナリ

ソナイト派ノ者ハ既ニ第十六世紀ノ中葉ヨリ此國ニ渡航セシガレヘ
 シリ第八及ヒマリア女王ノ爲メ迫害ヲ受ケシ耳ナラヌエドワルド第
 六及ヒエリサベツ女王ノ爲メニモ迫害ヲ受ケタリ却説此復バアテス
 ト派ノ者ハ唯自己ノ教會ノミヲ以テ真正ナル基督教會ナリトシ他ノ
 教會ヲ凡ヘテ擯斥スル耳ナラズ歐羅巴大陸ノ復バアテスト派トモ關
 係ナシト自稱スレモ其教義ハ「メソソナイト」派ノ説ヲ受理シ兒童ノ「バ
 アテス」ヲ受クルコト否ミ又浸禮ノミヲ以テ「バアテスマ」ノ正式ト爲
 セリ然レニ此派モ亦其後兩派ニ分レシカ共一ハ全クカルウシノ教系
 ヲ受クル者ニテ其「ソンド」ナル七個ノ教會ノ者カ千六百四十三年以
 來凡シ四十六年間ヲ閱テ編纂セシ信仰個條ノ教義ハ全ク彼ノウエス
 ト「モソ」派ナルノ信仰個條及ヒ「サウ」ノ信仰個條ト符合スル者ナリ又
 他ノ一ハ多ク無學ナル教師ニシテカルウシノ教義特ニ其預定説ヲ否

且一性派ノ者等ト共ニ晚餐ヲ守ルコト許スナリ蓋其政治ハ兩派共
 ニ獨立政治ヲ用キ且當時ハ唯「バアテスト」派トシテ稱シ合衆國中ニ
 モ弘行セシナリ
 二「ビユリタン」派
 「イングランド」ノ或者等ハエドワルド第六ノ頃ヨ
 リ既ニ其國教ニ満足スル能ハス尙ホ之ヲ改革シ倍々福音主義ニ從ヒ
 教會ヲ建テント欲セシカ其後漸々結合シテ遂ニ一派ヲ建設シ世人ユ
 リ「ビユリタン」即チ純潔派トノ稱號ヲ得タリ蓋是レハ其從來教會ニ存
 スル舊習チ一洗シ凡ヘテノ禮典ヲ撤除セント希望セシニ由テナリ却
 説此派ノ者等ハ甚ク聖書ノ如字のナル意義ヲ尊ミ之ヲ墨守スル耳ナ
 ラズ之ヲ以テ教會ノ政治及ヒ拜禮式等一切ノ基礎ト定メ其他人造ノ
 禮式等ハ皆之ヲ擯斥シ且祭日及ヒ會堂ノ裝飾樂器等ヲ用キルコトナク
 世ノ快樂ヲ執ラス唯聖書ニ明記セル拜禮ノミヲ守ラント欲セリ又此

派ノ者ハ神ノ國ハ無上權ニシテ其制定セシ律法トハ即チ聖書ナリ其
 稱シ小兒ニ名ヲ命スルニハ聖書中ノ人名ニ倣ヒ戰闘ノ時ハ古昔モ一
 セカカナシテ滅セシ例隨チ標準トシ安息日ハ必ス聖日トシテ守ラサ
 ルヘカラスト主張シ平生相互ニ用ケル言語ニモ多ク聖書ノ神言ヲ援
 引スルナリ
 此派ノ者ハ初メ甚ダ僅少ニシテ且マリア女王ノ頃ハ歐羅巴大陸ノ中
 ニニエリサベツ女王ハ監督教會ヲ以テ其國教ト定メ且法律ヲ設ケ國內
 諸教派ノ者ヲ皆其國教ニ合併セシメント謀リ此派ノ者カ國教ト合併
 スルハ我良心ニ背シカ故ニ敢テ之ヲ爲ス能ハスト述ヘタルニ遂ニ其
 權力ヲ以テ之ヲ壓伏セシト爲リ茲ニロベルドプロヴンナル者アリ教
 會獨立ノ說ヲ主張シ千五百八十一年頃新タニ一派ヲ建設セシカ是レ

即チ後年ニ及ビテ組合教會ト稱スル者ナリ其頃又リナヤルド、パンク
 ロフトト云ヘル者アリ千五百八十八年ニ異說ヲ主張シテ監督ノ職ハ
 天授ニシテ其權ノ重大ナル敢テ長老ノ比類ニアラス且接手禮ヲ施行
 スルカハ監督ノ權ナレハ長老ニテ施セシモノハ決シテ效驗ナキナリ
 ト云ヒシカ此人ハ後年カンテレルノ大監督ト爲レリ其後スコットラ
 ンド王シエムス第一カ千六百〇三年イングランドノ王位ヲ兼テシ頃
 ニ方リ長老教會ノ者等ハ此シエムス第一ハ原トスコットラシド人ナレ
 ハ必ス監督教會ト「ビエリタン」派ノ紛争中裁スヘシト想像セシニ此
 人ハ深ク王位天授說ヲ信シ且監督教會ノ此說ニ左袒スルコトヲ知リタ
 レハ敢テ其仲裁ヲ爲ササル耳ナラヌカルクンノ教義ヲ容許スルコトヲ
 拒ミ千六百十八年「ロルト」ノ議會ニハ代理公使ヲ派遣シタルニ其決議
 ヲ實施スルコトヲ承諾セサリシナリ「ビエリタン」派ノ者ハ此頃種々ノ妨

碍ニ遇ヒテハ敢テ沮撓スルコトナク倍々其勢力ヲ擴張セシカ貴族及
 ヒ農商製造家等中等社會ノ者多ク加入シ合衆國移住人ノ中ニモ亦熾
 シニ弘衍セリナヤレス第一ハ千六百二十五年其王位ニ登ルニ及ヒ大
 ニ王室及ヒ監督教會ノ權力ヲ擴張セント欲シカントテルベリノ大監督
 ウイリアム、ラウドナル者ヲシテ其事ヲ管掌セシメシカ此ウイリアム、
 ラウドハ天資聰明ニシテ學識深ク天主教ノ如キ教義ヲ信仰スルコト
 テサレハ優柔不斷ニシテ頗ル儀文禮式等ヲ好ミタレハ先王エリサベ
 ヲノ時頒行セル國教合併ノ法律ニ從ハサル諸教派ヲ解散セシメント
 欲シ其着手ニ罹リシニ始メハ敢テ其法意ヲ枉ツルコトアラサリシカハ
 後稍ヤ之ヲ違犯セシニ因テ千六百四十四年「ビユリタン」派ノ者ヨリ國
 民ノ自由ヲ蠱惑スルトノ訴訟ヲ受ケ捕縛ノ後遂ニ斬首セラレタリシ
 カ此頃總理大臣スタラッナルドモ亦暗殺セラレタリ先是國會議員等ハ

當時ノ國教ニ満足スル能ハス千六百四十三年ヨリ數年間ロンドンナ
 ルウエストミンスターノ古修道院ニ委員會ヲ開キ教會ノ政治及ヒ教
 義ヲ議決セシメ遂ニ從來ノ監督政治ヲ廢シタリナヤレス第一ハ即位
 以來屢々其前言ヲ食ミ國會ノ承諾ナク租稅ヲ賦課シ且國會ノ重要ナ
 ル議員五人ヲ國事犯ノ罪アリト稱シ之ヲ其宮中ニ拘留スルコト命ス
 ル等種々ノ虐政ヲ行ヒシ爲メ遂ニ國內ノ騷亂ヲ惹起シ僞黨等ニ生擒
 セラレシカハ「ビユリタン」派ノ者ハ之ニ乘シ自己ノ說ニ從ハサル議員
 ナ驅逐シナヤレス第一ノ罪ヲ定メ千六百四十九年其首ヲ刎テ彼ノオ
 リウエル、コロムウエルヲ推薦シテ「プロテクトル」即チ攝政官ト爲セリ此時
 「ビユリタン」派ハ派内分岐シテ長老教會獨立教會ノ二派ト爲リコロム
 ウエルハ特ニ獨立教會ヲ贊成セリ然レハ此人ハ人民ニ天主教及ヒ監督
 教會ヲ除クノ外ハ自由ニ諸教會ヲ信仰スルコトヲ許容セシカ其頃此國

ニ種々ノ教派起レリ即チ(一)第五邦國派 此派ハ千福年論者ニシテ基督カ第五ノ邦國ヲ建ルト主張セリ(二)ウヘゲル派 此派ハ一種ノ玄奧論ヲ主張セリ(三)律法廢棄論者 此徒ハ舊約ノ律法ヲ廢棄シ唯基督ノ福音ノミチ主張セリ(四)自然神教 此徒ハ唯造物主ノ存在ヲ信スル耳ニテ默示ヲ信仰セサルナリ(五)寛容教家 此徒ハ自己ノ意ニ從ヒ種々ノ教義ヲ信シ又監督政治ヲ好メ其緊要トスル所ハ實ニ僅少ナル教義ノミナリ其他「プロト」派ノ學問ヲ好ム者許多アリ此等ノ中ニハ有名ナル學者モ抄カラサルナリ却說此國ハ千六百六十年ニ至リテ又王政ヲ回復シ「ヤレンス」第二ヲ建テ其國王ト爲セシカ此人ハ品行甚ク不正ニシテ且「ビユリタン」派ニ反動ヲ起シテ監督教會ヲ再興セシ耳ナラススコットランド及ヒ「アイルランド」ニモ監督ヲ設置シ特ニスコットランドニハ其國人ヲ壓伏スル爲メ憲兵ヲ派遣シ多ク之ヲ殺害セシカハスコット

トランド人モ亦之ニ抵抗セントテ盟約ヲ建テ多人數結合シケレハ世人之ヲ稱シテ「結約黨」ト云ヘリ却說「イングリランド」ニテハ千六百六十二年再ヒ國教合併ノ法律ヲ發シ「ビユリタン」派ノ者等カ之ニ服從セサルニ由テ其聖職者二千人ノ職ヲ褫フテ之ヲ放逐シ且其教派ノ說ヲ摧破セシ爲メ「娛遊篇」ト題スル小冊子ヲ著ハシ安息日ニ爲スヘキ娛遊ノ「ヲ記シ安息日毎ニ信徒ヲシテ之ヲ讀マシメシカハ其後二十五年許リニシテ信徒ハ之カ爲メ殆ソト眞正ナル信仰ヲ喪フニ至レリシエムス」第二ハ千六百八十五年其王位ニ登リシ以來竊カニ天主教ヲ再興セント欲シ敢テ監督教會ノ者等ノ諫諍ヲ用キサリシカハ國民等遂ニ謀叛シ國王ノ女婿ナル「ホルランド」ノ「オランザ」侯ウイリアムヲ迎ヘ之ヲ選立シケレハウイリアムハ許多ノ軍兵ヲ卒キテ此國ニ來リタレハ管テ一戰ノ功モナク其王位ヲ得タリ時ニ千六百八十九年ナリ却說「ビユリ

「派」及ヒ其他ノ國教ニ從ハサル者ハ其後國會ノ決議ニ由テ其罪ヲ不問ニ付スヲニ定メラレシ爲メ爾來稍ヤ安穩ヲ得タリ

三 玄奧及ヒ「クヘケル」派 彼ノルイタルカ未ダ在世セシ頃セルマニ

ニ於テ人ノ本心ハ神ニ吸收セラレ、ナリト云フ凡神の玄奧學流行セシカルイタルハ固ヨリ玄奧學ヲ好ミ玄奧主義ノ書ヲ讀ミ彼ノ「セルマニ」ノ神學ト題スル書ノ如キハ深ク貴重シ自ラ之ヲ出版セシ人ナレハ此學者ノ唱ユル神ト交通スルトノ說ノミヲ信シタレヒ又其能ク自ラ罪アルヲ及ヒ人類ト神トノ關係ヲ曉知セシニ由テ敢テ之ニ傾嚮セサリシカ其後此國ニテ之ヲ信仰スル者多ク起リ未ダ一教派ヲ建ルニ至ラサレヒ頗ル隆昌セシナリ

第十七世紀ノ中葉イソングランドニザヨルギ、フォクスト云ヘル者アリ知識的ノ玄奧學ニ基キ一教派ヲ起セリ却說此人ハ原ト革靴製造者ナレ

其幼少ノ頃ヨリ屢々沉思ヲ爲シ又監督教會カ禮文ニ拘泥スルヲ及ヒ「ビユリ」派ノ者カ如字的ノ教義等ヲ墨守スルヲニ満足スル能ハス年甫マテ十六歳ノ時神ノ徵召ニ由テ偉業ヲ建テシトノ志ヲ起シ是レヨリ世ヲ捨テ叢林ノ中ニ隱レ革衣ヲ被テ斷食及ヒ沉思ヲ爲セシカ其後數年ニシテ又世ニ出テマシナヘステルニ至リ始メテ講義ヲ爲セリ時ニ歳廿三ナリ(千六百四十七年)然ルニ其常ニ大ナル音聲ヲ發シ且一種奇異ナル玄奧說ヲ述ヘシニ由テ聽衆等屢々沸騰シ或時ハ遂ニ此人ヲ捕ヘテ獄舎ニ下ダシ又或田舎人ハ此人ヲ告訴セント爲セシニ此人ハ自ラ其訴狀ヲ持テロンドンニ至リ暫クコロムウエルノ前ニ於テ詰問ヲ受ケシカ此人ハコロムウエルノ前ニ至リテモ其自己ノ主義ニ從ヒ敢テ帽子ヲ脱セサリシナリ却說世人ハ最初此人ノ講義ヲ妨碍セントテ屢々之ヲ迫害シタレヒ後來其深切懇篤ナルヲ知ルニ及ヒ能ク之ヲ

聽聞シ遂ニ其教徒ト爲ル者許多アリ且此教徒ハ多ク諸方ニ散在スレ
 此相互ニ之ヲ指シテ朋友ト稱シ又其講義ヲ爲ス時ハ常ニ自ラ戰慄ナ
 ル聲ヲ爲ス耳ナラス世人ニモ亦神言ヲ聞ク時ハ必ス戰慄スヘシト教
 ヲ故ニ世人ハ之ヲ「シヘケル」即チ戰慄ト稱スルナリ此派ハ人造ノ拜禮
 ナ以テ不足ナリトシ教會ノ拜禮式及ヒ教會ニ關スル國法ヲ拒ミ甚シ
 キニ至リテハ感奮發狂スル者モ亦尠カラス特ニシニムス、チーロールナ
 ル者ハ自ラ義ノ無限ナル子ト稱シ世人カ聖歌ヲ誦ヒ己ヲ讚美スル
 ナ許シタリ抑モフナクハ千六百九十年ニ死去セシカ歐羅巴大陸ニテ
 ハ其說ヲ信個スル者甚ク僅少ナレモイソングランド及ヒ合衆國ノ中ニ
 ハ其後漸々弘衍シ教會ノ數大約五百有餘アリ且此教義ハ「ヤレン」第
 二ノ頃ヨリ稍ヤ正教ニ向キウイリアム、ペン及ヒロベルド、バルクレ等
 ノ貴族等之ニ加入セシカバルクレハ其後漸々此派ノ諸教義ヲ蒐輯シ

一 帙ノ書籍ト爲セリ却說此派ノ教義ヲ略述スレハ人類ハ唯基督信徒
 ノミナラス一般ニ皆神ノ知識ノ火花ニシテ之ヲ燃熾スルニハ唯沉思
 ノ一法アルノミ真理ハ其火光ノ力ニ由テ開悟スルヲ得ルモノニテ
 是レ所謂内部ノ言辭即チ我儕人類ノ身ニ存在スル基督ナリト云ヒ且
 現今ニ至リテハ聖靈ノ其身ニ宿ル「」ニ就キテモ專ラ内部ノ言辭ノミ
 ナ重シ必ス之ニ服從セサルヘカラスト爲シ聖書ヲ尊崇スル「」甚ク薄
 シ聖書ハ我儕ノ内部ニ存在スル言辭ヲ指示シ且感化スル者ナリト云
 ヘリ又聖禮典及ヒ按手禮ヲ受ケ教師ト爲リ成文ノ禮典ヲ守リ聖歌ヲ
 誦フ等ノ事ヲ拒ミ此等ハ皆最初教會ニテ權リニ設定セシ者ニ過キス
 ト云ヘリ此派拜禮ノ形狀ヲ述ブレハ教徒ハ集會日毎ニ其會堂ニ集會
 スレモ會堂中ニハ聖書及ヒ講壇等ナク唯暫ク椅子ニ據リテ沉默俯視
 スルノミ或時ハ感話ヲ爲ス者アレモ或時ハ全ク黙シテ會ヲ了ル「」

アリ且此派ノ者ハ世ノ風俗習慣ニ從ヒ及ヒ世ノ快樂ヲ爲スコハ更ナ
 リ禮式ヲ以テ國王並ニ其官吏等ヲ尊敬シ裁判官ニ委託シ官吏ノ命令
 ニ從ヒ宣誓スル等ノ事ヲ拒ミ戰陣ニ臨ミ戰稅ヲ納ル、コトヲ謝絶スル
 耳ナラス教會ニ政治ヲ設クルコトヲ拒ミタリ蓋後年ニ至リテ不正者
 ナ放逐スル規則一條及ヒ集會ノ空シ噤黙ニ陷キルコトヲ預防スル職員
 ナ設置セリ

四 敬虔家

此ハセルマニノ「ルーテル」教會中ニ行ハル、者ニテ一別
 派ヲ爲ス者ニアラサルナリ抑モセルマニノ教會ハ第十七世紀ノ中葉
 マテ連續セル彼ノ三十年間ノ大戦ノ爲メ規律廢弛信仰衰微シアリス
 トラルノ敏辦法ヲ以テ信仰ニ代用シ教師ヲ選フニ設令其心更生セサ
 ルモ公ケニ福音主義ノ信仰個條ヲ肯諾スレハ之ヲ以テ満足スル形状
 ニ至リタシハ神ハ之ヲ矯正セシムル爲メ「フリプスベチルナル者」ヲ遣

ハセリ却說此人ハ千六百七十五年ニ「敬虔ノ希望」ト題スル書ヲ著ハシ
 當時教會ノ腐敗セル形状及ヒ之ヲ矯正スル方法ヲ論述シ且「サキソニ
 侯」ヨルヤ第四ニ聘セラレ其侯室教師ト爲ルニ及ヒ人ハ聖靈ノ感化
 ニ由テ更生セサルヘカヲサルコト主張シ其後此侯ノ飲酒ヲ諫メシ爲
 メ其欸心ヲ喪ヒ職ヲ罷ラレシカハ「ベルリン」ニ移リ此地ニテ講義ヲ爲
 シ且教師タル者ハ必ス其心ヲ更正セサルヘカヲサルコト主張シ又信
 徒カ聖書ヲ讀ミ祈禱ヲ爲シ且互ニ獎勵セシムル爲メ一ノ協會ヲ設立
 セシカ其他ノ教師等モ之ニ倣ヒ弊習ヲ矯正スル者許多アリ大ニ教會
 ノ面目ヲ更メ世人ノ爲メ敬虔家ト稱セラル、ニ至レリ然レモ此徒ハ
 其頃屢々窘迫ヲ受ケ特ニ彼ノスベチルモ嘗テ或者ヨリ福音主義ノ教
 義ニ背戻セリトノ告訴ヲ受ケ一旦詰問ニ遇ヒシコトアリ又其頃「ライプ
 ツイッ」ノ神學校ノ教諭「アウグストス、フランク」ト云ヘル者ハスベチル

ノ如ク敬虔説ヲ信仰シ之ヲ唱道セシカ他ノ教諭等ヨリ抵抗妨礙セラレシ爲メ其同志者ト共ニハルレニ至リ其地ニ於テ後年有名ナル一大學校及ヒ孤兒養育院ヲ建設セリ却説此敬虔會ノ結果ハ最初ハ甚ク善良ナリシカモ其後漸々腐敗シ妄信疎狂ノ徒種々ノ異説ヲ主張シ且會員ハ皆聖書ヲ説明スル權アリト稱シスベテ爾等諸方正ナル會員ヲ抑ヘ却テ教會ノ盡害ト爲リシヲ諒カラサレハスベテ爾等ハ深ク之ヲ慨歎シ遂ニ自ラ脫會スルニ至レリ却説或者ハ嘗テ此會ノ過失ヲ擧ケシカ凡ソ三個アリ即チ(一)信仰個條ノ真正ナル利益ヲ忽諸ニス(二)教會ノ靈ナルコトノミチ重シ歴史上ノ事ニ關係セス(三)心身ノ經驗ヲ重シ外部ノ諸事ヲ蔑視シ玄奧ニ傾嚮スル弊アリト

五 「モレウイアン」派

ホヒミア及ヒモレウア州(共ニアウストリアノ北部)ナル四百許リノ教會ハ改革以前ヨリ彼ノ有名ナルシヨン、ホス等ノ

盡力ニ由テ既ニ後來改革家ノ唱道スル如キ説ヲ信セシカ天主教徒カ之ヲ窘迫シ其教會ヲ蹂躪シ又其信徒ヲ多ク殺害スルニ及ヒ大概禍ヲ避ケ遠國ニ移住シ自ラ「モレウイアン」人ト稱シタリ抑モ此派ノ開祖ヨキソニ侯ツインツヘンドルフナル者ハ千七百〇〇年デレスデンニ生レ幼少ノ頃ハ敬虔家ノ教育ヲ受ケ彼ノスベテ爾ヲ以テ「バアテスマ」保管者ノ一人ト爲シ已ニ成長スルニ及ヒハルレノ大學校ニ入リアウグストス、フランケノ教授ヲ受ケ又ウイェンベルグノ大學校ニ入りシカ其後二年許リ諸國ニ遊歴シテ諸派ノ基督信徒ト交通シ大ニ感スル所アリシカハ是レヨリ信仰個條ノ束縛ニ據ラス唯耶穌基督ノ愛ニ由テ信徒ヲ結合シ且廣ク諸國ニ傳道スヘシトノ大志ヲ起シ自ラ奮フテ其業ニ従事セリ時ニ歲凡ソ二十一ナリ然ルニ此人ハ其頃モレウイアン人ノ我領内ニ移住セシ者ニ就キ其教義ヲ聞キテ大ニ感服スル所アリ能ク此

者等ヲ保護セシニ其後移住スル者倍々増加セシカハ遂ニ此等ヲ結合
 シ一派ヲ建テ抽籤ニ由テ其名ヲ「モレウ」派ト稱セリ蓋此人ハ初メ別
 派ヲ建テス「ルーテル」教會ノ中ニ居ラント希望シタレモ其他ノ者等之
 ナ用キス途ニ茲ニ至レリ却説ツインツヘンドルラハ千五百廿七年頃
 此派ノ監督ヨリ接手禮ヲ受ケ其首領ト爲リテ盡力セシカ後來教徒ノ
 倍々増加スルニ及ヒ政府ノ嫌疑ニ由テ委員ノ詰問ヲ受ケシ後其國境
 ヲリ放逐セラレシカハ諸國テ巡歴シホルランドデンマルクイソングラ
 ンド合衆國等ノ中ニ其教派ヲ弘メ其後十年ニシテ政府ノ赦免ニ因テ
 舊領ニ歸レリ抑モ此派ハ常ニハ長老監督ヲ置キ其政治ヲ爲サシムト
 雖モ荷モ一事ヲ爲サントスルモハ虚心平氣ヲ以テ聖書ヲ繙キ其偶然
 出タル所ノ神言ニ從ヒテ之ヲ決スルナリ又此派ニハ種々ノ書類及
 ヒ聖歌等アリ其聖歌中ニハツインツヘンドルラカ集會ニ臨ミ突然口

占シテ教徒ニ授ケシ者モ甚カラハ此等ハ皆聖書ノ本義ヲ究メス
 其形容詞ニ就キ直ニ如字的ノ解釋ヲ下スカ故ニ猥褻ニ流ル、者尠
 カラス例ヘハ三位一體ノ教義ニ子ハ父母ニ由テ生レシ者ニテ聖靈ハ
 即チ其母ナリト云ヒ又聖書ノ教會ハ基督ノ新婦ナリトノ語ニ從ヒ教
 會ハ凡ヘテ基督ノ新婦ナレト特ニ婦人ハ皆基督ヲ以テ其本夫ト定メ
 凡人ハ基督ノ代理ト信スヘシト教ヘシ如キ是ナリ故ニ此派ハ始メ其
 書類等ノ爲メ自ラ傷害ヲ招キ大ニ諸教會ヨリ侮辱セラレタレモ漸々
 其教義ヲ改良シ且アウグスブルグノ信仰個條ヲ受ケ之ヲ以テ信仰ノ
 標準ト爲スニ至リ稍ヤ善良ナル者ト爲リ且此派ハ歐羅巴亞米利加兩
 大洲ニ於テ大約十八萬ノ教徒アリ決シテ盛大ナル者トハ云フヘカラ
 カレモ其外國傳道ニ熱心ナルトニ至リテハ諸教會ノ仰キ以テ模範ト
 スル所ナリ

第四章 教義

第一節 基督學

一 本位ニ就キテノ見解

〔一〕「羅馬」教會此教會ノ者ハ陽ニハカレドニノ大議會ニテ決議セシ基督ニ兩性一本位アリトノ教義ヲ受クレニ實際ニハ基督ノ人性ハ其神性ノ爲メ吸收セラレタリト信シ隨テ中古頃ノ畫工等ハ基督ノ肖像ヲ模寫スルニ其神威ヲ顯示スル爲メニ其頭邊ニ後光ノ圖ヲ付ケタリ又此教會ハ信徒等ニ基督ヲ以テ恰モ嚴格ナル裁判人ノ如ク中保ニ依ラサレハ之ニ接近スヘカラサル如ク教導スル故ニ信徒等ハ之ニ接近シ且祈禱ヲ捧クルニ童貞女マリア及ヒ其他ノ天使聖徒等ノ中保ヲ頼ム習慣アルナリ

〔二〕ルーテル 此人ハ基督ニハ真正ナル人性アリ其幼稚ノ頃ニハ他ノ

兒童ト均シク遊戲ヲ爲シ其後知識能力ノ漸々發達セシテ敢テ純然タル人性ニ異ナラサレハ實ニ我儕人類ト兄弟ナル者ナリト云ヒ天主教ニテ教ユル如キ説ヲ厭忌セリ且此人ハ此教義ニ就キ最初ハ基督ノ神性ハ固ヨリ具備スル者ナレニ是レハ唯存在スル耳ニテ敢テ作動セサル者ノ如ク論シタレニ其後聖體合藏説ヲ述フルニ及ヒ基督ハ神人兩性ノ一致セシ時ヨリ其人性ニ神性ノ屬性ヲ受ケタリ蓋是レハ漸次ニ賦與セラレシ者ニテ其全ク受ケシトハ昇天ノ時ナリト云ヘリ抑モ此人ハ固ヨリ基督ニハ一本位アリト信仰シタレニ屢々其著書中ニ於テ人性ノ力ヲ述ヘ讀者ヲシテ恰モ兩本位アル如ク推測セシムルニ由テ其教會ノ者ハ稍ヤ之ニ蹉跌スルヲアリ又此人ハ常ニ基督ノ四福音書中ニテ述ヘタル我ト云フ辭義ヲ説明スルヲ避ケタリ

〔三〕ズウヰングリ 此人及ヒ改革教會ノ者ハ能ク基督ノ兩性ヲ區別シ

是レニハ各特別ナル屬性アリ且互ニ移属スル者ニアラサレハ本位ニ據リテ共ニ一致スルナリトシ又路加傳四章十八節ニ記載スル靈ハ基督ニ在ス及ヒ基督ノ裔ヲ沃カレタリトノ意ハ即チ其神性ハ靈ニ由テ變動スル者ニアラサレハ其人性ハ人類ヲ救拯スル凡ヘテノ準備夫整フル爲メ適當ナラシメントテ沃膏セリト説明セリ是ヲ以テズウキゾリ等ノ者ハ能ク基督ノ人性ハ漸次ニ成長シ智識能力ノ發達シテ事業ヲ爲スニ充分ナル者ト爲リシ耳ナラス其人性ニハ非常ノ能力光輝アリシヨチ信スレハ決シテ人性ノ神性ニ一變セシ説ヲ信セサルナリ

〔四〕諸學者

(一)メラントン此人ハ基督ノ本位及ヒ性質ニ就キテ思辨スルヨチ好マズ基督及ヒ神ニ關スル種々ノ默示ハ魅メテ一致セシムルヲ謀

ラズ唯喜ヒテ之ヲ受理スルヲ以テ可カリト爲セリ

(二)移属説 セルマニノ南部チルスワビア州ノ神學者等ハ此教義ニ就キテ思辨ヲ爲シ基督ノ兩性ハ一致ヲ爲セシ以來神性ノ屬性カ直チニ人性ニ移属セシヲ以テ基督ハ未タ胎内ニ在ル時ヨリ既ニ全知全能等ノ屬性アリト云ヒ又或者カ基督ハ奈何ニシテ他ノ人類ノ如ク成長學習受苦ヲ爲セシヤト抵抗セシニ是レハ基督自己ノ決意ニ由テ爲セリト答ヘタリ蓋此等神學者ノ説ノ如ク倘基督ハ一切ノ事ヲ預知スル權カアリトモハ基督ハ奈何ニシテ之ヲ撤除スルヲ得ザヤ

(三)隱蔽説 此説ハツピンゲンノ大學校ノ神學者等ノ唱道セシ者ニテ即チ基督ハ此世ニ在ル間自ラ其神性ヲ抑制シテ之ヲ隱蔽セリト云リ又或學者ノ説ニテハ馬太傳十七章ノ首ニ記載セル基督カ山上ニ於テ顯示セル奇異ナル容貌ノ如キ者ハ凡ヘテ皆其神性ノ暫ク發顯セル

者ナリトアリ
 (四)撤除説 此説ハ第十八世紀頃サキツニ侯ツインツヘンドルフカ朋
 立比書二章ノ六節乃至八節ノ經文ニ基キテ首唱セシモノニテ即チ基
 督ハ博愛ニシテ且慈惠アリ人類ト顯彰スルニ方リ凡ヘテ神性ノ屬性
 チ撤除シ敢テ普通ノ人類ト異レコナク特ニ最卑最賤ナル者ト爲リ苦
 チ受ケテ死セリト云ヒ或者カ種々ノ疑問ヲ設ケ之ヲ排駁セシニ我儕
 ハ此等ノ教義ニ關スルコナク唯廣大ナル基督ノ愛ヲ願ミカルヘカラ
 スト答ヘタリ

(五)新撤除説 第十八世紀ノ季頃ハ此教義ニ就キ特異ナル議論起ラサ
 リシカ今世紀ノ中葉ニ至リセルマニニ於テ新撤除説ト稱スル種々ノ
 説起リ之ヲ信仰スル學者許多アリ其重要ナル者ハ即チ左ノ如シ
 トルニヤス 此人ノ説ニハ基督ノ本位ハ唯一個ニ歸スルナラハ人ノ

屬性ヲ以テ神ノ屬性ト爲スニアラサレハ神ノ屬性ヲ以テ人ノ屬性ト
 爲サハルヘカラサレトモ古人ノ所謂人性ヲ神性ニ變狀セシトハ實ニ信
 スルニ足ラサル説ニテ却テ其反對ナル神性ノ人性ニ變狀セシ教義ヲ
 真正ナル説トスヘシ故ニ我儕四福音書ヲ研究スルニ基督ノ自稱セル
 我ト云フ辭ハ唯一ノ本位ニシテ其降世以前ヨリ存在セル無限者ナレ
 ハ神ノ無限ナル子タルヲ甚ク明晰ナリ然レハ基督ハ人類ニ顯彰スル
 爲メ本來神性ノ屬性ヲ撤除シ全ク人性ノ屬性ノミチ有セリ因テ倚神
 ノ自ラ其屬性ヲ撤除セリトノ説ヲ否ム者アラハ是レ實ニ神ノ能力ヲ
 以テ有限ナル者ト認メタリト云ハサルヘカラサト
 ゲッス 此人ハ「ロゴス」即チ道ハ自ラ其屬性ヲ撤除シ基督ノ靈魂ト爲ソ
 リ蓋其撤除ハ實ニ極度ニ達セシチ以テ其人類ト顯彰セシ時ハ毫モ本
 來ノ性質ヲ自覺スル能ハス其生活ノ形狀恰モ普通ノ人類ニ異ナラ

メト云々リ因テ之ヲ神變人類說ニ稱セリ却說此人類又其說ヲ辨明シ
 テ我説ニ彼ノアボリテリ或スノ所謂神性ナル道ニ基督ノ靈魂ト爲ス
 リトス或說トハ決シテ同カラスト云ヘリ
 エフラ^ス此入モ亦ケスノ說ノ如ク道ハ基督ノ靈魂ト爲レリト云
 へリ然レモ又道ハ斯クノ如ク人類ノ状態ニ入り即チ本來ナル神性ノ
 屬性ハ尙ホ存在スルト雖モ基督ハ之ヲ抑留セシ故ニ敢テ其神性ニ從
 ヒ一切ノ事ヲ預知スル等ノコトヲ蓋基督ニシテ尙之ヲ爲サント決意
 セハ敢テ爲シ能ハサルコトアラレモ基督ハ唯其父ナル神ノ意旨ノミ
 ニ從ヒテ之ヲ爲セリ故ニ惡魔カ之ヲ試ミシハ即チ其神性ノ能力ヲ神
 ノ意旨ニ忤フテ作動セシメシカ爲メナリト云ヘリ却說此說ニ從テ論
 スレハ基督ハ神性ノ本位ニシテ人性ヲ假冒シ真正ナル人類ノ如キ生
 活ヲ爲セシナリ

マルテンセン(デンマルクノ神學者)此人ノ說ハ以上諸學者ノ說ト異
 リ道ハ宇宙ニ於テハ凡ヘテノ神性ノ屬性ヲ以テ作動スルモ基督ト限
 ラレタルキハ其屬性ヲ撤除セリ蓋是レハ基督カ人類ト顯バレ其救ヲ
 成就スル爲メナリト云ヘリ
 因ニ云クセルマニ神學者ノ說ハ右ニ記載スル如ク種々ニ分岐スレ
 ニ要スルニ基督ニハ唯一個ノ性質アリテ或ヒハ人性ノ屬性カ神性
 ノ屬性ト爲リ或ヒハ神性ノ屬性カ人性ノ屬性ト爲ルト云フニ過キ
 ス蓋此等ノ思辨ハ皆誤謬ニシテ尙實ニ斯クノ如クナリトモハ基督
 ハ神人兩性ノ屬性アリ能ク神ト爲ス一切ノ事ヲ行ヒ又能ク人類ト
 爲ス一切ノ事ヲ行マストノ默示ニ適合セサル耳ナラス基督ハ一個ノ
 本位トシテ二個ノ非然ナル性質アリトシ根本ナル教義ニ適合セズ理性
 上ノ倫理ニ過リ論ズ亦適合セサルナリ奈何トモト其彼ノ移屬說

及ヒ隱密說ノ如ク基督ハ隱密ニ由テ變狀セリトモハ真正ナル神性
ヲ基督ニアラス又兩撤除說ノ如ク撤除ニ由テ變狀セリトモハ真正
ナル人性ノ基督ニアラサルナリ

二 本位ニ就キテノ異說 改革以後此教義ニ就キ異說ヲ主張スル者
抄カラカレニ就中其最モ有名ナル者ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ

〔一〕メンノ、ハシモンズ 此人ハ「復バアテスト」派ニテ有名ナル教師ナリ(第
三章三節ヲ參觀スヘシ)却說其說ニアダム及ヒ其子孫ナル人類ハ凡ヘ
テ墮落者ナルカ故ニ「ロエス」即チ基督ハ斯クノ如キ性質ヲ受ケサレニ
之ハ類似セル性質ノ萌芽ヲ受ケタリト云ヘリ然レニ倘果シテ然ラハ
基督ハ我儕人類ノ真正ナル代理者ト爲ル能ハサル耳ナラス其自認セ
ル許多ノ言辭及ヒ使徒等カ默示ニ由テ述ヘタル許多ノ言辭即チ希伯
來書第二章等ノ說ト適合セサルナリ蓋此人ノ說ハ「復バアテスト」派ノ

外ハ之ヲ信スル者甚シ

〔二〕セルウ、トス 此人ハ第十六世紀ノ季頃スモイソニ生レ成長ノ後ト
ウルス及ヒパリノ大學校ニ入りテ勉強セシカ天資輕佻ニシテ志操一
定セサレニ其才智拔群ナル爲メ數級ノ學位ヲ受ケ且未タ神學ニ通達
セサレニ廣シ群書ニ涉獵シ天文等ノ學科ニ至リテハ若年ノ頃ヨリ既
ニ其蘊奧ヲ究メ頗ル名聲ヲ博シ其後諸國ノ改革家ト交通シ互ニ文書
ヲ往復セシカバルニ寓居スル頃ハ彼ノ有名ナルニコラムベテウスト
モ暫シ交通セリ却說此人ノ說ハ其著述ナル「三位一體ニ就キテ教會ノ
誤謬」及ヒ「基督教ノ復古」ト題スル兩書ニ詳カナルカ基督ノ教義ニ就キ
テハ神ハ唯一個ノ本位アル者ナリ宇宙ハ神ノ觀念又其肖像即チ神ノ
性質ノ代表ナル宇宙ノ根本ナル觀念ハ即チ基督ナルカ故ニ基督ハ宇
宙ノ如ク永遠ナル者ニテ神ノ永遠ナル子ナリ蓋此永遠ナル基督トハ

神其者ノ如ク必須ナル者ヲアラカレヒ神カ自然ニ排列セシ者ナリ神
 ノ現出スル方法ハ兩種ニシテ即チ神言ト聖靈ニ由テナリト云ヒ三位
 一體ノ教義ニ就キテハ是レヲ以テ地獄ニ居ル三頭一身ノ狗ナリト輕
 蔑シ且其頃教會ノ腐敗セシハ凡ヘテ此教義ノ爲メナリト云ヒ基督ノ
 肉ヲ教義ニ就キテハ天使モ亦斯クノ如ク驢馬ノ體ヲ受クレハ驢馬ト
 爲ルヘシト云ヒ其他神名ヲ冒瀆スル種々ノ說ヲ述ヘシカ又奉合附會
 ノ說ヲ以テ默示錄ヲ說キ其十二章六節ニ記載セル千二百六十日トハ
 コンスタンテン大帝以來千二百六十年ノトニシテ即チ第十六世紀ヲ
 指セル者ナリ是ヲ以テ我ハ此教會ノ墮落ヲ挽回スル爲メ神ヨリ遣ハ
 サレタリト云ヘリ蓋此等ノ說ハ一旦許多ノ者ニ信仰サレタレヒ其後
 漸々衰ヘ一教派ヲモ組織スル能ハサルナリ抑モ此人ノ舉動ハ其文章
 ノ或ヒハ甚ク精核深淵ナル處アレヒ又或ヒハ卑近猥褻ナル處アルカ

如ク更ニ一定ノ常操ヲ能ク反復表裏セリ例ニシテ或時其スグイッ
 ルラゾリゾ改革家ト遭遇セシ際ハ自ラ其異說ヲ述ベシヨチ歎シ我ハ
 之ヲ棄擲スヘシト約束シタレヒ其後又之ヲ主張シ毅然トシテ敢テ更
 改スル所ナカリシナリ然ルニ後年其神名ヲ冒瀆セシ書籍ヲ著述セシ
 等ノ爲メフランスノウイニニ於テ詰問者ヨリ逮捕セラレシカハ我ハ
 斯クノ如キ書籍ヲ著述セシヲアサレハ必ス他人ノ著述ナラント云
 ヒ既ニ死刑ニ定メ獄舎ニ下サル、ニ及ヒ竊カニ之ヲ脱シセニウニ潛
 伏セシカ又其地ヲ退去セントスルニ方リ或者ヨリ檢出セラレ遂ニ焚
 殺ノ刑ニ處セラレタリ(千五百五十三年)却說此セルウニトスヲ檢出セシ
 者ハ或ヒハカルウニナルモ知ルヘカラサレヒ焚殺ヲ行ヒシハ實ニ政
 府ノ裁判人ニシテ教法ニ關係ナキナリ且此セルウニトスモ倘神名ヲ冒
 瀆セシトナシシハ迫害ヲ免レシモ亦測ルヘカラサレナリ

〔三〕ソサイヌス 第十六世紀頃異説ヲ主張セシ爲メ名聲ヲ博シタル彼
 ノソサイヌスナル者ハ叔侄兩人アリ叔ヲレリウスト云ヒ侄ヲフアウス
 トスト云ヘリ却説此レリウストハ原トイクリヤ人ニシテ自由自治ノ説
 ナ好ミ其政府ヲ轉覆セントテ竊カニ同志ヲ嘯集セシカ警察官ノ探偵
 甚ク嚴密ナル爲メイタリヤニ居ル能ハス遂ニ脱走シテ歐羅巴諸國ニ
 飄流シ此頃始メテ諸國ノ改革家ニ遭遇シ是レヨリ一派ノ教系ヲ建テ
 ントノ志ヲ起シ爾來汲々トシテ其材料ト爲ルヘキ種々ノモノヲ蒐輯
 シ又諸國ノ改革家等ト互ニ文書ヲ往復セシカ彼ノカルウソントハ最モ
 能ク之ヲ爲シ其後將ニ死セントスルニ臨ミ其任ヲウエストスニ遺囑シ
 我カ稿本ニ基キ教系ヲ組織セシメシカ其死セシ時ハ尙ホ未タ壯年ナ
 リ却説其概略ハ神ノ律法トハ神カ確實ナル自主ノ力ヲ以テ其意向ニ
 從ヒ制定シ又隨意ニ之ヲ廢棄スル者ナレハ道德的又ハ正義ニ契合ス

ル者ニアラス即チ神ノ性質ヲ言顯ス者ニアラサル故ニ人ハ神ノ派遣
 セル使者即チ基督ニ就キテ之ヲ聽聞スルニアラサレハ決シテ悟ル能
 ハサルナリ是ヲ以テ基督ハ超理的ノ作用ニ由テ處女ヨリ生レ又超理
 的ニ其律法ヲ顯彰セリ蓋基督ノ死ハ人類ノ贖罪ニ關スル者ニアラス
 奈何トナレハ神カ倘右ノ如ク自ラ其律法ヲ廢棄スレハ贖罪ハ必要ノ
 者ニアラサレハナリ基督ノ復活ハ神ノ恩典ニ由テ其赦罪ノ能力ヲ得
 セシメシカ爲メナリ救拯ハ全ク其自ラノ正義ノ爲メ即チ基督ノ教ヲ
 守ル者ハ基督ト共ニ神ノ意向中ニ生活スルヲ得ルト雖モ其教ニ背シ
 者ハ未來ニ於テ暫ク傷害ヲ蒙リ其後遂ニ絶滅ニ歸スルナリト却説此
 派ノ或教徒ハ後年ニ至リテ派中諸學者ノ重要ナル説ヲ編纂シ此人ノ
 説ヲ其書ノ首二卷ニ收メシカ今其書ヲ觀ルニ此派ハ固ヨリ基督ノ神
 性ヲ否メヒ又其神ノ命令ニ由テ基督ヲ拜崇スルヲ記載セリ且此神

學ヲ基礎ハ道德的ニ止ル耳其聖書ヲ解釋スルニ一定ノ方式カク自由ニ之ヲ爲スガ故ニ合理論ニ傾嚮スル形狀アリ

少シカイエスノ未タ其教系ヲ組織セサル頃ボルランドニ起レル騷亂ハ實ニ偶然ナル其準備ト爲レリ抑モボルランドニハ改革頃ゼルマニ

「サベリアン」及ヒ「アリアン」派ノ説ヲ信仰スル者等カ「カトリック」教會ノ無容忍ナルヲ満足スル能ハス多ク逃亡シテ此國ニ來リ改革教會ノ者等ト一致セシカ初メハ共ニ能ク交通シタレヒ此者等ハ其後公然ト基督ノ神性アル教義ニ抵抗シ屢々騷擾ヲ起シ國內之カ爲メ靖寧ナル能ハサル形狀ナルニ由テ大會ヨリ其決議ヲ以テ此者等カ其教會ヨリ退去スルヲ願望セラレタリ時ニ或侯伯ハ深ク此「サベリアン」派ノ説ヲ喜ビタレバ此者等ノ爲メ千五百六十九年新タニ「ラコ」ト云ヘル一邑ヲ設ケ之ニ居住セシメタリ然ルニ「ラコ」即チ少クサトスモ亦

會々此地ニ來リ教導シ許多ノ人民ヲ感化シ遂ニ一教派ヲ建ルニ至レリ然ルニ「サベリアン」派ノ者等ハ基督ノ本位ノ教義ニ就キ激烈ナル諍論ヲ起シ或時此人カ疾病ニ罹リ病歿ニアリシ時此者等突然其家ニ闖入シ此人ヲ其寢室ヨリ扯出シ市街ニ引廻セシ耳ナラス其家屋及ヒ書籍等ヲ破壊セシカハ此人ハ其後此地ヲ去リ或貴族ノ城砦ニ逃亡シ終身其中ニ居住セリ(千六百〇四年死ス)却説此派ノ教義及ヒ教徒ノ形狀ハ恰モ古昔ノ「サドカイ」派ノ者ニ類似スレヒ其後國內ノ貴紳豪族等カ之ヲ受理スルヲ甚カラス其教系ハ「イングラント」等ノ諸國ニマテ弘衍シ且「ラコ」ニテハ有名ナル學校及ヒ活版所ヲ設ケ數個ノ教會ヲ建テ殆ト六十年許リ其盛大ヲ極メシカ千六百三十八年其學校ノ書生等カ十字架ノ聖像ニ向キ石ヲ擲テ之ヲ破壊セシニ由テ政府ヨリ其學校ヲ閉鎖シ其教派ヲ解散スヘキヲ命セラレ其後尙ホ此地ニ居住シタレ

二十二年許リヲ閱テ又政府ヨリ其地ヲ退去スヘキヲ命セラレ且凡
ソ三年ノ間非常ノ迫害ヲ受ケタレハ遂ニ他方ニ移住セシカ財產ヲ喪
シ生命ヲ害セラル、者甚ク多ク爾來諸國ニ於テ此説ヲ信スル者全ク
絶滅スルニ至ラカレハ復教會ヲ建ルヲ能ハサルナリ

イソグランド及ヒ合衆國ニテハ此派ノ勢力ニ由テ一性派ノ説ヲ信ス
ル者稍ヤ無キニアラカレハ此等ハ此派ノ者ト些ク其説ヲ異ニシ基督
ノ本位ノ教義ニ就キテモ見解同カラス且萬民得救説ヲ信スルニ似タ
リ

〔四〕スウイデンボルグ 此人ハ「ルーテル」教會ナル或監督ノ子ニシテ千
六百八十八年ズウイデンノストシホルムニ生レ其名ヲエマヌエル
ト云ヒ九十二歳ノ高齢ヲ保テロンドンニ於テ死セリ此人ハ初メウ
ツラノ大學校ニ入り卒業ノ後其頃卒業生ノ習慣ニ從ヒ歐羅巴諸國ヲ

遊歴シ許多ノ事ニ觸レ種々ノ學ヲ修メシカ歸國ノ後凡ソ三十年ノ間
鐵山局ノ監督ト爲リタレモ餘暇ヲ得レハ勉メテ種々ノ學科ヲ勉
強シ遂ニ算術化學實體學ニ就キテノ書類ヲ著述セリ一説ニ後年彼ノ
ラアラスカ主張セル星雲説ナル者ハ原ト此人カ首唱セル者ヲ増補改
正セシ者ナリト却説此人ハ嘗テ實體學ヲ研究セシ際靈魂ノ玄奧ナル
ヲテ思考セシカハ監督ノ職ヲ辭シ又三十年許リ其事ニ關スル教系ヲ
組織セント欲シ專ラ之ニ盡力セシカ此人ハ固ヨリ靈魂ヲ以テ靈界ノ
事ヲ曉ル者ナリトハ信仰シタレモ古來玄奧學者ノ説トハ大ニ異ナル
所アリ又其教徒ニ向シ我ハ天啓ニ因テ之ヲ覺レリト稱シ其説ヲ以テ
恰モ新舊約書ノ如ク信仰セシメタリ却説其基督ノ本位ニ就キテ神ノ
本位ハ唯一個ナレモ三位即チ父子聖靈ト顯示シ且其本位ハ一ノ「エホ
ハ」ニシテ是レハ基督ト爲ル暫ク此世ニ下リ人ノ性質ヲ受テタレハ復

神ニ吸收セフレテ之ニ還歸シタレハ基督ハ即チ父ナル神ナリト云ヘ
 リ又其聖書ヲ説明スルニ他ノ學問ヲ以テ説明スルコトハ恰モオリゼン
 ノ如クナレニ其論旨ハ全ク之ト反對シ宇宙ニハ三重ノ球皮アリ其中
 夾ハ人類ノ胎肉ニ存在スル「エホバ」ニテ其第一球皮ハ愛第二球皮ハ真
 理第三球皮ハ自然即チ官能ナルカ此三球皮ハ符合ノ法ニ由テ結集セ
 リト云ヘリ抑モ此派ノ者ハ自ラ「新エルサレム」教會ト稱シ新舊約書及
 ヒ此開祖ノ著書ヲ信仰シ歐羅巴大陸ニ居ル者ハ實ニ僅少ナレヒイ
 ングランド及ヒ合衆國內ニ居住スル者ハ稍ヤ多數ナリ蓋要スルニ何國
 ニ於テモ決シテ盛大トハ云フヘカラサルナリ

第二節 救拯學

教會最初ノ者ハ實ニ能ク基督ノ祭司長タルコトヲ信シ之ヲ以テ舊約時
 代ノ祭司長ノ如ク人民ノ爲メ代求及ヒ供養等一切ノ務ヲ爲ス者ト思

惟セシナリ

然ルニ第三世紀頃彼ノオリゼンハ此教義ヲ一變シ基督ノ祭司長タル
 コトヲ抵抗シ基督ノ贖罪ヲ爲セシ理由ハ唯罪人ヲ改心セシムル爲メ即
 チ人ヲシテ是レニ因テ神ノ大愛ヲ感シ善道ニ赴ク意思ヲ起サシムル
 ニ過キスト云ヒシカ此說ハ其後屢々勢力ヲ教會中ニ得ントスル勢ア
 リシ耳ナラス當今ニ於テモ東合衆國ノ組合教會ノ者ハ博士ブシチル
 及ヒ其他神學者ノ勢力ニ由テ之ヲ受理スルナリ蓋此說ハ實ニ基督ノ
 祭司長タルコトヲ消滅スル耳ナラス萬民得救救ノ如キ論理ニ傾嚮スル
 ナリ

第四世紀頃アタチシテハ此教義ニ就キ基督ノ贖罪ハ神ノ眞實ナル
 爲メニ必要ナル者ナリ即チ神ハ罪人ノ死スヘシト云ヒタレハ代理者
 ナケレハ救フ能ハサルニ由テナリト云ヒシカ是レハ實ニ諸先師ニ卓

越セシ説ナリ

第十一世紀頃カントナルベリノ大監督聖アンセルムハ贖罪ハ神ノ永遠ナル義ノ爲メ必須ナル者ナリト云ヒシカ是レハ實ニ後年改革家ノ唱フル説ニ似タリ蓋此人ノ説ニテハ罪トハ無限ノ奸惡ナレハ無限ノ價直アル贖罪ニアラサレハ償フ能ハス奈何トナレハ神ノ義トハ其屬性ニシテ撤除スヘカラサル者ナレハナリト云ヘリ

第十三世紀頃トマス、アウグウナスハ我儕ハ基督ト立與ナル一致ヲ爲スニ由テ基督ノ功德ノ爲メ義トセラル、ナリト云ヒシカ天主教徒ハ今日ニ至ルマテ此説ヲ信スルナリ蓋此説ニ據レハ人ハ大概愛ノ漸次ニ發達スルニ由テ義ト爲ラル、者ニテ全ク主觀上ノ事ニ屬スレハ此愛ナル者ハ公審判ノ日ニ至ルマテ決シテ完全スル能ハサル者ナレハ必ス其救ヲ得ルハ測ラレサルナリ

ルイテル等ノ改革家ハ聖アンセルムノ説ニ基キ之ヲ開發シ尙ホ其方法マテ論及セリ即ナルイテルハ人ノ義ト爲ラル、ハ其信仰ニ由テ耶穌基督ノ義ヲ受クレハナリト云ヒ其後又神ノ人ヲ義トスル理由ニ就キ信徒信仰ノ目的ハ何ナリヤトノ疑問ヲ設ケ之ハ基督ノ本位ニアリ蓋基督ヲ信仰スレハ其能力及ヒ義等ヲ受クルヲ得レハナリト答ヘタリ但メランクトン等ノ諸學者ハ信仰ノ目的ハ基督ノ受動的ノ義ナリ基督ノ終身行ヒシ義キ生命ハ其自己ノ爲メ要用ナレハ故意ニ行ヒタル受動的ノ義ハ信徒カ其功德ニ與ルヲ得ルナリト云ヘリ

却説此メランクトンノ説ハ多ク人ノ不満足スル説ナレハオシアンデル(第十六世紀ノ季頃セルマニニ出タル神學者)ハ別ニ一説ヲ建テ人ハ基督ヲ信仰スレハ其心ニ基督ノ神性ナル義カ移轉スルナリ人ハ神ノ神性ヲ得ルニ由テ義トセラル、ナリト云ヘリ或者ハ此説ヲ評シ此ハ

トマス、アソクワイナスカ主張セシ天主教ノ主觀說ニ傾嚮セリト云ヘリ
 其後又フテノスニ於テ改革教會中ナル或神學者等カ議論ヲ起セシ等
 ノ爲メ人ノ義ト爲ラル、ハ其身ニ代理者ナル基督ノ義ヲ負荷セラル
 、ニ由テナリトノ教義始メテ明晰ト爲リシカ又此教義ノ爲メ神ハ常
 ニ眞理ニ據リテ決斷スル者ナレハ倚人類ニ罪ナクンハ罪人ト爲スヘ
 カラス蓋アダムノ子孫ノ罪人ト認ラル、所以ハアダムノ墮落ニ由テ
 腐敗シ即チ罪ヲ負荷セシニ由テナリトノ說起リスウイツルランドノ
 神學者ハ此教義及ヒ義ト爲ラル、教義ヲ論理法ニ從ヒテ排列シ倚此
 說ヲ以テ眞理ト爲サハ人ハ義ト爲ラル、以前ニ於テ必ス聖ト爲ラレ
 サルヘカラスト云ヘリ蓋此說ハ決シテ聖書ノ教義ト適合セサル者ナ
 リ且此國ノ神學者ツレンダンハイデケル其他ノ者ハヘルウエテクノ折衷
 定法ト題スル信仰個條ヲ編纂シ基督ノ義ヲ受クルヲテ說明シ基督ノ

義ヲ爲作動的受動的ノ兩種アリ受動的ノ義ニ贖罪ノ爲メニシテ作動
 的ノ義ハ人夫天國ニ入ラズメ爲メナリト云ヘリ却說此說ハ今日改革
 教會中ニ多ク信仰スルモ以テ人ノ義ニ對シテ作動的ノ義ニ對シテ
 「内ルニニ派」派ノ說ニハ基督ノ贖罪ハ原ト救ニ必須ナキ者ニアラサ
 シト神カ之ヲ以テ救ノ方法ト定メシ故ニ要用ナル者ト爲レリ蓋神カ
 他ノ方法ニ由テ救ヲ爲サント欲セハ贖罪ノ用ニ供スヘキ者必ス多種
 アラント

第三節 人間學

一 新教諸教會、福音主義ノ新教諸教會ナルトテルノ說ニ從ヒ以弗
 所書二章一節ニ記載セル如ク人ハ罪ニ死セシ者ニテ死トハ神ニ離
 レルコト信スルナリ蓋ルニテハ之ヲ就キ人ノ意向ハ神ニ關スルニ
 切ニ義務ヲ行フ爲メニハ喪キタル者ナリト主張スレトモ其他ノ改革家

多ク人ノ意向ハ罪ノ爲メニ束縛セラレタリ云ヘリ然レモ意向ハ
 聖靈ニ由テ更生セラル、迄ハ神ニ背叛スル者ナリ神ノ恩惠ハ人類善
 事ヲ爲ス動機トナルニアラス唯之ヲ行ハシムル能力ナリ即チ墮落者
 ノ善ヲ爲スハ神ノ恩惠ニ由ル耳ト云フニ至リテハルテ及ヒ其他
 ノ改革家カ一般ニ信スル所ナリルハ人間學ニ就キテハ堅クア
 ウグステンノ説ヲ墨守シ尙他ニ種々ノ説ヲ建ル者アレハ之ヲ壓伏ス
 ル形状アレリ

二 メランクトン等

メランクトンハルテル在世ノ時ヨリ既ニ一
 個ノ見識ヲ有シタレモ未ダ之ヲ主張セサリシカ其既ニ死スルニ及ヒ
 神ノ撰擇並ニ義ト認ルコト預メ其人ノ爲サントスル信仰ヲ知レルニ
 由テナリト云ヒ又神ハ大人ヲ感化徴召シテ之ニ更生セシム爲メ自ラ
 其意向ヲ神ノ能力ト與ニ作動セシム即チ更生ノ爲メ作動スル者ハ神

言及ヒ聖靈又ハ其人ノ意向ナリト云フ説ヲ以テカトテカ人ハ無力
 ナル者ナリト云ヘル教義ニ換ヘタリ蓋此人カ斯クノ如ク故意ニ卑近
 ナル説ヲ以テルテ爾ノ説ニ換ヘシ所以ハ其頃種々ニ分岐セル諸改
 革家ノ説ヲ拍和セシムル爲メ行ヒタルコトナレモ此説ハ諸説ヲ拍和セ
 シムル能ハサル耳ナラス却テ「ル」テ「ル」教會中ノ紛紜ヲ惹起シ從來「半
 ビレヂア」ノ説ヲ信セシ者等ハ多ク此人ニ從ヒテ相分ル、ニ至レリ
 且セルマニナルエテ神學校ノ教諭及ヒ其他ノ者等ハ之カ爲メ第十六
 世紀ノ季頃ヨリ凡ソ數年ノ間助力單行ノ説ニ就キ爭論ヲ爲セシカメ
 ランクトンノ説ヲ奉ズル者ハ助力説ヲ主張シ彼ノ後年有名ナル世紀
 史ヲ著シタルマッタイアスハ單行説ヲ述ヘタリ然ルニ此マッタイアスハ
 助力説ノ者ヨリ罪トハ人ノ負荷セシ者手將ク其本質ナリヤトノ疑問
 ニ答ヘ其本質ナリト云ヒシ故ニ大ナル侮辱ヲ蒙リ後來又其説ヲ擴張

ス能ハシキニ至レバ蓋此ヲタイアスノ答辭ニ固キ誤謬ナレ其言
 者族ヲレモ倘其説ニ據テハ罪ヲ犯ス者ハ決シテ抑制シ難キモノナレハ
 人類之カ爲メ全ク滅亡ニ至ルベキナリ

三 律法廢棄論者
 此等者律法廢棄論ヲ主張シ律法ハ凡テ基督ノ爲メ廢棄セラレ
 教師ハ人民等ニ唯福音ノミヲ講義シ律法ヲ講義スヘカラス云
 リ然ルニ之ニ賛同スル者モ許多アリ然レドモ其説ノ甚ク危険ニ
 傾嚮スルヲ察シ之ヲ排駁スル律法ハ福音ヲ含蓄シ福音ハ律法ヲ含蓄
 スル者ナリト云ヒシカハアグリコラハ敢テ抵抗スル能ハシキ其過
 ヲ謝シテ同志ヲ解散セリ然ルニ其後ハシテ於テハ羅馬人
 ノ頃又執拗ニ之ヲ主張スル者アリ或ハ其人カ律法ノ權下ニ離レシテ
 抵抗スルガヲサレ神ノ定意ニ據レテ即チ信徒ハ神ノ能力ニ由テ善ク

爲スナリ然レモ罪人ハ決シテ善ク爲ス能ハサル故ニ無益ナリ云
 或ハ基督信徒ハ神ノ律法ト關係ナキ者爲メ其ノ爲メニ叛キ罪
 ナ犯ス能ハサル者ナリ等ト論スル者許多アリ然ルニ此等ハ一教派ヲ
 爲スニ至ラザレモ今日マテ尙ホ諸方ニ散在スルナリ

四 ニ云ク靈魂ノ遞傳創成ニ就キテハ改革後モ屢々之ヲ論スル者ナ
 キニアラサレモカレウソノ古昔ノアウグスティンノ如ク此説ノ是非
 ナ決定スルコトヲ爲サス我儕ハ聖書ニ記載セシ事實ヲ以テ満足スヘ
 キ者ナレハ斯ル贅論ヲ爲スハ實ニ無益ナリ夫レアダムハ神ヨリ人
 類ニ賦與スル一切ノ資稟ヲ托セラレタレモ其身及ヒ子孫ノモノヲ
 併セテ之ヲ喪フタレハ靈魂ハ既ニ其資稟ヲ喪フタリ何ソ遞傳創成
 ニ就キ配慮スルニ暇アラザヤト云ヘリ

四 「アルミニオン」派

〔一〕發端 ホルランドノ教會ハ改革後改革教會ノ說ヲ受ケカルウヤノ
 教義ニ從ヒ、ハイデルベルグノ問答書及ヒベルヤクノ信仰個條ヲ以テ
 其綱領ト爲シタルニ神ノ定意及ヒ原罪恩惠等ノ教義ニ就キテハ最初
 ヨリ種々ノ小議論屢々發起セシカ彼ノジエムスアルミニウスカ出ル
 ニ及ヒ第十七世紀ノ初頃遂ニ一大紛紜ヲ醸成セリ抑モ此アルミニウ
 スナル者ハ千五百六十年ホルランドノ南部ニ生レ成長ノ後ライデン
 及ヒセニウヤノ學校ニ入りテ勉強シ廿六歳ノ時始メテアマステルダム
 ノ或大教會ノ牧師ト爲リシカ其後ライデン學校ノ或神學教諭カ死ス
 ルニ及ヒ其才幹拔群ナルコ由テ千六百〇二年其後任ニ選拔セラレタ
 リ然レハ此人ハ此以前ヨリ屢々「ビレヤアン」類似ノ怪說ヲ述ヘ神學ヲ
 變易セシメアルニ由テアマステルダムノ中會ハ其轉會書ヲ送ルコトヲ
 欲セス暫ク之ヲ拒ミシカ稍クニシテ其學校ノ教諭エマルウスト商議

セシメ此人ニ於テ不満足ナクンハ之ヲ送ルヘシト約シ大學校ノ幹事
 及ヒ大會委員等ノ前ニテ之ヲ爲サシメアルミニウスカエマルウスト
 「ビレヤウス」ノ說ヲ擯斥シアウグスタンノ各教義ヲ受理シヘルヤクノ
 信仰個條ニ適合セサル教授ヲ爲サストノ契約ヲ爲スニ及ヒテ遂ニ其
 轉會書ヲ送リ學校ノ教諭ト爲セリ然ルニ此人ハ始メハ能ク改革教會
 ノ教義ニ從ヒテ教ヘ且其任職セシ翌歲ハカルウヤノ主張セシ義ト爲
 ラル、ア及ヒ信徒ノ固執救ノ自覺等ノ教義ヲ把持スル爲メ一部ノ書
 籍ヲ著述セシ如キ形狀ナレハ後年ニ至リ自ラ我ハ此等ノ教義ヲ研究
 スルニ方リ心中疑ヲ生セリト稱シ且書生ニモ之ヲ公言シ其他其異說
 ヲ傳ニル爲メ改革教會ノ教義ハ其憑証トスル聖書ノ引照ト契合セサ
 ル如ク教ヘ又カルウヤノビーザウルサイヌス等改革教會中ノ有名ナル
 諸學者ヲ輕侮シ却テ之ヲ抵抗セシ諸學者ノ說ヲ熟練ナル者ナリト稱

シ異端家ノ著書ヲ讀ムヘシト^ト柴^ト勵^セシカハ忽チ其卒業生等カ教會ノ
 教義ヲ駁撃スル耳ナラス其他ノ教師等モ亦此異說ニ感動セラシ却テ
 其新教系ノ發見アリシヲ夫喜フ如キ結果ヲ生セリ却說ホルラソド教
 會ハ此頃各州各々大會ヲ開クノ政治ナリシカ諸大會ニテハ此形勢ノ
 危險ナルヲ觀テ深ク憂慮シ委員ヲ遣ハシアルミニウスト商議セシメ
 ノトセシニアルミニウスハ委員等ト其資格ヲ以テ商議スルヲ爲サ
 ス唯テ朋友ノ如ク之ヲ待遇シライデン教會ノ者カ此人ニ其學校同僚
 ト商議セシトテ希望^ヲシテ亦之ヲ謝絶セシカハ此國教會ハ一般ニ
 動搖^シドルトノ中會ハ公然之ヲ譏刺シ其後許多ノ者等ハ政府ニ此人
 ヲ糾明セシトテ請願セシニ此人モ亦其糾明ヲ受ルヲ承諾シテラハ
 遂ニ約束^シ如シ其官吏ノ前ニ於テ商議ヲ開ケリ此時^ニアルミニウスカ此
 人ニ其著書中ヨリ若干條ヲ拔萃シ是レハ基督ノ義ヲ以テ信徒ニ負荷

スルノ教義ヲ否ム者ナリト云ヒシニ此人ハ之ニ答ヘ是レハ我說ノ一
 班ニ就キテ論スル者ナリト云ヒ且双方與ニ書類ヲ以テ持說ヲ開陳セ
 ノトテ請ヘリ因テ官吏ハ其請願ヲ承諾セシニ^ニアルミニウスハ其後持說
 ヲ記載シ之ヲ呈出シタレト此人ハ却テ逡巡シ暫ク遲延セシカ遂ニ病
 ニ罹リ之ヲ記載セシテ死セリ(千六百〇九年)先是此國ノ總理大臣ハ
 ルニウエルドハ深クアルミニウスノ說ヲ贊成セシカ紛紜ノ起ルニ及ヒ
 國會ニ於テ斯ル教會中ノ爭論ヲ爲スハ無益ナリト決議セリ

〔二〕教義
 ライデンノ大學校ノ幹事ハアルミニウスカ死スルニ及ヒソ
 サイヌスノ說ヲ信スル或神學者ヲ以テ其後任ニ舉ケント選擇セシニ
 教會中沸騰シテ敢テ之ヲ承諾セカレハ又更ニ^ニアルミニウスナル者
 ヲ舉ケテ其後任ト爲セリ此人ハ其頃此學校ヲ卒業セシ者ナルカ是レ
 ヨリ「アルミニウス」派ノ首領ト爲レリ却說「アルミニウス」派ノ者ハ此歲

其派ノ意見書五條ヲ記載シ之ヲ國會ニ呈出セシカ其概要ハ次ノ如シ
 (一)神ハ太初ヨリ修身基督ヲ信仰シテ變易セサル者ヲ預知シ之ヲ救拯
 シ又其徵召ニ從ハス修身之ヲ信仰セサル者ハ永遠ノ刑ニ放任スルコ
 ニ決定セリ(二)耶穌基督ハ其死ヲ以テ人類一般及ヒ各自ノ罪ヲ贖ヘリ
 然レモ信徒ニアラサル者ハ其贖罪ノ益ヲ受クル能ハサルナリ(三)人ハ
 自己及ヒ其自由ナル意向ニ由テ其心ニ信仰ヲ起ス能ハス却テ其性質
 ハ惡ニシテ善ヲ考ヘ之ヲ行フニ足ラサル者ナリ故ニ基督ノ爲メ聖靈
 ヲ以テ神ヨリ更生ヲ受クルコト必須ナリ(四)神ノ恩惠即チ人心ヲ平愈セ
 シムル能力ハ凡ヘテ善ヲ創造進歩且完全ナラシムル者ナリ故ニ人ノ
 善行ハ神及ヒ其恩惠ニ歸スヘシ蓋此恩惠ハ人ノ意向ヲ抑ヘ強キテ之
 ヲ行ハシムルニアラサレモ亦其硬頸ナル意向ヲ以テ此恩惠ヲ逐
 斥スル能ハサルニアラス(五)信仰ヲ以テ基督ト一致セシ者ハ神ヨリ凡

ヘテノ惡ニ克ツ爲メ充分ナル勢力ヲ受ルナリ蓋此者等ト雖モ其恩惠
 中ヨリ墮落シテ信仰ヲ喪フヤ否ハ未ダ明晰ナラサレハ必ス謹テ聖書
 ヲ研究シ之ヲ了解スヘキナリトアリ却説「カルウヰン」學派ノ者ハ此意見
 書ヲ評シアルミニウスノ教義ハ茲ニ公言セル五條ノ明文ニ據リテ測
 知スルコトハ容易ニアラサレハ宜シ其常ニ談話スル所ノ事及ヒ其考按
 ニ就ギテ測知スヘシト云ヒシカ「ル」教會ノ歴史家モスハイムハ
 此評語ニ就キ人心ノ裁判ハ神ニアラサレハ固ヨリ能ハサルコトナレモ
 倘人類ニシテ「アルミニウス」派ノ重要ナル信徒カ後來教導セシ教義ノ
 蘊奧ヲ測知スルヲ得ルトセハ此評語ハ實ニ適當ナル評ナラント云ヘ
 リ然ルニ「アルミニウス」派ニテ後年著述セシ者ヲ觀ルニ實ニ此評語ノ
 如ク右五條ノ外尙ホ種々ノ教義アリ即チ「アルミニウス」ノ罪ニ唯其一身ニ歸
 スル者ナリ原罪トハ「アルミニウス」ノ子孫カ其祖先ヨリ繼續スル惡ナレバ罰

スヘキ罪ト云フヘカラス原罪ノ腐敗ハ其肉體及ヒ智力ニ歸スル者
 ナレトモ意向ニハ及ハサルナリ入カ遺傳ノ腐敗ニ由テ無能者ト爲レル
 ハ實ニ不幸ノ事ナレトモ之ヲ罪愆トハ云フヘカラス且人ハ之カ爲メ神
 ノ恩惠ヲ受クサレハ善良完全者ト爲ルヘキ理由アラカルナリ然レモ
 倚神ヨリ助成ノ恩惠ヲ受クサレハ善行ヲ爲スコト得ヘシ神カ聖靈ヲ與
 ニルト否トハ其人ノ意向カ之ト偕ニ作動スルヤ否ヤニ由ル者ニテ其
 結果ノ有無モ其恩惠ヲ正ク使用スルト否トニ由ルナリ人類ハ凡ヘテ
 助成ノ恩惠ヲ受ルナリ人ハ更生者ト雖モ或ヒハ墮落スルナラン等ナ
 リ却説アルミニオン派ノ者ハ嘗テカルウキ派ノ者ヲ指シ彼ハ聖書ヲ
 説明スルニ方テ其胸中ニ先ツ神ノ主權ト云ヘル一公準ヲ置ケモ我儕
 ハ決シテ斯クノ如キコトヲ稱セシカ是レハ實ニ其派ノ教義ニハ意
 向ノ自由ト云ヘル一公準ヲ置クコトヲ忘却セシ者ナラン

〔三〕紛議

ホルランドノ教會ハ千六百〇九年頃ヨリ屢々國會ノ干涉ヲ

受ケシニ由テ甚ク其自由ヲ喪フナリ例ヘハ國會各州ニテ大會ヲ開
 ヲクテ禁シテ教義ニ關スル議論ヲ爲サシメス其頃アルミニオン派ノ
 者カ會議ヲ開キシ時ハ之ヲ默許シタルモ教會ニテ大會ヲ開カントテ
 請願セシカハ其願書ヲ斥ケ教會ニテシサイヌスノ説ヲ主張スル或信
 徒ヲ放逐セシカハ中會ニ其人ヲ復歸セシムヘシト命セリ蓋是レハ中
 會ニテ謝絶セシナリ且國會ハ教師ヲ任スルニ其人カ唯アルミニオン
 派ノ意見書五條ヲ信スレハ之ヲ以テ満足スヘシトノ布告ヲ出シ議義
 ニ於テ此五條ノ教義ヲ駁撃スルコト及ヒカルウキ派アルミニウスノ兩派
 互ニ他ノ教義ヲ排駁スルコトヲ禁シアムステルダムノ或商賈カアルミ
 ニオン派ノ説ヲ駁撃セシカハ之カ爲メ其商業ヲ禁止シ且或教師ノ職
 ヲ剝奪セリ又アルミニオン派ノ者ハ嘗テカルウキ派ノ説ヲ信スル者ト

區別ヲ建ル爲メ別ニ其拜禮會ヲ設ケ或時ハ騷亂ヲ起サント謀リ總理大臣バルニウエルドモ其軍兵ヲ募集セシニ務會ノ議員等ハ之ヲ以テ其人民ノ自由ヲ奪フ者ト抗論セリイソングランド王ジョージ第一ハ其國ニ駐紮セル此國ノ公使ニテアルミニオン派ノ有名ナル歴史家グロウウスヨリ勸奨セラレ千六百十三年此國ノ國會ニ教法上ニ關スル爭論ヲ禁スヘシトノ書簡ヲ贈リ之ヲ忠告セシカ其後自ラ我ハシロシウスノ爲メホルランドノ形勢ヲ欺カレタリト云ヘリ

〔四〕ドルトノ議會 「アルミニオン派」ノ或者ハアルミニウスノ在世頃ヨリ議會ヲ開キ教義ヲ決定セシトテ大ニ願望シタルニ其後深ク其結局ヲ考定スルニ及ヒ却テ之ヲ開クトテ沮拒シタリ蓋教會ノ紛議ハ爾來倍々増長シ必ズ議會ヲ開カサレハ國家ノ平和ヲ保ツヘカラサル形狀ト爲リタルハ千六百十八年マウリスカオレンゾデノ侯位ヲ履ムニ及ヒ

遂ニ之ヲ召集セリ却說此マウリスナル者ハ彼ノ有名ナルオレンゾデ侯ウイリアムノ子ニシテ今者其兄ノ死スルニ由テ之ニ代リ其侯位ヲ履ミ且議政官ト爲リシカ此人カカルウヰノ派ニ左袒セシ所以ハ唯其頃此派ノ勢力甚ク熾ナルニ由テ之ニ附和シ自家ノ權力ヲ張ラント欲セシ者ニテ中心ヨリ道ヲ信セシニハアラサルヘシ

却說此議會ハ千六百十八年十一月ヨリホルランドノ南部ナルドルトノ練兵所ニ於テ開キシカ各州ヨリ來レル議員ハ牧師卅一人長老廿二人神學校ノ教諭五人ナリ其他國會議員十八人顧問ノ爲メ出會セシカ是レハ此國教會ニテ許サ、ル規則ナレ止ムヲ得ス出會セシメシナリ且マウリスハ此時其國教會ノ紛議ヲ靖寧セシムル爲メ歐羅巴諸國ノ改革教會ニモ議員ノ派出ヲ願望セシニ由テセルマニスウイッラソンドイソングランドヨリ總計廿八人來會シ且フランスヨリモ其議員四人

ヲ遣ハサントセシカ國王ル第十四ノ命ニ因テ中止セリ却説此議會
 ノ議長シヨノボゲルマシハ天資英敏ニシテ甚ク決斷アル者ナレハ
 ルミニオン派ノ者ハ此人ヲ指シテ暴虐者ト稱セリ議會ハ諸國人ニ了
 解シ易カラシメシ爲メ專ララテノ語ヲ使用シ凡ソ六月間ニテ閉會セ
 シカ其間秘密會ヲ爲セシコハ實ニ僅々數回ニシテ其他ハ大概傍聴ヲ
 許セシカ傍聴ニ來ル者甚ク多シ其議案ハ神學者六人ヲ舉ケテ聖書翻
 譯委員ト爲スト牧師ヲ選舉スル方法兒童ニ問答書ヲ教授スルコト及ヒ
 偶像教徒ノ兒童ニ「バプテスマ」ヲ施スト等種々アリタレハ重ニ「アルミ
 ニオン」派ノ爲メ起レル事ニ屬セリ山テ此「アルミニオン」派ノ者ハ其第
 四次ノ議會ヨリ召喚セラレシカ此派ノ者ハ此議會ヲ指シ「カルウヤン」派
 ナリテ包括セル者ナリト稱シ且其被告人ノ如キ待遇ヲ受ケルヲ怨ミ
 最初ハ敢テ承允セサリシカ其後遂ニエピスコピウスヲ答辨者總代

ト爲シ其他十二人ノ者ト偕ニ出會セシメシカ此人ハ議會ヨリ其自ラ
 信スル所ノ教義ヲ辨明スヘシト論サレタレハ數日ノ間甚ク勢力アル
 説ヲ以テ唯「カルウヤン」ノ教義ニ誤謬アルコトヲ指摘シ議員等カ教會ノ
 教義ハ既ニ確定セシ者ニテ一般ニ受理スル所ナレハ又茲ニ論スルコ
 ト要セズ「アルミニオン」派ノ教義ハ輒今新ク起レル者ナレハ其教徒
 タル者ハ荷モ力ノ及フ限リ聖書ヲ證據トシテ維持スヘキコトニアラス
 ヤト云ヒタレハ敢テ之ヲ用キス尙ホ前説ヲ主張セシカハ議會ハ此等
 ノ者ヲ皆其會場ヨリ驅逐セリ一説ニ此者等自ラ議會ヲ退去アリトア
 リ其後議員等ハ「アルミニオン」派ノ書ニ據リ其説ヲ聖書ノ教義ニ比較
 對照シイングラントセルマニノ議員等數人カ承諾セサルニ關ハラス
 遂ニ投票ヲ以テ之ヲ擯斥スルコトニ決議セシカホルランドノ議員等ハ
 此議會ノ閉場セシ後モ何ホ暫ク殘留シテ種々其國教會ノ事ヲ商議セ

此却説此議會ニ來ルイノグヲシテ或監督ハ我々我從來ノ經驗ニ由ルニ此議會ノ外ハ天國ニ近キコトヲ云ヒセルマニシテ或議員ハ我々此議會ニ於テ神ノ如キ者人ノ如キ者惡魔ノ如キ者ヲ觀タリト云ヘリ蓋是レハ此人カ彼ノ有名ナル議論家エマールスト議論セシ爲メナラシ抑モ此議會解散後議員等宴會ヲ爲セシトニ就キ「アルミニオン」派ノ者ハ痛ク之ヲ詆罵スレハ議員等カ此時醉興セシ證據アラカルナリ「アルミニオン」派ノ教師等ハ既ニ擯斥セラレタルニ由テ其聖職ヲ喪キ他國ニ移住スル者尠カラズ其教徒モ亦多ク異邦ニ轉居セシカ或ヒハ之カ爲メ窘迫ニ遇ヒシ者モ尠カラズ特ニバルニウルド及ヒグロシウス二人ハ獄舎ニ繋囚セラレグロシウスハ其後脱檻シテフランスニ奔リタルニハバルニウルドハ遂ニ斬首セラレタリ却説此等迫害ニ就キテハ決シテ「カルウソン」派ノ者カ壓制セシトナシトハ斷言スル能ハサレハ

甚ク嚴刻ニ流シタルハ大概マウリウスカ其政權ヲ以テ行ヒシ者ニテ敢テ教會ノ與知セサル所ナリ却説「アルミニオン」派ノ者ハマウリスノ死後政府ノ赦免ヲ受テ再ヒ本國ニ歸ルニ及ビ教會及ヒ神學校ヲ建設シ特ニ其「アルムステルダム」ニ建設セル學校ハ有名ナル神學者等ノ在職セシ爲メ甚ク世ニ顯ハルハニ至リタルニ其派全體ノ勢力ニ就キテハ其頃合理論ニ傾嚮セシ爲メニヤ赦免前ニ及フ能ハサルナリエビスコピウスハ後年ニ至リテ此派ノ教系ヲ組織セシカ是レハ大概カルウソンノ教義ヲ排駁セシ者ナリ

アルミニウスノ教義ハ固ヨリイノグランドノ國教ノ綱領トスル彼ノ三十九條ト契合スル者ニアラザレバ大ニ其國ニ流行シ教師等ハ多ク之ヲ信仰シ今日ニ至ルマテ尙ホ依然タルカ如シ且彼ノ有名ナルウエリ兄弟此教義ニ由テ第十八世紀頃メソヂカ夫ト教會ヲ建設セリ蓋

此教會の教義溫和ナルヲ以テ之ヲ派ト稱スヘキ者アリ

五 新學派神學 此神學ハフランドタル改革教會ノ神學者アリト云ヘル者カサウムル神學校ニテ首唱セル説ニシテカルウシアルニウスノ中間ニ属スル者ナリ抑モ此國ノ改革教會ハ千六百廿三年大會議ニテドレルト議會ノ教典ヲ受理スルコトニ決議シタレハ其頃サウムル神學校ノ教諭ニカミロンナル者アリ原トスコットランドノ神學者ニシテ此大會以前ヨリ稍ヤ溫和ナル「カルウシ」派ノ教義ヲ教授セシカ其死スルニ及ヒ其徒弟アミロ等三人ノ者カ相尋ヒテ其教諭ト爲リ千六百卅三年熾メニ師説ヲ唱道セシニ生徒大ニ増加シ第十七世紀ノ中葉ニ歐羅巴ニテ甚ク有名ナル者ト爲レリ此神學ノ概要ヲ舉クルニ救拯ノ教義ニ就キテハ一ノ假定説ヲ設ケ神ハ凡ヘテノ人類ヲ救ハメト切望セシナリ但全世界中ヨリ或一部ノ人民ヲ選擇シテ之ヲ救拯スル其

恩惠ハ全世界人類ヲ救ハントスル恩惠ト同一ナル者ナリト謂ノ教義ニ就キテ神カ罪ヲ悔改セサル者ヲ永遠ナル罰ニ定ムルハ自己ノ義ニ稱ヒシコトヲ明カニ顯示セシトシテ目的ニ由テナリ蓋是レヲ證明スル爲メニハ罪人ノ職務及ヒ其罪ヲ顯サシムルヘカラセラルナリ定意ノ教義ニ就キテ神ハ人類ヲ創造セシト決定セシ時之ニ自由ナル意向ヲ與ヘ其墮落スルコトヲ許シ其後又全世界人類ノ犯セシ罪ヲ爲メ贖キ以テ救テ爲スコトヲ決定セシ故ニ人類ハ凡ヘテ救テ得ルヘキ者ト爲リ然レモ人類ハ其賦與セラレ、恩惠ヲ拒ムニ由テ神自ラ其主權ヲ以テ或者テ撰擇シ之ヲ救ヘ他ハ其意向ニ從ヒテ滅ニ至ルコトヲ放任セリ恩惠ノ教義ニ就キテ恩惠ハ常ニ神言中ニ憑レシ故ニ神言ノ講義ヲ聽聞スル時基督ヲ信セントノ意向ヲ自由ナラシムル能力ヲ得ルナラヌウグステンノ如ク恩惠ハ神言ト別種ノ作動ヲ爲スベシ云々、恩惠者魔術

如シ説ク者ナリ云ヒ且夫ニ自然能力即チ教ヲ聞キテ基督ヲ信
 望ル能力アリ然ルニ基督ヲ受テ信仰セザルハ唯其之ヲ受クルヲ
 切望セザルニ由ルト云ハ是レチ道義無能力ト云ハサルヘカラスト
 述ベタリ因テ歐羅巴諸國ノ改革教會ノ者ハ此人カ此等ノ教義ヲ主張
 スルコトニ抵抗シ且其大會ニ上告セシニ大會ハ此人ニ後來神ニ凡ヘテ
 及人類ヲ救フ定意アリ之ニ充分ナル恩恵ヲ與ユルコト及ヒ基督ハ一般
 人類ノ爲メ死セリ等ノ語ヲ用キルコトヲ諫戒シテ後之ヲ放免セリ却説
 此神學ハ其後漸々此國ノ改革教會中ニ行ハレ遂ニ大會ニテ其正教ト
 決議セシ耳ナラスセルマニノ改革教會中ニモ多ク之ヲ信スル者アリ
 又合衆國ノ組合教會長老教會中ニモ多ク之ニ類似スル教義ヲ受
 理シ彼ノ有名ナル註解家ハルシス等ハ即チ此説ヲ守ルナリ
六 契約神學 此神學ハ第十七世紀頃セルマニノ神學者シモン、ユシ

シヨニ云クナル者カ主張セシ説ナリ却説此人ハ高名ナル東方學者ニシ
 テ始メハ家居シテ生徒ヲ教授セシカ千五百五十年ホルランナラシ
 イテソ大學校ニ聘セラレ其教論ト爲リ爾來十九年間此校ニアリテ彼
 ノ後年甚々有名ナル契約説要畧ナル書ヲ著述セリ却説其説ノ要点ヲ
 擧クレンハ即チ聖書ノ根本ナル教義ハ唯神ノミニ存スルニアラス又人
 ノミニ存スルニアラス契約ニ由テ結合セル神人間ニ存スル者ナリ且
 此契約ハ聖書ノ出ル本源ニシテ聖書ノ明文ノ爲メ起レルニアラス新
 舊約書ハ即チ此契約ヲ漸々開發セシムル者ニテ倘此契約ナケレハ聖
 書モ亦隨テアラサルナリ神カ契約ニ關係シテ作動スルコトハ我儕聖
 書ニ據リテ之ヲ測知スルコトヲ得レハ契約ニ關係ナキ其他ノ絶對上ノ
 事ニ至リテハ之ヲ測知スル能ハサルナリト却説此人ハ聖書ハ奈何ニ
 説明スルヤノ問題ニ就キテハ歴史上ノ事ト爲シテ説明セシカ又其

聖書ヲ説明スル爲メ一以緊要ナル規則ヲ設ケ聖書ハ必ク其前後ノ文
 意ニ照ラシテ説明スルベシト云ヘリ蓋是レハ中古ノ煩瑣哲學者カ爲セ
 シ方法ニ對スル者ニ甚ク便法ナレバ其自ラ使用スルヨリ方非テ唯
 其前後ノ文意ヲ通觀スル耳オラス全篇凡テ契約ノ意ニ基キテ説明
 スル故甚ク濫用ニ流レ基督ノ表號及ヒ預言ニアラセズ者ヲ以テ其表
 號及ヒ預言ナリト稱ス然レニ至リテハ世人ノ爲メ此人ハ基督ヲ各舊
 約聖書中ニ發見スル者ナリト喚ハシタリ蓋此契約神學ハ此人ニ始ル
 ニアラヌ第十六世紀頃ヨリ彼ノウルヲ作スルヲ輔ケテハイデルベル
 グノ問答書ヲ編纂セバ同地ノ神學者オレウアヌスオカ者既ニ之ヲ首
 唱セシナリ然レニ當時ハ之ヲ受ク者甚ク鮮カリ然レ今者此人及ヒ
 此學派ノ者カ唱道スルニ及ビ大ニ改革教會中ニ行ハレ之カ爲メ一旦
 煩瑣哲學ノ爲メ陸沉セシ聖書ヲ挽回シ真正ナル歷史上ノ者ト爲シ眞

正ナル註解及ヒ神學ヲ進歩セシメ且救拯學ノ根本ナル教義ハ基督ノ
 贖罪ニ在ルヲ明カニシ實ニ教會ノ爲メ善良ニ赴ク輔翼ト爲レリ
 因ニ云ク新教諸教會興隆ノ後第十七世紀頃ノセルマコナルヘレム
 スト神學校ノ教諭等ヲ首メ其他處々ニ於テ諸教會合併ヲ起圖ス
 ル者尠カラヌ特ニ同神學校ノ教諭デヨルザカリキストスハ甚ク其
 事ニ熱心シ自ラ歐羅巴諸國ヲ遍歴シ諸教會ノ綱領ヲ研究シ又其重
 要ナル者等ト交際シ之ヲ計畫セシニ其頃イギリスノ國教ノ或者
 等ハ後世教會ノ模範トスヘキ者ハ最初ヨリ第五世紀迄ノ教會ノ形
 狀ナリト思考セシガハカリキストスハ是レヨリ其考案ニ基キ最初
 五世紀間ノ議會ニ於テ決議セル諸個條ヲ折衷シ新ク一信仰個條
 ナ設定セシト考ヘタリ然レニ此時改革教會及ヒ「ルター」教會「ロマ」
 教會一神派ノ或者等ハ親ク其朋友ナレバ其新ク起草セル信仰個

條ニ諸教會ノ教義ヲ撤除スルヲ觀テ深ク疑念ヲ生シ「ロマ」教會ノ者ハ此人ヲ以テ我教會ノ教義ヲ排撃スル者ト思ヒ「ルーテル」教會ノ者ハ此人ヲ以テ竊カニ改革教會ノ教義ヲ信スル者ナラント疑ヒ其他皆各疑念ヲ起サ、ル者ナケレハ其後ポルランド王カ此目的ヲ達スル爲メ千六百四十五年諸教會ノ委員ヲ集メ商議ヲ爲シタレハ委員等皆毫モ酌量スルコトアラサレハ遂ニ整頓スル能ハサリシナリ

第五章 合理論

總論

合理論トハ人類カ其智力ニ由テ神ノ默示セシ真理ニ背叛セシ者ナリ蓋思想ノ本源ハ神人二種ノ智力ニシテ人ノ智力ハ理學等ヲ起シ神ノ智力ハ默示ヲ爲ス者ナレハ合理論者ハ唯理性及ヒ自然法ニ適スル者ノミヲ以テ真理トスルナリ例ヘハ其說ニ神ニ說話力アリテ理性アル者ニ說話スルコトアラハ唯其人類ニテ了解セラル、者ノミヲ受ケテ真理ト爲スヘシ人ハ神ヨリ其理性ヲ自由ナル者ト爲サレタレハ默示ニ束縛セラル者ニアラストアリ然レハ此等ノ說ハ皆智識ヲ專ラニシ信仰ヲ後ニスル者ナリ

此合理論ハ基督教ニ抵抗スル者ナレハ亦其教會ニ行ハル、所以ヲ釋スルニ是レハ專ラ教會ニテ真正ナル信仰ヲ喪キシニ由テナリ蓋第十

七世紀頃此合理論ノセルマニ及ヒインヅランドニ起ルニ方リ教會ハ
 專ラ虛文ヲ務メ教師ヲ選任スルニ更生ノ必要ナルヲ知ラス信仰個
 條ハ純正ナレモ全ク死物ト爲リ懲戒ハ唯其綱領ニ違犯セシ者ノミニ
 加エレモ其他平生ノ品行ニ至リテ敢テ之ヲ顧ルヲナク且此頃エラス
 テアン政治ノ時ナレハ政府ノ手ニテ之ヲ行ヒ安息日ハ世俗ノ休日ト
 爲リ兒童ニ教誨スルヲ怠ル等ノ形狀ナレハ世人ハ斯ル死物同様ノ
 正教ニ安スル能ハス遂ニ合理論ニ傾嚮セシナリ
 歷史上ニ於テ理學カ基督教ニ競争セシ凡ソ四次アリ即チ(一)古昔ノ
 偶像教哲學(二)此ハセルス、ルシアン等ノ諸學者及ヒ「新プロト」派ノ者
 ナリ就中此「新プロト」派ノ者ハ基督教ト種々ノ哲學ヲ一致セント起圖
 セシ故神ノ默示セル憑據ヲ消滅セリ(二)中古ノ煩瑣哲學、此ハ神言ヲ
 教授スルニ理學ノ方式ニ據リシ故人ヲ冥想議論ニ陷レタリ(三)近古ノ

文學、此ハ改革時代ヨリ起ル者ニテ最初ニ學問ヲ獎勵シ甚ク善良ナ
 ル者ナリタリモ其後遂ニ學問ヲ以テ教法ニ代用スルニ至レリ(四)現今
 ノ合理論、此ハ理性ヲ以テ真理ノ主宰ト爲ル者ニテ第十七世紀頃ヨ
 リ「歐羅巴」諸國ニ起リ今日マテ連續セシカ此者ハ甚ク恐ルヘキ弊害ア
 レモ最初之ヲ首唱セシ者ハ恐クハ之ヲ察セサリシナラン
 此合理論ハ精ク細別スル能ハサレモ大略三種アリ即チ(一)形而上(二)形
 而下(三)批評是レナリ
 第一節 形而上
 此合理論ハ唯心論凡神論ノ傾嚮アル者ニテ凡ソ三種アリ即チ左ク如
 シ
 一、玄奧、此ハ大概改革時代ニ流行セリ者ニテ主觀的客觀的又三種
 アリ客觀的ニ玄奧、其ハ彼ノ有名ナル「オースティン」著述セル「天國

及ヒ教會以定例ニ基キ人ハ沉思ノ力ニ由テ神ニ復歸セラル者ト云フ
 說ニテ客觀的ノ玄奧トシテ人身ハ一小世界トシテ能ク其心理ヲ反省ス
 レハ心外ノ宇宙ヲ了解スヘシト云フ說ナリ例ヘハ彼ノパーメノ說ニ
 テ我ハ能ク主觀ヲ考按セシテ客觀ノ事物ヲ了解セリ蓋主觀ハ客觀
 ノ影ナレハナリト云ヘリ因テ此說ヲ擴充スレハ人ハ原ト神ヨリ出タ
 ル者ナレカ故ニ全ク之ニ委託スレハ再ヒ歸ルヲ得ル者ナレハ人類
 全宇宙ト一致セサルヘカラストノ說ニ至ルナリ然レハ此等ノ說ハ廣
 シ世ニ行ハレサルナリ

二 性理學者

(一) 聖方死ト此ハカフランニ生レ最初ニシユイ派ノ學校ニ入
 リテ其教ノ獨斷ナルヲ満足スル能ハス別ニ心理ノ一派ヲ發明
 セテト欲シ十八歳ノ時ヨリ專ラ其業ニ從事セシカ遂ニ之ガ爲メ迫害

ヲ受テ暫クホルヲ以テ其後或者ノ招キニ由テスウェーデンニ至
 リテ居ル日數年ヲシテ死セリ時年千六百五十年ナリ却說此人ノ說ハ意
 識ヲ本トスル者ニテ即チ人類ノ觀念ノ皆其真否未ダ明亮ナラサル者
 ナレハ之ヲ探究セシテ欲セハ先ニ其一切ノ觀念ヲ疑ハサルヘカラス
 奈何トナレハ真正ナル智識ノ基礎ハ凡ヘテ疑念ナレハナリ最初ヨリ
 存在スル者ハ考按ナリ奈何トナレハ疑念ヲ起スル考按ナレハナリト
 然レハ既ニ考按アレハ考按ヲ爲ス者モ亦無カルヘカラス故ニ此人ハ
 常ニ我ハ考按ヲ爲スカ故ニ存在セリト云ヘリ且其說ニ考按ハ他ノ有
 形物ノ如ク形質アル者ニアラサレハ其本源ナル心意ハ無形ナル者ナ
 リ思想ノ眞偽ヲ定ムル方法ハ凡テ意識ノ明暗ニ屬スルカ故ニ其意
 識明カラハ即チ真ナリ我儕ハ意識ニ由テ永遠完全ナル存在者トアル
 コトヲ知ル神ハ必ク存在シ且其完全ナル屬性モ亦皆有ラサルヘカラス

ス人ハ此完全ナル神ノ創造是ルニ一切ノ真理及ヒ自然法即チ理學數學
 等ノ原理ニ據ラサルヘカラス云ヘカ却說此人多論理ヲ斯ク意識ニ
 由テ神ノ存在ヲ證シ神ノ存在ニ由テ意識ノ眞ナルヲ證スルカ故ニ
 世ニ之ヲ循環論理ト稱スルナリ

〔三〕スベノザ 此人ハユダヤ人種ニシテフルラシヤニ生シ生涯亦貧ニ
 シテ且屢々迫害ヲ蒙リシ於千六百七十七年死セリ却說此人ノ説ハ
 動ルトノ説ニ基ク者ニテ我儕ノ心意凡ハ之ヲ變更ヲ觀ル毎ニ必ス
 自然生ナル一定ノ存在者ヲ求テ得ルニカラズ倫能ク實ニ之ヲ了解ス
 レハ一切ノ外物モ皆存在者ヲ顯示セラズナリテ曉知スヘシ即チ本
 質ハ唯一個ニシテ此ニ本質ヲ決シテ他ノ本質ヲ創造スル能ハズ宇宙
 ハ神ヨリ離シタル者ニアラズ宇宙及ヒ萬有ハ皆理性ヲ從テ變更ス
 ル者ナリトアリ此論理ハ實ニ凡神論及ヒ宿命論ヲ歸スルナリ

〔三〕ライプニツ 此人ハ天資聰明ニシテベルリンノ學校ニ聘セラレ其
 總長ト爲リ千七百十六年死セシカ生前著述セシ所著書ハ皆短簡ナル
 者ナリ却說此人ハメカルトノ説ニ從ヒスベシゾフ誤謬ヲ矯正セント
 謀リシカ其説ニスベノザカ主張セシ唯一存在論ハ固ヨリ誤説ニアラ
 サレトモ此唯一ナル存在者ハ全知至善ニシテ且自由ナル意向ヲ有スル
 ナリテ其能ク創造スヘキ種々ノ宇宙中ヨリ最モ善良ナル者ヲ擇ミ今
 日ノ如キ宇宙ヲ創造セリ蓋此宇宙間ニ惡ノ存在スル所以ハ必ス其須
 要ナルニ由テナリトアリ却說此説ハ所謂樂天説ニシテ萬有ハ皆善良
 ニシテ且存在セサルヘカラスナルトノ主義ナレハ固ヨリ聖書ノ神カ其
 榮光ヲ顯ハス爲メニ萬物ヲ創造セリトノ教義ニ適ハサル耳ナラス神
 ノ自由ナル意向アルコトモ否ム者ナリ奈何トナレハ神ノ行フ所ハ必
 ス善良ナルヘカラストスレハナリ蓋此人ハ或時斯クノ如ク論スレ

際ノ理性アルカ故ニ倫理法及ヒ未來ノ審判並ニ此等ヲ主張スル存在者アルヲ信スト云ヘリ然レモ是レハ實ニ不通ノ論ニシテ尙單純理性カ果シテ實説ナラハ實際理性ナル者ノアルコトハ決シテ承認スヘカクナシ奈何トナレハ此者尙悟性内ニアリトモ證據ヲ示スヘカラス又悟性外ニアリトモハ無形ノ物質ナレハ得テ知ルヘカクナレハナリ蓋カソトハ終身此論理ノ斯クノ如ク矛盾スルコトヲ悟ラサリシカモ其徒弟等ニ至リテハ能ク之ヲ了解セリ

[五] フイクテ 此人ハゼルマニ人ニテ第十八世紀頃ベルリンニ於テ書生ヲ教導セシカ千八百十四年死セリ却説此人ノ説ハ唯心論ニシテ即チ我儕ノ智識ハ意識ニ由テ生スル主觀上ノ者ナレハ物質ノ有無ハ決シテ明亮ナラスカソトカ此存在ヲ論セシハ假定説ニ過キサルナリ宇宙及ヒ神等ノ如キ客觀上ノ者ハ皆人ノ心意ヨリ起ル者ナリ觀念ハ漸々

心意ノ發達スルニ從ヒ共ニ發達スル者ナリ人類ハ永遠ナル心意ノ顯出スル者ナリト云ヘリ却説此説ノ如ク一切ノ物ハ唯心意ヲ以テノミ知ル者トモハ唯物質ノミナラス心意モ亦知ルヘカクナル論理ニ至レバ此人ハ遂ニ之ヲ了解セカリシナリ

[六] シエルリング 此人ハフイクテノ高弟ニシテベルリンノ其他二三學校ノ教諭ト爲リシカ千八百五十四年死セリ却説此人ノ説ハ凡神論ニシテ即チ我儕ハ直覺力ヲ以テ絶對者ヲ知ルナリ萬物ハ絶對者ノ發達トシ者ニテ始メハ意識ナキ者ナレモ自然ニ意識アル者即チ心意ト爲レリ故ニ人ハ絶對者ノ最モ善良ニ發達セル者ナリ絶對者ハ人ト爲レバ後始メテ意識ヲ具備シタレハ人類ハ即チ神ノ顯出セル者ナリト云ヒシカ此説ハ能クセルマニ中ニ行ハレタリ

[七] ヘゲル 此人ハゼルマニ人ニテ神學校ニ在ル頃ヨリ暫クシニ

ノグト交リ其後與ニ連合シテ勉學セシカ其説ヲ異ニスルニ及ヒ獨諸
 方ニ遊ヒ生徒ヲ教授シ後又ベルリニ於テ其一家ノ教系ヲ教授セシ
 カ千八百三十一年死セリ却説此人ノ説ハ實ニ曖昧ナル者ナレトモ大概
 古昔ノ萬有神教ト類似セシカ其要略ハ即チ萬物ハ凡ヘテ觀念ノ規則
 ニ從ヒテ發達スル者ナリ心意及ヒ觀念ハ同一物ニシテ相離ル、能ハ
 ス是レ即チ神ナリ神ハ觀念ノ發達スルニ從ヒ自ラ曉知シ又人類意識
 ノ發達スルニ由テ自ラ認許スルナリト云ヘリ蓋此觀念ニ就キテハ其
 著述セシ或書中ニハ人類ノ觀念ノ如ク記載スレハ恐クハ萬有ノ成立
 ナ以テ主觀上ノ者ノ如ク信セシナラン又此人ハ論理ノ眞理所在ヲ探
 究スル緊要物ナルコト及ヒ信仰ノ緊要ナルコト三位一體ノ說等ヲ説キタ
 レ其信仰ノ目的トハ唯論理ニ由テ知ル所ノ理論ニシテ三位一體ヲ
 哲學上ノ連續ナリト述ヘタリ但此人ハ其説ノ斯クノ如クナルニ關ハ

ラス基督教ヲ輔翼スル志アリ終身「ル」教會ノ中ニ屬シ且之カ爲
 メ屢々盡力セシハ實ニ奇ト云フヘシ抑モ此人ノ教系ハ一時殆ントセ
 ルマニ全國ヲ壓倒スル勢力アリタレトモ其死後ニ至リ勢力俄カニ衰へ
 派中三黨ニ分レタリ然ニ其左黨ハ有神論ニシテ人心ニハ皆教法的ノ
 情操アリテ哲學ヲ管轄スルナリト云ヒ中央黨ハ哲學ヲ以テ神學ト同
 一ナリト稱シ右黨ハ無神論ニシテ哲學ハ無上權ナリ人ハ皆觀念ノ規
 則ニ從ハサルヘカラスト稱スレトモ各自皆其説ヲ以テヘゲルノ正統ト
 稱スルナリ蓋此人ノ著述カ原ト曖昧ナル者ナレハ後來斯クノ如キ説
 ノ起ルハ決シテ怪ムニ足ラサルナリ
 因ニ云ク神學及ヒ教會カ此合理論ノ爲メ受ケタル傷害ハ實ニ枚舉
 スルニ勝ヘサレトモ簡短ニ之ヲ評スレハ教會ヲ古昔ノ偶像教ニ挽回
 セントスル者ナリト評スルモ敢テ不可ナキナリ抑モ此合理論ハ神

ノ本位アルヲ排斥シ基督ハ人類一般ノ肉ヲ執リタル者ナリ教會
 ハ成立セル有機體ナリト云ヒ又人ノ本位アルヲ排斥シ人類カ神
 ニ盡スヘキ義務ヲ否ミ且神人間ノ中保及ビ贖罪ノ必要ナルヲ否
 ミ哲學ヲ貴ミ聖書ヲ賤メ教會ヲ根本ヨリ轉覆セントスル者ナリ蓋
 此凡神主義ノ合理論ハ古昔萬有神教ト云ヘル玄奧學ニハ及ハサル
 者ニテ彼ノ玄奧學ハ道義上ノ情操ヲ感化スル力アレト此合理論ハ
 毫モ其力ナク實ニ或説ノ如ク此ハ萬有神教ノ影ニシテ不熟不果ナ
 ル者ナレハ靈魂ノ需用ニ應スル價直ナキナリ

第二節 形而下

此合理論ハ大概唯理有神唯物等ノ諸論ニシテ即チ左ノ如ク

一 準備

〔一〕「ロルド」ペーコン 此人ハイングラントノ貴族ニテ第十七世紀ノ初

頃彼ソ有名ナル「新方法」ト題スル書ヲ著述シ彼ノ中古ニ起レル煩瑣哲
 學ニ相對シ凡ソ理學ヲ探究スル方法ハ古昔ゾアリストテ及ヒ中古
 ノ「ロザニル」ペーコンノ唱道セル如ク歸納法ニ從ヒ先ツ諸物ヲ彙集シ
 其後分解法ヲ以テ其真理ヲ求ルニアリト云ヘリ蓋此人ハ固ヨリ基督
 信徒ナレハ唯此法ニ據リテ形而下ノ事物ヲ稽查セント起圖セシ耳ニ
 テ敢テ後世ノ駁教家ノ如ク之ヲ以テ基督教ヲ排撃スル志ハ毫モアラ
 サリシニ後世狡猾ナル駁教家ハ此方法ニ據リテ基督教其他ノ教法ヲ
 排撃スルナリ

〔二〕「ハルト」リ 此人ハイングラントノ醫者ニテ第十八世紀ノ中葉「ロ
 ド」ペーコンノ方法ニ從ヒ且許多ノ經驗ニ由テ感覺トハ心經ノ動搖ニ
 シテ屢々連續シ且屢々同一ナル動搖ヲ爲ス者ナリ故ニ感覺ノ再三起
 ルニ從ヒ觀念モ亦屢々同一ナルヲ生スル者ナリト主張セリ蓋此人モ

終身基督教ノ真理ナルコトヲ承諾セリ
二 唯理論

〔一〕ピリストリ 此人モ亦平生醫業ヲ爲セシカ唯物ノ原理ニ基キ力ヲ盡シテ其極處ヲ論及セリ即チ人ニ種々ノ觀念アルハ唯其感覺ノ變更ノミナレハ離體ノ心意ハ存在スヘキ處ナク又其存在スル證據アラサルナリ蓋宇宙ニハ唯理的ノ心意ナル者存在セリト云ヘリ

〔二〕ボリシブロク等 此人ハイングラント人ニテ有神ノ原理ニ基キ能ク以上諸大家ノ説ヲ折衷シ世ニハ全能ノ神アリテ宇宙ヲ創造シ且其一定不變ノ自然法ヲ設ケタルハ又別ニ默示奇蹟等ノ者アルヘカラス靈魂ハ有體ニシテ肉體ト共ニ消滅スル者ナリト云ヘリ
此原理ニ原キ宇宙ニ心意アルコトヲ否ム唯物論者ハ彼ノ有名ナルラゾスノコントヲ首々其他許多アリ却説此コントハ實驗理學者ニシテ

人知ルヘキ者ハ唯有體ノミニ過キス神ノ存在ハ我儕カ確知スル能ハサル者ナレハ決シテ有ルヘカラスト云ヘリ又彼ノダルクンモ神ノ存在ヲ承認スレモ其心意アルコトヲ否ムニ似タリ

三 有神論 此論ヲ主張スル者ハ時紀ヲ三期ニ分チ第一ハ技術時代

第二ハ教法時代第三ハ理性時代ニシテ當今ハ即チ理性時代ナリト云ヘリ蓋此頃ノ教法ハ自然神教ナリ

〔一〕ロルト「ヘルベルト」此人ハ有神論ノ開祖ニシテ且其有神論者中ニテ古今ニ卓絶セル者ナリ却説此人ハ自然神教ヲ完全ナル教法ト認メ且當時諸國ニ弘布スル諸教法ヲ研究シ更ラニ一般ノ理法ニ適スル教法ヲ建テント欲シ一冊子ヲ著ハシ其旨趣ヲ述ヘシカ此冊子ニハ最高ノ神、敬神ノ義務、德行ノ義務、悔改ニ由テノ赦罪、未來ノ應報ト云ヘル五原則ヲ建テ且世ニハ一定ノ自然法アレハ決シテ默示等アルヘカラス

ト論セリ然ルニ其後、イングラント及ヒ其他ノ有神論者等ハ此人ノ説ニ基キ理性ヲ以テ完全ナル者ト爲シ或ヒハ之ニ據リテ聖書ノ奇蹟預言歴史ヲ排駁シ或ヒハ基督教ヲ轉覆セント欲シ或ヒハ新教系ヲ建テ基督教ニ代用セント欲シ或ヒハ公然ト基督教ニ抵抗スル者アリ其他又或ヒハ陽ニ基督教ヲ尊崇スレモ陰ニ之ヲ排駁スル如キ狡猾者流モ紛カテリシナリ

四 無神論

此ハ即チジョン・ロック及ヒ監督ベルグリ等カ首唱セシ者ニテ後世ノ無神論者ハ大概ロックノ神ハ人ノ考按ニ由テノミ存在スルトノ説及ヒベルグリノ凡ヘテ物ノ存在ハ唯觀念ノミニ過キサレハ我儕ハ形質外ニ於テ之ヲ知ル方法ナシトノ説ニ基クナリ

(一) デウイズム、ヒユム等

無神論ハヒユムニ至リテ其發達ヲ極メシカ此人ハ我儕ハ唯五官ニ觸ル者ノミヲ知り得レモ心意ニ至リテハ知ル能ハ

サル者ナレハ神ノ存在スル證據ヲ知ラスト云ヒ且其頃流行セシ意匠論ニ對シ我ハ時計ヲ製造スル者ヲ觀テハ誰カ能ク此世ヲ創造セシ者ヲ觀シヤト云ヒ又因果論ニ對シ我ハ觀念ノ種々相踵キテ起ルヲ知レハ其相踵キテ起ル所以ヲ知ラスト云ヒ又奇蹟ニ就キ三個ノ説ヲ述ヘザリ即チ(一)奇蹟ノ證據ハ人ノ說話ニ止ル者ナレハ人類ノ建ル證據ハ甚ク變更シ易クシテ自然法ノ一定不變ナルカ如キ者ニアラサレハ實ニ疑フ可キナリ(二)基督教徒ノ建ル證據ハ脆弱ニシテ偶像教徒ノ所謂奇蹟ト殆ト異ナラサルナリ(三)基督教ノ奇蹟ハ設令真正ニシテ且其理由ヲ解釋アリモ實ニ驚クヘキトニテ其奇蹟ノ有無ハ未ク證據アラサルナリト云ヘリ

其他又彼ノスペンセル等ノ勢力存在説ハ最モ輓近ニ起リ且最モ勢力アル説ナルカ此説ニテハ所謂勢力ナル者ハ意識睿知意向ナクシテ常

ニ運行シ往々人爲メ神ト稱セラルナリ蓋此者外世人ノ神ト認
 ンキ者尤ト云ヘリ
 因ニ云ク第十八世紀頃イングランドニ於テ此合理論ニ對スル種々
 以辨明書ヲ著述セザカ就中有名ナル者ハ即チ(一)「異邦人ノ内庭」此
 書ヲ著シテ著述ニシテ自然神教ノ價值アル説ハ皆聖書ヨリ出ク
 ル證據ヲ述ヘタリ(二)「宇宙智力ノ組成」此書ハクッドウオルトノ著述
 ニシテ有神論者ハ古昔哲學者ノ認説ヲ承傳セル證據ヲ述ヘタリ(三)
 「教法ト自然法ノ對比」此書ハ監督ブットレルノ著述ニシテ設令有神
 論者ト述ズル如ク神ノ存在、自然法ノ一定、人智ノ有限ト云フ公準ニ
 從テ論究スルニ默示ヲ爲メ起レル困難ハ自然法ヲ爲メ起ル困
 難ニテ了解ヲ難キ者ニアラレシム此兩種ニ同一手ニ出スル者ト
 ナラシト述ヘタリ(四)「有神論辨明」捷徑」此書ハレスカノ著述ニシテ

有神論者カ誤認シテ源ハ智識ヲ以テ信仰ニ代用シ之ヲ爲メ信仰ノ
 作動スヘキ所ヲ撤除セリト述ヘタリ却説此等辨明書ハ原ト有神論
 者ニ對シテ著述セシ者ナレバ無神論者ニ對シテモ甚ク勢力アル者
 ナリ之ヲ爲メ從來ノ合理論ハ大ニ勢力ヲ喪キ殆ント地ニ拂フニ
 至リ輒今ニ至リテ又彼ノスペインセル等ノ不可識論處々ニ起リタレ
 尼蓋是レハ格別影響ヲ教會ニ與ユル能ハサルナリ

第三節 批評

此合理論ハ哲學者ノ冥想及ヒ理學者ノ論説ト髣髴セル者ナリ第十八
 世紀ノ季頃セリニナル大學校ノ教諭中ニ痛ク聖書ノ批評ヲ爲サシ
 ヲ欲スル者許多起レリ
 一、最初ノ批評、彼等ハ聖書ヲ批評スルニハ聖靈ノ感導ニ
 由テ靈妙ナル信仰ヲ得ルヲ以テ緊要ナルヲ主張シ聖書ヲ教典ト定ムル

ニ方例ハハ雅各書ハ行ニ由テ義トセラレテ辭ヲ爲メ之ヲ撤除スル等ノ如キ種々ノ誤謬ヲ爲シタルニ第十八世紀ノ初頃ツピンゲルノ神學者ベソゲルト云ヘル者ハ實ニ能ク適當ナル聖書ノ批評ヲ下セリ且此人ハ深ク聖書ヲ畏敬シ毫モ神言ヲ否ムコトアレバ甚ク之ヲ恐レタレト天主教徒カ「ウエルゲト」(セルム)ノ翻譯(ノ聖書ヲ以テ默示トシル)テ「教會ニテル」テルノ翻譯ヲ以テ默示類似ノ者ト爲スコト否ニ聖書ハ種々ノ古寫本ヲ參考シ勉メテ記者ノ原意ニ近ツクコトヲ謀ラサルヘカラスト云ヘリ

二 高等批評(一名新道學)

セルムニノ神學者等ハベソゲルカツピンゲルニ於テ教授ヲ爲セシ頃此人ノ說ニ満足スル能ハズ是レハ下等ナル批評ナレハ更ラニ高等ナル批評有ラサルヘカラスト稱シ聖書ニ向キ普通書類ノ如キ批評ヲ下サント欲セシカ此等神學者等ハ聖書ハ其

言辭文章及ヒ其進歩ノ形狀ニ由テ事實時代記者及ヒ其眞偽ヲ知ルヲ得ルナリト云ヘリ

〔一〕ナルフ 此人ハ有名ナル數學大家ニシテハレ大學校ノ教諭ト爲リ千七百五十四年死セリ却說此人ハ凡ヘテ數學上ノ證明ノ如ク一定ノ證據ヲ建テ難キ者ハ皆道トスルニ足ラスト斷定シ聖書ノ取捨モ此方式ニ從ヒ理性ヲ以テ定ムヘシト云ヒシカ遂ニ其結果ハ聖書ヲ以テ倫理學ニ關係ナキ虛飾物ノ如ク認ムルニ至レリ

〔二〕セルム等 此人ハ千七百九十一年ニ死セシカ深ク基督教ヲ尊信シルヲテルノ說ノ如ク靈妙ナル信仰ヲ以テ聖書ノ教典ヲ定メサルヘカラスト云ヘリ然レモ其信仰トハルヲテルノ信仰ト同カラスト唯理性及ヒ直覺力ヲ指スニ過キス且此人ハ「ノスタリ」派ノ說ニ基キ基督ハ實ニ道義ノ師範ナレバ其教ヲ諸民ニ弘布スル爲メ當時人民ノ謬信セ

惡魔及ヒ天使奇蹟復活等ノ説ヲ任從シテ敢テ矯正セサリシナリ舊約
 聖書ハ固ヨリ我儕カ靈妙ナル信仰ニ由テ知ラサルヘカラサル書ナレ
 其歴史傳記等ハ多ク小説又ハ口碑ニ屬スル虛飾物ニシテ眞理ノ存
 在スル者ハ實ニ僅少ナレハ此等ノ者ヲ受ルヘカラスト稱シ遂ニ創世
 紀及ヒ列王紀畧等ノ書ヲ捨タリ然ルニ世人ハ恰モ水ノ一時ニ繩門ヲ
 出ルカ如ク四方皆滔々トシテ之ニ風靡スル形狀ト爲リシカハ此人ハ
 又其底止スル所ナカラソト憂ヒ之ヲ制止スル爲メニ重テ二書ヲ
 著ハセリ然レモ遂ニ其效驗アラサリシナリ例ヘハアイクホルンハダ
 カルドノ説ニ從ヒ聖書ヲ稽查スルニハ先ツ其各章ヲ疑ハサルヘカラ
 ス蓋是レハ恰モエジプトパピロンノ古傳説ヲ稽查スル如クナレハナ
 リト云ヒエルネステハ聖書ヲ稽查スルニハ胸中ニ公準ヲ置カス自由
 ニ觀察セサルヘカラスト云ヘリ蓋此等學者ノ根本トスル所ハ力ノ及

フ限リ自然ノ理ニ從ヒテ説明スル者ニテ例ヘハモーセカイニスラニル
 人ヲ帥キテ紅海ヲ渡ルニ方リテ海水ノ開ケタルハ風勢ノ爲メニシテ
 其律法ヲシナイ山ニ受ケシ時ノ奇蹟ハ雷雨ノ起リシニ過キヌ又彼地
 カ口ヲ張リテダダンアピラムヲ吞ミシトハ地震ノ爲メニアラスンハ
 モーセカ預メ驚タル者ナラント云フカ如キ是レナリ

〔三〕レゼング等

ゼルマニ地方ハ第十八世紀ノ中葉彼ノレゼングノ爲

メ大ニ震動セラレタリ却説此レゼングナル者ハエルチステノ高弟ニ
 シテ千七百八十一年死セリ此人ノ説ニ基督教ハ使徒等カ其師基督ノ
 生涯素志ヲ達スル能ハサリシヲ知リ後年密カニ計略ヲ以テ之ヲ建テ
 シ者ニテ其歴史預言奇蹟復活等ハ皆信スルニ足ラサル妄談ナリ四福
 音書ハ矛盾ノ多シ新約聖書全體ニ就キテ批評スレハ其教ユル所ハ
 大概ギリシヤ學者ノ説ヲ假借セシ者ニテ新發明ニアラス舊約聖書ニ

就キテ批評スレハユズヤ人ガ神ニ就キテノ考按ハ凡ヘテ偶像教徒ノ考按ヲ借リシコ明カナリト

此頃世ニ基督教ハ未タ嘗テ一國モ其人民ノ利己心ヲ抑シ善道ニ導クニ至ラサルハ實ニ失敗セシナリトノ批評アリ又或者ハ人々一己人ハ有限ナル者ナレトモ人類全體ハ無限ナル者ニテ往々顯出スル英雄豪傑ノ力ニ由テ自然ニ進化スルナリト云ヒシカバルト云ヘル學者ハ此主義ニ基キ古昔ノ孔子モ一セシラテスイエスル一テルセムレル及ヒ我ハ神ノ擁護ニ由テ人類ヲ進化セシムル爲メ來リト云ヘリ然ルニセルマニノ教會ハ此等ノ諸説ノ爲メ甚タ衰頽シ學校ニテ聖書ヲ教ユル者ナク且教法ニ關係ナキ教育ヲ希望スル者多ク又其頃著作セル尊嚴歌ヲ以テ從來ノ聖歌ニ代用スル等ノ事起レリ

〔四〕スタラオス 右ノ諸批評ハツピンゲン學校ノ教諭スタラオスニ至

リテ全ク開發セリ却説此人ノ著述セル基督一代記ヲ觀ルニ今日存在スル基督教ノ起レル理由ヲ釋スレハ是レハ他ノ諸教法ト同シク古傳説ニ基キテ起レル者ニテ基督ハ其信徒等ノ爲メ其實價ニ應ゼカレ功名ヲ與ヘラレタリト記載セリ且此人ハ其第一板ヲ出版セシ時ニハ耶穌ノ存在セシト迄否ミヌレトモハウールノ攻撃ヲ受ケシ爲メ其後第二板ヲ出版スルニ至リテハ耶穌ノ存在ヲ認識セリ然レトモ此人ハ又其書ニ使徒及ヒ其他ノ徒弟等ハ舊約聖書ニ記載セル「メツシヤ」ノ預言ヲ以テ皆基督ニ應ヘシメントノ考按アリシカ此考按ハ其後漸々發達シ第一二三世紀頃新約全書ヲ編輯スル時ニ至リテ全ク成就セリト記載シタレハ必ス基督ヲ以テ彼ノヘゲルノ所謂最後觀念ノ説ノ如ク一般人類ノ觀念ニ過キサル者ト考按セシナルヘシ且此人モ亦他ノ高等批評家ノ如ク奇蹟ヲ以テ自然ノ理ニ由テ顯出セシ如ク云ヘリ

〔五〕レナン 此人ハフランスノ有名ナル東方學者ナリシカ基督一代記ヲ著述スル爲メ久シクスリヤバレンステンニ遊ヒ其材料ヲ集メタリ却説其説ニ基督ハ虛想家ニシテ天性甚ク造化ノ奇工ヲ感服シ遂ニ神ト交通スルコト起想シ又嘗テユダヤ人ノ醜行ヲ矯正セント謀リ稍ヤ其功ヲ達セシカハ尙ホ神ノ徵召ニ由テ「メツシヤ」ト爲ラントノ志ヲ起シ遂ニ舊約ノ預言ニ應スル爲メ自ラ驢馬ニ乘リエルサレムニ入ル等種々ノ行ヲ爲セリ蓋其十字架ニ釘ラレシコトハ基督自身ト雖モ必ス驚異セシナラント又基督ハ固ヨリ特異ナル善人ナレトモ其奇蹟復活等ノ事ニ至リテハ全ク當時ノ口碑ニ過キカルヲ後世信徒等カ新約聖書ヲ編輯スルニ方リテ之ヲ編入セシナリト稱シ順叙ニ聖書ヲ引キテ其証據ヲ擧ケタリ抑モ此基督一代記ハ基督教ヲ轉覆スル如キ書ナレトモ廣クフランス全國ニ流布セシ耳ナラズ歐羅巴諸國ニテ翻譯ヲ爲シ特ニ天主教隆盛ノ地ニ流布セシカフランス教會ニテ有名ナル教諭オラフジセハ此理由ニ就キ天主教徒ハ從來基督ノ事跡ヲ詳ニセザリシニ此書ハ其經歷ヲ知ルニ便益ナル者ナレハナリト云ヘリ

三 輓今ノ批評 此ハ大概舊約聖書ニ關スル者ニテ凡ソ三種アリ

〔一〕粉本 此ハ第十八世紀ノ中葉パリノ醫者アストルシナル者カ首唱セシ説ニテ此人ハモトモカ創世紀ヲ編輯スル時ハ古昔ヨリ傳ハレル二種ノ書ヲ以テ其粉本ト爲セシカ其一書ニハ神ノ「エロヒム」ト云モ一書ニハ「エホバ」ト書ケリト云ヒシカ其後彼ノ有名ナルアイシホルン及ヒバウール等ノ諸學者輩出シ右ノ外尙ホ一種或ヒハ二三種ノ粉本アリト論セリ蓋此教系ハ暫クニシテ消滅セリ

〔三〕増訂 此教系ヲ公クニ唱道セシ者ハツビンゲン學校ノ教諭エウアルトナル者ナリ(千八百七十五年死ス)其説ニユダヤ人ニハ古昔ヨリ一書

アリシカ其教法上ノ經驗發達スルニ從ヒ漸々之ヲ增訂シ遂ニ今日ノ如キ者ト爲セリ蓋其原本ノ形狀ハ今者諸書中ニ分在スレニ尙ホ粲然トシテ之ヲ窺知スルヲ得ルナリ且其增訂者ニ就キテハ或ヒハ二三人或ヒハ數人ナリト云ヘリ蓋此批評モ倘舊約聖書ヲ真正ナル者トシ基督ノ批准セシメテ承諾スルナラハ敢テ不可ナクシテ此說ニ從フ者ハ多シ之ヲ否ムナリ

〔三〕進化

此說ニテハ聖書ハ唯ヱブルノ文學ニ由テ著述シユダヤ人ノ思想ヲ寫出セル者ナリ元來ユダヤ人ハ平民預言者祭司ナル三種ノ相容レナル者アリ平民ハ拜物教ニシテ牛ヲ以テ「エホバ」ト尊ヒ預言者ハ思想家ニシテ祭司長ヒルキヤ或ヒハエストラ頃マテニ著述セシ歴史及ヒモトセノ律法ヲ所有セス祭司ハ其職務ヲ整フ爲メ其書ヲ著述セシナリト稱シ遂ニ律法歴史ハ更ナリモトセ其人マテモ古代ノ小説想像

ナリト定メシカ或者ハ此說ニ從ヒ舊約聖書ノ註解ヲ著述セリ蓋此教系ハ要スルニ增訂說ヨリ出テシ者ナリ

第四節 合理論ノ盛衰

一 猖獗 セルマニ聯邦ハ大概右ニ記載セシ如キ合理論ニ傾嚮シ「モレウイアン」派ヲ除クノ外ハ真正ナル信仰ヲ喪ヒ神學校ノ課目サヘ思辨哲學ヲ以テ聖書ニ代用スルニ至リシカスウイツランドモ亦之ニ同クハ「レニ」居住スル僅カノ信徒ヲ除クノ外ハ大概合理論ニ迷ヒ真正ナル信仰ヲ喪フタリホルランドニ於テハ教會ノ騷擾セシ爲メ此論遂ニ其國內ニ滋蔓セシカ此頃其牧師ヘゲルナル者ハ天資物性學ヲ好ミシカセムレノ教系ヲ國內ニ輸入セシ爲メ中會ノ擯斥ヲ受ケタリ然レニ此人ハ政府ノ保庇ニ由テ其擯斥ヲ救ヒ且其後相嗣キテ其俸給ヲ與ラシタリ且此國ニハ合理論ノ翻譯書大ニ流行シ安息日ヲ守ル者ナシ

且合理的ノ歐諸ヲ以テ福音主義ノ聖歌ニ代用スルトノ法律ヲ設ク遂ニ文學ヲ以テ基督教ニ代用スルニ至リ大學校ノ者ハ凡ヘテノ教法ヲ以テ皆善真ナル者ト稱シ且基督ハ固ヨリ孔子ゾアステルニ超越セル者ナレトモ聖書及ヒ其教法ハ比竟進化ノ一種タルヲ免ノスト云ヒ又贖罪ノ教義ヲ否ミ大概人類ハ悉皆救ハル、者ノ如ク信シタリイン
 シランドニ於テモ亦ゼルマニソ合理論夙トニ渡航シホルランドノ如ク盛ニ流行スルニ至ラサレトモ能キ培養地ヲ得テ頗ル滋蔓セリ且此國ノ國教中ノ一支派ナル寛濶派ナル者ハ聖書ノ言辭ハ皆默示ニ由テ定メラルトノヲ否メモ真正ナル信徒ハ新教舊教ニ關ラス神ノ默示ニ由テ恰モ使徒等ノ如ク真理ヲ悟リ得ルノ權アリト云ヒ又或者ハ教義ヲ研究及ヒ批評スルニハ毫モ拘泥スルヲナク自由ニ考按スヘシト云ヒ又或者ハ社會ハ萬物ト同ク漸々發達シ幼稚成童大人ノ差別アル者ニ

テ今者即チ大人時代ナリ故ニ幼稚時代ハ默示ヲ以テ緊要トスレモ今者理性ヲ以テ適當トスルナリト云ヘリ又教師バツテソノ説ニハ各教派ハハベルノ如ク錯雜シ諸派各自ニ正統ナリト主張スレハ尙此錯雜ヲ遁レ寧靜ナラント欲セハ自己ニ具有スル理性ニ由ルニアラサレハ別ニ方法ナシト云ヘリ其他教會ノ重要ナル者ニテ聖書ヲ攻撃スル者許多アリ因テ大監督等ハ之ヲ糾彈セント欲セシニ却テ國會ノ爲メ妨碍セラレタリフランスハ天主教ノ國ナルニ由テ格別聖書ヲ用キサリ
 シ故ニ批評合理論ハ甚ク行ハレカリシカモ形而下ノ合理論盛ニ流行シ大改革頃ニ至リテハ其極点ニ達シパリノ府中ニテ嘗テ一娼妓ヲ崇メ理性ノ女神ト爲セシヲアリ
 夫レ教會ハ恰モ家屋ノ蠹害ニ遇フテ腐朽スル如ク合理論ノ猖獗セシ爲メ甚ク衰ヘタリ蓋合理論ノ斯クノ如ク滋蔓セシ所以ハ歐羅巴諸國

人教會カ大概其政府ノ管理ヲ受ケ自ラ其教會ヲ洗滌スル力ナキニ由テナラン故ニ合衆國ノ教會ハ其制度ノ獨立ナルカ爲メ深ク合理論ノ害ヲ受ケサリシナリ

二 福音主義ノ挽回

此頃セルマニニ於テ始メテ福音主義ノ挽回ニ起想セシハ敬虔派ノ者ニシテ特ニ其高等批評ヲ排斥セシハ彼ノシライエルマケルヲ以テ嚆矢トス抑モ此人ハ始メ「モレウイアン」派ノ教育ヲ受ケシカ其後自ラノ經驗ニ由テ信仰ハ智力ニアラスシテ心意ニアルヲ悟リ久シクハル及ヒベルリンノ學校ノ教諭ト爲リ千八百三十四年死セリ却説此人カ生涯教導セシ説ハ實ニ善良ナル者ナレニ唯其聖書中ニハ緊要ナル真理モ存在スレニ其歴史ニハ虛飾ニ屬スル者多シト云ヒシハ實ニ此人ノ過失ト云ハサルヘカラス又其徒弟ニアンドルナル者ハ原ト或行商ヲ營ムユダヤ人ノ子ナリシカ此人ニ從ヒ「アレント」

派ノ哲學ヲ研究シ遂ニ基督教ノ學ハサルヘカラサルヲ悟リ漸次ニ之ヲ學ビ大學者ト爲リシカ彼ノ有名ナル教會歴史等數書ヲ著述シ千八百五十年死セリ却説此ニアンドルハ聖書中ノ奇蹟ヲ説明スルニ自然法ニ從ヒテ之ヲ爲ストモナキニアラサレニ大概福音主義ニ從ヒテ之ヲ爲セシカ遂ニセルマニ人ヲシテ歴史ノ緊要ナル證據ヲ知り適當ノ地ニ回復セシメタリ其他此國及ヒスウエイツルランドノ大學校ニハトルソヘングステンベルグドルチル等有名ナル神學者輩出シテ福音主義ノ教義ヲ主張セシカ此等ノ學者モ尙ホ未ダ理性ノ輔佐ヲ借リテ聖書ノ真理ヲ説キ特ニ默示ニ就キテハ曖昧ナル説ヲ爲スモノ多シ大概萬民得救説ノ如クナレハセルマニノ神學ハ到底今日ニ至ルマテ未ダ純正ナラサルナリホルランドニ於テ合理論ヲ矯正セント起圖セシ者許多アリ彼ノ新約聖書神學ヲ著述セシウヰン、オステルゼノ如キモ即

今其一人ナリ又凡ソ八萬人許リノ信徒ハ福音主義ノ信仰ヲ保ツン爲
 ヲ千八百三十四年其國教ヨリ分離シ其迫害ノ甚ク殘刻ナル爲メ多ク
 合衆國ニ移住セリイギリスニ於テモ亦合理論ニ抵抗シテ種々ノ
 辨明書等ヲ著述セシ者許多アリシカ就中彼ノ後年ドブリンノ大監督
 ト爲レルウエートリノ「ナポリオン帝傳記ノ疑点」ト題スル著書ハ合理
 論者ノ論法ニ倣ヒナポリオン大帝ノ有無不明ナルヲ論セシ者ニテ
 實ニ珍奇諧謔ノ書ナリ

合衆國ナルプリンストンノ神學博士グリーソンノ著述セシ書籍ハ輒今
 ノ批評特ニ進化説ニ對スル反駁書ニシテ最モ明詳ナルカ其重要ナル
 説ハ即チ(一)舊約聖書中ノ歴史及ヒ傳記等ハ例ヘハ山河市街等ノ井然
 變更スヘカラサルカ如ク整々タル連續アリ(二)後代ノ舊約記者ハ前代
 ノ舊約記者ノ説ヲ引用スルニ能ク世上ニ公布セシ者ノ如ク記載セリ

(三)律法ハ唯人民ノ守ルヘキ者ノミナラス祭司等モ亦守ラサルヘカラ
 サル者ナリ特ニ其規諫ニ至リテハ祭司等ノ爲メ著述セシ者ナリ(四)基
 督ハ此書ヲ以テ神ノ默示ナリト批准セリト又此人ハ我儕ノ記憶スヘ
 キ一ノ緊要ナル説ヲ述ヘ批評家ハ各自互ニ種々ノ説ヲ述フレモ皆符
 合スル能ハサルナリト云ヘリ

教師ノ義務

教會ノ教師タル者ハ合理論者ノ猖獗ヲ防ク爲メ種々ノ事實ヲ知リ
 細カニ之ヲ主張スルハ最モ緊要ナルヲニテ即チ左ノ如シ
 一 辨明ヲ用キル良法 基督カ其徒弟等ニ命セシ委任ハ教會ノ維持
 ニアラスシテ福音ヲ萬國人民ニ宣布シ之ニ歸セシムルヲ(太廿八ノ
 十九廿)ナレモ或時ハ信仰ノ爲メ戰ハサルヘカラサルヲアリ(猶ノ三
 節)但是レハ猛進シテ爲サハルヘカラス抑モ福音ハ固ヨリ神力ニ由

テ鞏固ナル者ナレハ智力ヲ恃ミ辨明ヲ以テ基督教ヲ支撐セントスルハ實ニ柱ヲ以テ天ヲ支ユルカ如キヲナレハ能ク之ヲ利用スレハ敵ノ弱點及ヒ謬説ヲ發顯スル耳ナラス默示ノ眞理ト自然ノ眞理ノ符合スルヲ及ヒ默示ハ敢テ眞正ナル理性ト背反セサルヲ發明スル等種々ノ裨益アリ

二聖書ノ範圍及ヒ精神 此ヲ明細ニ推測シテ敬重スルヲ最モ緊要ナルヲナリ蓋基督教ハ例ヘハ宏壯ナル宮殿ノ建築法ヲ觀ルニ先ツ其建築術ノ概括及ヒ形象ヲ知ラサレハ設令其材料ヲ奈何ニ精査スルモ決シテ了解スル能ハサル如ク其教法ノ範圍及ヒ精神ヲ知ラサレハ之ヲ窺フヲ能ハサルナリ茲ニ一ノ記憶スヘキヲアリ即チ教法ハ聖書ニ含蓄スル者ナレハ教法ト聖書ハ自ラ別體ナルガ故ニ設令聖書ヲ研究スルモ信仰ノ其心ニ起ラサル間ハ決シテ了解スル能

ハサルナリ基督教中ノ緊要ナル特質ニシテ之ヲ能ク結合セシムル者ハ即チ(一)完全ナル神(二)此神ノ尊貴ナルヲ能ク人ノ承認スル所ナルカ異教徒中ニテギリシヤ人ハ最モ能ク之ヲ考按シテ不可識ナル存在者ト云ヘリ蓋「エホバ」ハ自ラ人ニ悟ラシムル者ナリ(三)「メッシヤ」古昔ノ駁教家ハ多ク基督ノ存在セシヲ否メハ輒今ニ至リテハ奈何ナル者ト雖モ之ヲ否ム者アラス且基督ニ特異ナル現象アルヲ最モ熱心ナル合理論者ト雖モ多ク之ヲ承認セリ例ヘハカントハ基督ヲ以テ完全ナル觀念ノ表號ト云ヒヘゲルハ基督ヲ以テ神人一致ノ表號ト云ヒスペノザハ基督ヲ以テ神ノ智識ト云ヒフヒクテハ斯ノ如キ現象ノ前ニ孰カ拜服スル覺性ナキ者アラフヤト云ヘリ又舊約聖書ニ「メッシヤ」ノ來ルヲ及ヒ其奇異ナル特質アルヲ記載シ且ユダヤ人カ基督ノ降世ヲ俟ナシト明白ナリ其他新約聖書ニハ

基督ノ傳記ヲ揭テタリ特ニ教會ハ其影ノ映射セシ者ナリ(三)無二ナル道義ノ教系、此ハ人類ノ神ニ對スル職務ニ基ク者ナレトモ神ト人ニ對スル一切ノ義務モ亦之ニ含蓄シ且是レハ人類外部ノ事ナラズ基督ノ教ヘシ加シ其心裡ニマテ關係スルコトハ合理論者ト云ヘト承認スル所ナリ(四)神ノ父タルコト神ハ其子孫ナル凡ヘテノ人類カ罪ノ爲メ墮落セシニ由テ基督教ヲ以テ之ヲ挽回聖潔シ又其父ナル神ノ形容ニ復シ之ヲ子トスルノ目的アリ(五)人ノ兄弟タルコト此ハ人類一系ノ主義ニ基ク者ニテ古昔神ハアブラハムニ向キテ凡ヘテノ者ハ此人ニ由テ祝セラレト契約セシ耳ナラス多クノ預言者モ人類ハ後年平和ニ赴キ基督ニ由テ一致スルコトヲ預記セリ(六)人ノ末路、此ハ義ト爲ラル者ハ永遠ナル生命ヲ得ルコトナリ(七)三聖書ニ含有スル教法ノ自證、神ノ默示ニ就キテハ聖書外別ニ正

確ナル證據アラサレトモ聖書ニ記載セル神及ヒ基督ノ事ハ實ニ人心ニ貫徹スルコト他ノ論究勸誘ノ力ニ超ヘ且基督信徒ノ希望ハ聖書ノ預言ニ在ル如ク其目的ノ特異ナルコトヲ否ム者アラサルヘシ(八)四靈妙ナル信仰ノ必要、此ハルコトカ教義ノ根本トシテ詳細ニ主張セシコトナレトモ輒今合理論ノ猖獗セシ爲メ教會中ニ陸沉シタルハ又之ヲ適當ノ地位ニ挽回セサルヘカラス蓋之ヲ挽回スレハ理性モ亦從ヒテ其地位ヲ得ルヘシ抑モ合理論者ハ聖書ヲ抗撃シ教法ヲ傷害スル者ナレトモ倘其真正ナル福音主義ノ批評ナラハ却テ教法ヲ爲メ聖書ヲ支持スルナリ(九)五超性的ノ特質、人類ハ實ニ超性的ナル聖靈ノ力ニ由ラサレハ教ヲ信スル能ハサルニ由テ神ニ依頼シ祈禱ヲ捧グルノ必要ナルコトハ甚ク明白ナリ(十)

第六章 「ロマ」及「ギリシヤ」教會

第一節 「ロマ」教會

「ロマ」教會ハ改革後大ニ奮起シ其教會ヲ擴張セントテ教廳ヲシテ之ヲ總括セシメシカ其新教ニ對セシ作動ニテ最モ緊要ナル者ハ即チ(一)アレントン議會ニテ教會正式ノ教義ヲ確定セシ(二)新教ヲ攻撃セシ(三)即チ三十年間ノ大戰等(三)「シエシユイト」派ノ組織(四)偶像教諸國ニ傳道セシ(五)蓋此傳道ニ從事セシコトハ固ヨリ嘉賞スヘキコトナレドモ一ハ之ヲ以テ歐羅巴諸國ニテ受ケタル損害ヲ償ハント欲セシナリ

一 アレントンノ議會 許多ノ天主教徒ハ久シク其教會ノ規律廢弛セシヲ觀テ新教ノ興起セシモ亦之ニ職由スル者ノ如ク思惟シタレハ一ハ此規律ヲ更張スル爲メ一ハ新教ノ主義及ヒ教義ヲ擯斥シテ其紛雜ヲ靖定セシ爲メ議會ヲ開カンコトヲ願望シタレトモ教王ハ却テ恐怖ノ念

深ク之ヲ開ジテ欲セサレハ種々ノ口實ヲ設テ久シク延期セシカ遂ニ教王ハウロ第三ノ時ニ至リ議會ヲアヴストリアノ南部チルテンシトニ召集セリ時ニ千五百四十五年十二月十三日ナリ却說此議會ノ議員ハロマヨリ來レル大使三人及ヒ諸教派ノ管長五人監督四人監督廿八ニシテ甚ク僅少ナレトモ歐羅巴諸國ノ特命大使及ヒ許多ノ聖職者等陪席シ甚ク嚴格ナリ其日數ハ十八年間繼續セシカ其間閉場或ヒハ轉移セシコトアリ又其決議ハ新教ニ對スルコト等種々アリトモ先ツ其神學ニ就キテハ陽ニハアウグスタノノ說ニ從ヒモ實ハ「半ヒレヂアン」ノ說ヲ用キ神ニ義ト爲ラル、教義ニ就キテハアダムハ義ヲ以テ其衣服ノ如ク原性ノ上ニ加ヘラレ初メハ之ニ由テ其肉體ヲ整ヘ正シキ生活ヲ爲シタレトモ背叛後ハ全ク其義ヲ喪キテ唯其原性ノ殘リタレハ罪カ之ニ歸スルニアラサレトモ自ラ罪ニ傾嚮スル者ト爲シテ却說此教義ニ就

キ新教ニテハル―テルカ定メシ如ク全ク信仰ニ由ル者トスレニ天主
 教ニテハ信仰ト行狀ニ由リ且義ト爲ラル、ニハ長クノ歲月ヲ閱ル者
 トスルカ故ニ其正確ニ救拯ヲ得ルヲハ公審判ノ日ニ至ルマテ明白ナ
 ラサルナリ又其神聖ノ教義ニ就キテハ全ク職務上ニ属スル者ニテ教
 王ハ設令姦惡無道ノ者ナリニ其職務ノ爲メニ之ヲ神聖ト稱スルナリ
 神ノ恩惠ナル教義ニ就キテハ之ヲ以テ或ヒハ聖職者ノ行ヒタル聖禮
 典ニ由テ得ルトセリ其他決議セシ「ハ」ウアルケト」ノ聖書(ゼロムノ翻譯)
 ナ以テ原文ト同シク教會ノ憑據ト爲ス「及ヒ練獄ノ教義諸聖人ノ肖
 像遺物等ヲ貴重スル」ノ祭典、斷食、拜禮用書類等ノ「ナリ」

二 三十年間ノ大戦 天主教徒ハ本卷第二章ニ記載セシ如ク改革後

屢々新教ヲ撲滅セント謀リシカ其後遂ニ「マニユイト」派ノ者ノ爲メ
 ゼルマニニ於テ千六百十八年ヨリ全四十八年マテ凡ソ三十年ノ間慘

慘ナル大騷亂ヲ惹起セリ却説其理由ヲ釋スルニ初メボヒミア王「ブル
 デ」ナンドナル者ハゼルマニニ帝「マ」タイアスノ弟ニシテ「マニユイト」派
 ノ教育ヲ受ケ甚ク新教徒ヲ憎惡セシカ千六百十七年此國ノ王位ニ選
 立セラル、ニ及ヒ直チニ其國內ノ新教徒ニ向キテ迫害ヲ起セリ因テ
 波ヒミア人ハ其後此人カ其兄「マ」タイアスノ死セシニ由テゼルマニノ
 帝位ヲ踐ム(千六百十九年)ニ及ヒ其權下ニ服スル「チ」屑トセス更ラニ
 「イ」ングランド王「ジョ」エムス第一ノ女婿ナル「パ」ラチチト侯「フレ」デリク
 五ヲ迎ヘテ「プロ」グニ於テ其國ノ王冕ヲ戴カシメシニ「フレ」デ「ナ」ンド帝
 ハ之ヲ聞キ大ニ激怒シ軍兵ヲ起シ「フレ」デリクヲ逐ヒ人民等ノ財產ヲ
 沒收シ新教ノ會堂ヲ毀テ且其書類等ヲ焚燒セシメタリ或歴史家ノ説
 ニ「ボ」ヒミアハ其頃三百萬許リノ人口アリシニ此騷亂後ハ僅カ八十萬
 以內ニ爲レリト云ヘリ然ルニゼルマニニ聯邦ノ新教ヲ奉スル諸侯伯ハ

今者ホビミア人ノ迫害ヲ受ケテヨチ觀テ甚ク危懼ヲ生シ竊カキ者ノ
 マレク王ト盟約ヲ爲シ其自由ヲ鞏固ニセント謀ル者ハ帝ハ之ヲ聞
 キ怒ヲ布告ヲ出シ新教徒ヲ改革後漸々古有セヨ教會所屬品ヲ舊教徒
 ニ返還セシメ且舊教ノ侯伯等ニ威力ヲ以テ新教徒ヲ抑壓スルヲ許
 シ又テリ及ヒソレンスタインノ兩將ヲシテ新教ノ諸侯伯ヲ討伐セシ
 メタリ却説此テリナル者ニ殘忍猛惡ノ者ニシテ此頃戰勝ノ勢ニ乘シ
 到處其暴威ヲ逞セシカハ之ヲ爲シ其名大ニ顯ハソシガ特ニ其
 ベルグヲ攻陷セシ時ハ士卒ヲ放テ亂暴セシテ老若男女ニ萬餘人ヲ殺
 シ小兒ハ鉞ニ貫キ空中ニ飛ハシテ之ヲ殺シ道路ハ死骸ヲ累々タル爲
 ヲ往來ヲ絶ツニ至リ或官吏ガ之ヲ禁止セシヨチ請ヒ兵卒等久
 シン褒賞ヲ得ヤレハ尙ホ一時間之ヲ許スハ答ニテ蓋是レハ其
 頃兵卒ニ俸給ヲ與フルコトヲ掠奪其生活ヲ爲シメシメ因テ

ナリ抑モ今者ノ戰爭ニハ新舊兩教共ニ國內ノ壯者ヲ募リ大學校ノ書
 生ニ至ルマテ皆兵隊ニ編入シ且多ク諸國ノ兵ヲ雇ヒシカ其戰ハ遠ニ
 スウイデン及ヒフランドススベイン等マテ波及シセルマニフランドスノ
 國境ナルライン河邊ハ實ニ之カ爲メ蕭索荒漠タル者ト爲リヘッシアニ
 ハ四百十七個ノ邑落滅亡シハキソニハ殆ソト百萬許リソ人民死亡
 シハラテチトハ人民ノ減少セシ耳ナラス其頃狼ノ數俄カニ増加シ狼
 ハ農民等ヨリ多數ナリト云フニ至リタルハ人口ヲ増殖スル爲メ其ニ
 ニーレンベルグニ於テ新々ニ法律ヲ設ケ人民ニ兩妻ヲ娶ルヲ許ス
 耳ナラス聖職者ノ結婚ヲ許セリ且或歴史家ハ此時セルマニ人民ノ死
 亡ヲ免レシ者ハ僅カ五十分ノ一ニ過キスト云ヘリ
 却説新教徒ハ久シク舊教徒ノ狼籍ニ逢ヒタルハ全ク絶望スルニ至リ
 シニ彼ヲスウイデン王グスタウスアドルフスナル者同教徒ノ好誼ヲ

疼痛ニ耐ヘサレモ自ラ軍人タル者ハ勉メテ之ヲ忍ハサルヘカラスト
 思ヒ敢テ之ヲ言辭ニモ發シ又醫師カ誤リテ毒藥ヲ與ヘタレモ能ク之
 ナ飲下セントシ看護人等ノ爲メ掣抑セラレ稍ク之ヲ棄タリ此人ハ病
 ノ危篤ナルニ及ヒ既ニ最期ノ禮典ヲ受ケシカ或夜聖ベテロカ俄然ト
 シテ其臥榻ノ傍ニ顯ハレ之ヲ療スト見シ以來其病漸々回復セリ此人
 ハ其頃病牀ノ中ニ在リ刻苦シテ基督ノ一代記及ヒ諸聖人等ノ小説ヲ
 讀ミシカ能ク通讀スル能ハサレモ其行爲ノ卓越ナルヲ觀テ大ニ之ヲ
 感シ遂ニ其遺體ヲ追ハント欲スルノ志起リ且其病ノ平愈スルニ及ヒ
 世間種々ノ誘惑ヲ悟リル^レテルカ如ク良心ノ責ニ由テ神ノ譴怒ヲ悟
 リ斷食等ノ一ヲ以テ其墮落セル性質ヲ抑ヘント謀リ又歩行シテエ
 ル^レムニ行賽スル誓約ヲ建テシカ其夜又童貞女マリアカ子ヲ懷キ光
 明赫耀トシテ其前ニ顯ハレ是レヨリ全ク世ノ誘惑ヲ喪ヒ其後病已ニ

平愈スルニ及ヒ乗物ニテモソドセラ^レテナルベキテテソノ派ノ會堂ニ
 至リ其鏡ヲ以テ童貞女マリアカノ像前ニ掛ケ一身ヲ奉供スルノ誓約ヲ
 建テリ時ニ千五百廿一年四月十七日ニテ此日恰モル^レテルカウオル
 ム^レノ會議ニ出テシ時ニ相當スルハ實ニ奇異ト云フヘシ却說此人ハ
 是レヨリ直チニ粗織ナル長袍ヲ被テ行脚杖ヲ執リ赤跣ニシテ乞丐ヲ
 爲シ行歩蹇々トシテエ^ルサレムニ赴キ道路ニテ人ニ逢フ毎ニ神ノ譴
 怒アルヲ論シ已ニ其地ニ達スルニ及ヒエ^ルサレムナル西教會ノ監
 督ニ就キ此地ノ回々教徒ヲ改心セシメン爲メニ稽留セ^ントテ請ヒ監
 督カ敢テ之ヲ承諾セサレハ止ムヲ得ヌ又歐羅巴ニ歸ソリ却說此人ハ
 其後學問ヲ修メント起圖シタレモ此時歲已ニ三十ヲ過キ其進歩甚ク
 遲鈍ナレハ痛ク刻苦シ大學豫備ノ教諭ニハ己ヲ教授スル^レ恰モ小兒
 ノ如ク尙記憶セサレハ鞭撻ヲ加ヘタルヘシト願ヒ其後倍々苦學勉勵

シ辛フシテ爾所ノ大學校ヲ卒業シ遂ニパリノ大學校ニ入リシカ此頃

ヨリ始メテ一教派ヲ起カテト起圖セリ

(二)組織及ヒ作動 却説イグチシウスカ此教派ヲ組織スル目的ハ敢テ

彼ノズテズクトフランシス等ノ如ク一身ノ救拯ヲ求ムル爲メナラス

專ラ教會ノ光榮ヲ顯ハス爲メナシハ唯世務ヲ放任シ教會ノミニ盡力

スル者ヲ募集セシカ其最初ニ同盟セル彼ノ高名ナルフランシス、ザウ

エル及ヒザエムス、ライチト等六人ノ者ハ唯門地才略ヲ以テ超々シ耳

ナラス甚ク富饒ナル者モナキニアラス然ルニイグチシウスハ此六人

ノ者ト共ニ千五百卅四年パリナルモントマルテレンノ會堂ニ至リ「マス」

ノ禮典ヲ受ケ清貧遁世及ヒ無制限ナル服従ヲ爲ストノ誓約ヲ爲シ是

レヨリ又乞丐シテイタリヤニ赴キ其途中ニ於テ或ヒハ病人ヲ訪問シ

或ヒハ街頭講義ヲ爲シ又ハ侮教家ヲ規諫スル等ノヲ爲セシカイグ

チシウスハ巴ニイタリヤニ達セシ時ヒロニ郭門ノ前ニ於テ耶穌ノ

騰囑トシテ立テ爾ヲ觀タリ因テ千五百四十年教王パウロ第三ノ許可

ヲ受ケ一教派ヲ建ルニ及ヒ其派名ヲ「イエシユイト」派即チ耶穌派ト稱

シ後其教派ノ者ト共ニパリステンニ至リ傳道ヲ爲セシカトルキノ騒

亂ニ由テ其希望ヲ達スル能ハサリシナリ

イグチシウスノ制定セシ此教派建設ノ理由書及ヒ建立根法ノ概要ヲ

舉ゲレハ即チ教派中ニ一人ノ無限專制ナル管長ヲ置キ教徒ハ皆其指

揮ニ從フコ恰モ杖ノ手ニ從フカ如ク敢テ自ラノ意向ヲ用キ又其良心

ニ由テ善惡ヲ識別スヘカラス管長ハ常ニ羅馬ニ居住シ荷モ事アル時

ハ參事員ヲ集メ之ヲ商議スヘシ等ナリ又此派中ニハ四個ノ階級アリ

即チ(一)新入生(二)徒弟(三)此ハ此派ノ學校ニ入り清貧等三條ノ誓約ヲ守

リ未ク試練中ノ者ナリ(四)補助者(此ハ巴ニ試練ヲ了リタレモ未ク其

蘊奧ヲ究メ且未ク教王ト傳道ノ誓約ヲ爲サ、ル者ナリ(四)公認者
 此ハ凡ヘテノ階級ヲ踏ミ其蘊奧ヲ究メタル者ナリ其他又附屬員ナル
 者アリ蓋是レハ唯其派中ニ稱スル耳ニテ世ニ公稱スル者ニアラサル
 カ皆平人ニシテ多クハ侯伯等勢力アル者ナリ此派ニテ新入生ヲ入レ
 ントスル時ハ靈妙ナル操練トテ先ツ四週間餘リ關室ノ中ニ入レ遙カ
 ニ拜禮式ノ聲ヲ聞キ又ハ數次來訪ノ訓誨師ニ接見スルノ外ハ決シテ
 事故ニ干ルコトナク最初ノ一週間ハ罪ニ關スル諸事即チ罪ノ種類及ヒ
 其宏大酷烈ナルコト心ニ起ル些少ノ迷誤罪ノ爲メ受クル艱辛並ニ其形
 狀、地獄審判ノ日及ヒ其宏大ナルコト第二週間ハ此世ノ蠢愚ナルコト第三
 週間ハ基督及ヒ其受苦、死去、復活ノコト第四週間ハ天及ヒ其威光ヲ考ヘ
 シムルカ是レハ新入生ノ奈何ナル特質智力徳義アルコトヲ觀且其將來
 何等ノ業ヲ成就スルヤヲ察スル爲メ甚ク有益ナル者ナリト云ヘリ其

他又新入生ノ將來能ク柔順嚙黙シテ服従スルヤ否ヲ試ル爲メ甚ク嚴
 酷ナル待遇ヲ爲シ其能ク耐忍スルヲ知ルニ及ビテ之ヲ受領スルコトア
 リ其方法ハ例ヘハ此者ヲ以テ使丁ト爲シ無益ノ勞役ニ服セシメ又ハ
 惡性ナル疫病人ノ所ニ遣ハシ或ヒハ街頭ニ於テ地獄地獄ト連呼セシ
 メ或ヒハ修夜睡眠ヲサシメス或ヒハ侮辱又ハ毆打足蹴等ノコトヲ爲ス
 ナリイグチシウスハ其教派ニハ唯高才卓識ニシテ身體健康ナル者ノ
 ミヲ募集セント欲セシカ豪族名家ノ人ニテ之ニ加入セント請フ者甚
 カラス例ヘハフランドスノ伯爵ウイリアム、ボステルノ如キ是レナリ蓋
 此人ハ天性英敏ニシテ始ハ「世ノ驚異」ト副稱セラレシ人ナレハ其志願
 スルニ及ヒイグチシウスモ歡ヒテ之ヲ迎ヘタレシ其後試煉中遂ニ發
 狂シ我ハ「シエシユイト」派ノ者ナリト自稱シ或ヒハ派中ノ密事ヲ記載
 セシ書籍ヲ出版スル等種々ノ行ヲ爲シ教徒等之カ爲メ甚ク焦慮セリ

却說此教派ニテ最初ニ建設セル學校ハ其完全ナル「歐羅巴」第一等ニ位スル者ニテ且其書生ヲ教授スルニ後來四方ニ傳道シテ其貴族等ト交接スルニ方リ敢テ不足ナカラシムル爲メ充分ニ注意セリ又此派ハ他ノ諸教派ノ如ク諸事ヲ勉ムルニ時間ノ規則ナク其衣服ハ交際ヲ便ニセシ爲メ法服平服ヲ使用スルヲ許セリ

「イグチ」シウスハ教徒ノ選舉ニ由テ其管長ト爲リシ以來倍々之ヲ擴張シ「スベイン」ポルトガル「フランス」等ノ諸國ニ許多ノ學校鞠孤院ヲ建設シ又直接間接ニ許多ノ義捐金ヲ受ケシカ千五百五十六年ニ死セリ却說其死去ノ形狀ニ就キ教徒等ノ記載セシ書ヲ觀ルニ我儕ノ父ナル「イグチ」シウスハ固ヨリ聖人ナレ其已ニ死セントスルニ至リ我ハ「ロマ」教會ノ爲メ許多ノ善行ヲ積ミ我教派ノ繁榮及ヒ學校富饒等ヲ觀タレ此等ハ今皆我ヲ捨テ退去セリ今ヨリ何等ノ事ヲ爲スヘキヤ我ハ之

ヲ知ラスト云ヒ全身戰慄シ遂ニ最期ノ禮典ヲ受ケヌシテ死セリトアリ抑モ此教派ハ「イグチ」シウスノ未タ在世セシ間ハ「歐羅巴」全洲ニ於テ僅カ百餘軒ノ精舍千餘人ノ教徒ニ過キサリシカ其後漸々弘衍シ第十六世紀ノ季頃ニ及ヒテハ「ドミニカン」フランシスカン」等ノ諸派ヲ壓倒スルニ至レリ此派ハ其教徒ヲ「歐羅巴」諸國ニ遣シ其王家ノ聽悔師兼顧問官ト爲シ又「亞米利加」及ヒ「印度」地方ニモ派出シ共ニ其國內ノ密事ヲ探偵シ之ヲ「ロマ」ナル管長ノ許ニ報知セシメシカ「フランス」ニテハ其頃此「ユニオイト」派ノ者カ其國王ヘンリ第四ヲ殺害セント爲リトテ一且國境ヨリ驅逐セラレシカ其後又許ヲ得テ國內ニ入り第十七世紀ノ中葉ニハ再ヒ勢力ヲ得タリ此教派ノ者ハ又嘗テ許多ノ探偵者ヲ學校教諭或ヒハ聽悔師等種々ノ形狀ニ打拵セシメ新教諸國ニ遣ハシ天主教徒ノ中ニ潜伏シテ其形勢ヲ觀察セシメシカ後年倍々增長スルニ

及ヒ諸王侯等ハ皆安堵スルヲ能ハス第十八世紀頃スベインボルナガ
 ルヲ除クノ外ハ皆其國境ヨリ驅逐シタリ此教派ハ千七百七十三年教
 王ケレメント第四ノ布告ニ由テ解散セラレ其後千八百十四年再ヒ之
 ナ興隆シタレト屢々姦計ヲ謀ルニ由テ數次イングランド及ヒセルマ
 ニフランス等ノ國々ヨリ驅逐セラレ解散前ノ形狀ニ回復スル能ハサ
 ルナリ蓋天主教中ニ在リテハ頗ル勢力ヲ占メ千八百七十年ウテカソ
 ノ議會ニテハ其勢力ニ由テ教王ハ議會ヨリ越タル權力アリ及ヒ教王
 ハ過失ナキ者ト決議セシメタリ
 此教徒カ新教ニ向キテ用キル策略ハ種々アリ例ヘハ新教徒ノ如キ打
 扮ヲ爲シ其教徒中ニ交ラシメ又ハ新教ノ教師ト爲リテ竊カニ其教徒
 ナ導キ天主教ニ轉教セシメ或ヒハ學校教諭ト爲リ漸々歐羅巴諸國ノ
 學校ヲ總括セント謀リシカ此教徒等ハ無給料ニテ教授セシ故ニ容易

ニ之ヲ成就セリ又此教徒ハ新教ヲ駁スルニ特異ナル論法ヲ用キタリ
 例ヘハ新教ニ鞏固ナラサル点アレハ許多ノ著述家相競フテ唯其一点
 ノミヲ攻撃シ又其教義ヲ駁スルニ甚ク極端ニ走リテ論スルコトアリ即
 チ自由ニ聖書ヲ解釋スルトノ説ヲ駁スルニ牽合附會未タ新教ニテ許
 サル所マテ論及スル如キ是ナリ故ニ其勢力ハ非常ニ熾シナリ
 第十七世紀ノ中葉バリノ或學校ノ教諭ナル理學士パスカルハ天主教
 ノ者ナレトモ此教派ヲ抵抗セシカ嘗テ此教派ノ書中ヨリ奇異ナル異説
 ナヲ發見セリ即チ(一)設令邪惡ナル行爲ト云ヘト多少ノ理由アレハ之ヲ
 許ス(二)憤怒ニ由テ爲セシ罪ハ之ヲ恕ス(三)結果ノ善ナル者ハ惡法ト云
 ヘト之ヲ善トス(四)誓約ノ際竊カニ違背ノ志ヲ有スルハ罪ニアラス(五)
 毫モ心中ニ神ヲ實畏スレハ救拯ヲ得ルナリト又其建立根法中ニ管長
 ノ命令ニハ設令罪惡ナルト云ヘト必ス服従セサルニカラス教會ニ

テ公然主張スル説ハ設令黑白轉倒スルコト雖モ必ス之ヲ守ラザルハ
カラスト故ニ今ニ至ルマテ倚斯クノ如キ狡猾偏僻ナル論ヲ主張スル
者アレハ之ヲ「シエシユイト」主義ト稱スルナリ

四「シヤンセンイスト」派 此派ノ開祖コルニリウス、シヤンセンナル
者ハ初メホルランドノ北部ニ生レ數ヶ所ノ學校ニ入り「シエシユイト」
派ノ學校ニモ入りシカ深シアウグステンノ説ヲ喜ヒ凡ソ十回許リ其
書ヲ研究シ特ニ其ビレヤウスニ對スル説ハ殆ント三十回許リ勉強シ
千六百卅六年エアルノ監督ト爲リタレモ其後二年ニシテ疫病ニ罹リ
テ死セリ却説此人ノ著述セシ「アウグスタイナス」ナル書ハアウグステ
ンノ説ヲ墨守スルコト及ヒホルヤカルナルエウラ學校ノ教諭ニテ「シエ
シユイト」派ノ教徒ナルモリナノ著書ハ「半ビレヤアン」ノ説ヲ含有セシ
コトヲ記載セリ然ルニ後年或者カ此書ヲ出版セシニ「シエシユイト」派ノ

者ハ深ク之ヲ憎ミ其書中ヨリ(一)神ノ命令ニハ善者ノ爲サント欲シテ
爲ス能ハサル者アリ(二)神ノ人ヲ救フ恩惠ハ抵抗スヘカラサル者ナリ
(三)他ノ強迫ニ由ラサル惡事ハ奈何ナル必要ノ理由アリト雖モ必ス犯
罪ナリ(四)「半ビレヤアン」ノ所謂意向ハ恩惠ニ抵抗又ハ服従スル自由ア
リトハ正教ニアラス(五)基督ノ一般人類ノ爲メ贖罪セリト云フハ謬説
ナリト云ヘル五條ヲ拔萃シ之ヲ教王イノンセント第十ニ呈シ擯斥ヲ
加ヘンコトヲ希望セシニ教王ハ此派及ヒ「シエシユイト」派ノ者ヲ喚ビ其
説ヲ聞キシ後遂ニ擯斥セリ因テ此派ノ者ハ其擯斥ヲ避ケントテ教王
ハ實ニ此五條ヲ擯斥シタレモ是レハ「アウグスタイナス」中ニアリト云
ハスト主張セシニ「シエシユイト」派ノ者ハ又教王アレキサンデル第七
ニ請願シ重テテ明白ニ其「アウグスタイナス」中ニ在ルコトヲ布告セシメ
且「フランス王ルキ」第十四チシテ聖職者等カ此布告ニ承諾スル爲メ其

紙尾ニ署名スルヲ命ゼシメシニ此派ノ者ハ尙ホ之ヲ承諾セズ教王ハ實際上過失ナキ能ハスト主張セリ因テ「マニニユイト」派ノ者ハ又教王ハ必ス過失ナキ者ナリト云ヒ遂ニ迫害ヲ起シ政府ヲシテ或ヒハ此派ノ者ノ財産ヲ沒收セシメ又ハ獄舎ニ下サシメ四年許リ教會ノ動搖上爲リシカ其頃或貴族ノ周旋ニ由テ實ニ此布告ニ承諾スル能ハサル聖職者ハ其理由ヲ布告ノ紙尾ニ記載スヘシト定メラレ之カ爲メ暫ク平和ヲ得タレ其後十年許リニシテ迫害又起リ教師ケテルハ新約聖書考説ヲ出版セシ爲メニ此派ノ重要ナル者ナラント疑ハレ遂ニ國王ハ第十四ヨリフランスヲ放逐セラレ其他聖職者モ亦必ス布告ニ署名シ之ヲ承諾セサルヘカラサレト爲リ此派ハ遂ニ全ク滅タリ蓋ルラソドニテハ其後アントネアルナウルドナル者アリユテレシト及ヒ其近傍ニ於テ又之ヲ再興シ凡ソ六千人許リノ教徒起リシカ是レハ

今日マテ連續セリ抑モ此派ノ教義ハ福音主義ニ契合スル者ナレ尙ホ未ダ自由ヲ得ルニ至ラサルナリ例ヘハ人ハ神ノ恩惠ニ據リテ善ヲ爲ス力アリト信スレ其過ヲテ制慾主義ニ流レ普通信徒カ其國語ニ翻譯セル聖書ヲ研究スルヲ許シ天主教ノ誤謬ヲ受ケ其書籍ヲ講究スルヲ否メ其斷食等種々ノ事ヲ行ハシムルナリ

ポルト、ロヤル(フランスノ地名)ナル「シスタル」派ノ修道院及ヒ女子修道院ハ古昔ヨリ甚ク有名ナル者ナレ其中古以來紀綱紊亂シ法度廢頓セシガ第十八世紀頃聖シランナル者カ之ヲ改革スルニ及ヒバリノ貴族等多ク茲ニ來リ著述或ヒハ教育ニ從事セリ然ルニ國王ハ第十四ハ此院内ニ住スル歴史家テヘモン及ヒアルナワルド(後年「ソルボ」)學校ノ教諭ト爲レリ)「パスカル」等カ此「シヤンセ」派ト同主義ヲ唱ヘシ爲メ此兩院ヲ指シテ異端ノ巢窟ト稱シ千七百十年遂ニ之ヲ

廣墳ノ女子ノ修道者ハ、マリニ送リ、男子ノ修道者ハ之ヲ解散セリ。改革後天主教中ニテ或ヒハ三人或ヒハ數人ノ者カ共ニ結合シテ修正ヲ起圖スル者許多アリシヲ就中聖ウインセント、ダバウロノ如キハ其最モ有名ナル者ナリ却説此人ハ初メフランソスニ生レシカ嘗テトルキ人ノ中ニ繫囚セラレシ頃能クトルキ人ヲ勸メテ改心ヲ爲サシメ其後フランソスニ歸ルニ及ヒ此頃ノ艱辛ヲ回顧シ世ノ貧窶艱辛ナル者ヲ救ハントテ傳道會社及ヒ婦人樂善會ヲ設ケ婦人ハ病人兒童ノ看護扶育等ヲ爲シ傳道者ハ獄舎、カレ、船、貧院及ヒ疫病流行地又ハ戰地ニ至リ非常ナル傳道ヲ爲サシメシカ後年マテ此業ヲ嗣ク者許多アリ且此人ハ其後又世ノ捨兒ヲ養育セントテ諸方ニ奔走シ雄辨ヲ奮フテ其資本ヲ募集セシニ聞者多ク感激シテ金錢及ヒ裝飾具等ヲ贈リシガハ之ヲ以テ許多ノ捨兒ヲ養ヘリ却説此人ハ千六百六十年ニ死セシカ新舊教徒

ニ關ラズ大概之ヲ聞キテ哀惜セリ

五、寂靜家、此ハ第十七世紀ニ起リ記載スヘキ價值アル者ナリ却説

此ノ開祖モリノスナル者ハスペイン人ニシテ千六百八十一年ニ「靈ナル生活」ノ案内「下題スル一書ヲ著述シ其教義ハ古昔ノ萬有神教ノ如ク人類ハ復神ニ吸收セラル、者ナリトハ主張セサレトテ冥想ヲ以テ根本トシ入ル之ニ由テ神ヲ知り又神ト交通スル者ナリト述ベシニ其書ハ大ニ流行シ獨スペインノミナラスフランソスイタリヤ等ノ諸國マテ之ヲ翻譯シ教王イノセント第十一モ最初ハ暫ク此説ヲ贊成シ又彼ノフランソスナルギッボン家ノ夫人ハ其廿歳ノ頃ヨリ祈禱及ヒ修學ノ爲メ一身ヲ神ニ奉供シ又頗ル文章ニ巧ミナリシカ此説ヲ信仰シ之ヲ擴張スル爲メ流麗ナル文章ヲ以テ書ヲ著述シ此徒中ニテ録々ナル者ト爲シ然ルニ此徒亦彼ノ「派」ノ抵抗ヲ受ケモリノス

法詰問ノ後終身禁獄ノ刑ニ處セラレギボシ夫人ハ誹謗迫害禁獄流竄
 等ヲ受ケ七十歳ニシテ死シ又彼ノパリノ聖職者ニシテ雄辨家ナルシ
 ニロンハ其朋友ナル太子侍講ボシカカ酷ク此徒ノ者ヲ迫害スルヲ觀
 テ心ニ屑トセス遂ニ之ト絶交セシカ亦シエシユイト派ノ爲メ其後教
 王ヨリ竊カニ擯斥セラレ此徒ハ第十八世紀ノ初頃ニ至リテ全ク絶滅
 セリ抑モ「シエシユイト」派ノ者カ斯クノ如ク此等玄奧主義ノ者ヲ憎嫉
 スル所以ハ此徒等カ古昔ノ「マイオニウス」ノ説ノ如ク教主管轄ヲ重
 セサル耳ナラス之カ爲メ教會ノ儀式ヲ藐諸スルニ至ラハ教會ノ衰頹
 ナ醸シ自派ノ生活ヲ喪ハシテ恐懼セシ爲メナリ

六 古義公同教會 セルマニナルムニクノ大學校ノ教諭ドリリシ
 及ヒ四十一人ノ者等ハ此頃「シエシユイト」派ノ專横ナルヲ及ヒ教王ノ
 或布告特ニ千八百七十年ウアチカソノ議會ニ於テ決議セシ教王ハ過失

ヲキ者下ノ説ニ満足スル能ハス始メテ反論ヲ首唱セシニ諸國ノ大學
 校ニテモ亦相尋非テ之ヲ唱和スル者アリ遂ニ是歲ノ八月セルマニス
 ウイツルラソドアウストリアノ神學者等相集リテ會議ヲ開キウアチカ
 ソ議會ノ決議特ニ教王ハ過失ナキ者トシテ效力ナキ者ト決定セリ
 蓋此等ノ者ハ此頃マテ未ダ嘗テ天主教ヲ分離スル志ハアラサリシニ
 其後許多ノ平人等之ニ加入スルニ及ヒ勢ヒ其主義ノ教會ヲ設立セカ
 ルヘカラサルヲ爲リ且當時教會ノ風俗ヲ一變シ最初教會ノ形狀ニ
 回復セントノ意ヲ發表スル爲メ自ラ古義公同教會ト稱セリ却説此派
 ノ者ハ其教會ノ準備ヲ整フニ當リ虔信禮及ヒ接手續ハ監督ヨリ受ク
 ヘキ者ト定メタルニ其派中ニハ嘗テ一人ノ監督モアラサレハ大ニ之
 ニ苦ミシカ此頃彼ノユトレントナル「シヤンセイスト」派ノ中ニハ
 レント議會ノ決議ヲ受理シ且使徒以來繼續セシ監督アリシカハ遂ニ

之ト一致シ其輔佐ヲ受ケタリ蓋此「ワヤンセンイスト」派ノ者ハ其監督
 ナ選立スル毎ニ教王ニ報知シテモ敢テ其認識ヲ得サル者ナレハ此派
 ニテハ其認識ノ有無ニ關ハラス之ヲ以テ使徒繼續ノ教會ト認メシナ
 リ此派ノ者ハ天主教ヲ真正ナル教會トシ教王ヲ其頭首ト認ムレハ天
 主教ニテハ決シテ此教會ヲ真正ナル教會ト認メサルナリ此派ハ從來
 種々ノ慣例ヲ改メ最初教會ノ如ク普通信徒ニ監督選舉權議員選舉權
 ナ與ヘ又「マス」ノ葡萄酒ヲ飲マシムル等ノ「コ」アリ其教徒ハ現今セルマ
 ニスウイツルランドアウストリア等ノ諸國ニ弘衍シ約莫五六萬人許
 リアレハ特別進歩スル形狀アラサルナリ

第二節 「ギリシヤ」教會

此教會ハ古昔東教會ノ習慣ニ從ヒ最初七議會ノ決議ヲ受理スレハ其
 後西教會ニテ開キタル議會ノ決議ヲ否ミ教王ニ服從セス自ラ聖正教

公共教會ト稱シ現今三派アリ即チ(一)トルキノ教會即チコンスタンテ
 ノブルノ師父ニ直隸スル者(二)ギリシヤノ國教(三)ロシヤノ國教

一 來歴

此教會ノ西教會ト分離セシ理由ヲ釋スルニ甚々較善ニ爲
 リシ「コ」ハ第九世紀ノ中葉以後ノ「コ」ナレハ既ニ第四世紀頃ヨリ兩教會
 ノ間互ニ誤解相競嫉妬等ノ「コ」起リ特ニ第八世紀頃ニハ肖像ヲ用ヰル
 「コ」ニ就キ烈シキ爭論アリシカ第九世紀ニ及ヒコンスタンブルノ
 師父「フ」シウスナル者カ聖靈ハ唯父神ヨリ遣ハサル、者ニテ父子兩神
 ヨリ出ルニアラサル教義ヲ主張セシ爲メ「ロマ」教王ヨリ是レテ口實ト
 シテ放逐セラレシカハギリシヤ帝ハ之ヲ憤リ又「フ」シウスニ命シ教王
 ナ放逐セシメタリ是レ兩教會分離ノ發端ナリ抑モ此教會ハ初メ地勢
 樞要ニシテ信徒許多アリ其布教地ハ遠シ南部「イタリヤ」及ヒ「アウス」ト
 リ「アマ」テ延及シ特ニ其内ニハ使徒等ノ建設セル教會モ無キ「ア」ラテス

且第十世紀頃ニ彼ノ廣漠ナル羅馬帝國カ公然基督教ヲ受ケ此教會ニ加入セシ以來ハ北部亞細亞中央亞細亞マテ其布教地ト爲リ實ニ非常ノ勢力及ヒ富饒アリシカ不幸ニシテ其後彼ノ回々教ナル者起リ其布教地内ニ侵入シ之ヲ奪掠スルニ及ヒ宏壯美麗ナル會堂モ其所有ニ歸シ信徒モ多シ其誘導又ハ強迫ニ由テ之ニ轉教シ或ヒハ殺害セラレタリ第十二世紀頃彼ノ教狂ナル十字軍ノ者カ此教會ヲ保護スルトテ其布教地ニ侵入セシ故此教會ニテハ其目的ヲ疑ヒ力ヲ盡テ之ニ抵抗セシカ此十字軍ハ實ニ東教會ニテ鳴謝スヘキ理由ナキ耳ナラス甚タ腐敗セル道德ノ糝糠ヲ殘ホレタリ此教會ハ千四百五十三年コンスタンツテンプルカトルキ人ノ爲メ陷落スルニ及ヒ其國教タルコト廢セラレ且初メ暫時ノ間ハ僅カク自由ヲ許サレタレモ其後四百年許リノ間非常ノ束縛ヲ受ケ殆ント囚虜ノ如キ形狀ト爲リタレハ唯コンスタン

ツテンプルノ教會カ漸ク其精神ヲ消耗シ全ク外形ヲ虛文ヲミニ止リシ耳ナラス其他古昔ノ盛大ナル教會モ漸ク衰微シ今日ニ於テハロジヤ教會ヲ除ク外僅カキリシヤトルキエシアド等ノ諸國ニ散布點綴スルニ過キサルナリ
 ロマ教主ハ古昔ヨリ東教會ヲ以テ其權下ニ服屬セシメント起圖シタレモ更ラニ其望ヲ達スル能ハス僅カク南部イタリヤ及ヒアウストリアアルメニア並ニ印度ナル聖トマス教會ノ或者等ノミチ服屬セシメタリ蓋此等諸教會ノ者モ唯其外形ノミ其權下ニ服屬スル者ニテ其風俗等種々ノ事ニ至リテハ東教會ニ服從セシ時ニ異ナラサルナリ又此東教會ハ新教ニテモ之ト一致セント欲シ改革頃ニ彼ノタラントシハコンスタンツテンプルヨリ來レル或執事ニ托シ書簡ヲ其師父ニ贈リシコトアリ其後ツビシクン學校ノ教諭二人ハ自ラコンスタンツテンプル

ニ至リ此教會ノ首領等ト商議セシテアリ又イソングランド國教ノ者ハ
 今世紀ニ至リテ此教會ト聯合セシテ謀リシニ遂ニ成就セサリシナ
 リ且此教會ノ者ハ屢々セルマニニ遊ヒ新教ノ形狀ヲ目撃スレト其歸
 國スルニ及ビテハ大概新教ヲ抗擊スルナリ

二 形狀

(一)トルキ
 コンスタンチノブルノ師父ハ古昔ギリシヤ帝國ノ盛時ニ
 ハ其國教ノ頭首タル耳ナラスアソテオケエルサレムアレキサンデル
 等ノ師父ノ上ニ立テ甚ク勢力アリタレト其後此國ノ滅ルニ及ビ全ク
 蘇爾丹ノ權下ニ屬シ其廢立ノ權サヘ皆蘇爾丹ニ歸セシカハ此職ハ恰
 若賣買品ノ如ク賄賂ヲ以テ之ヲ得ルニ至リ且其弊風ハ此教會一般ニ
 波及セリ蓋コシスタチノブルノ師父ハ其後尙ホ重大ノ權力ヲ占メ
 國內處々ニ散在スル諸教會ノ頭首ト爲リ其法律習慣ヲ以テ之ヲ制馭

シ且其俗務ニマテ干涉シ蘇爾丹ニハ若干ノ金錢ヲ納メ間接ノ統馭ノ
 爲爲サシメタレハ師父ニテ收納スル金額モ抄カラサリシカハ其他下
 等師父等ニ至リテハ僅カ信徒ノ集金ヲ掌ル等ノミニシテ甚ク貧困微
 弱ナル者ナリ却說此教會ハ此等師父ノ下尙ホ教會ノ聖務及ヒ聖務ト
 俗務ヲ掌ル聖職者許多アリ其他男女ノ修道者モ亦抄カラサルナリ

(二)ロシヤ
 此國教會ハ原トコンスタンチノブルノ師父ニ直隸シタレ
 且千五百八十二年ニ至リモスコロニ於テ特別ニ次等師父ヲ置キ之ヲ
 攝理セシメシカ其後ピートル大帝頃次等師父ナイコンナル者アリコ
 シスタチノブルノ師父ニ服屬スルヲ屑トセテ全ク之ト分離セリ然
 ルニピートル大帝ハ常ニ此師父等カ自義心虛托アルヲ憤懣セシニ
 由テ千七百〇〇年頃次等師父ヲダリアンカ死スルニ及ヒ復之ヲ置カ
 ズ權ヲ奪フ者ナシテ其職ヲ代理セシメ其後二十年ニシテ人民等カ師

英國教外ノ者カ新クニ其人民中ニ傳播スルコト及ヒ聖書會社等ヲ建
テ聖書ヲ販賣スルコトヲ禁セリハ其國ノ機運ニ甚ク影響セリ其ノ概

〔三〕ギリシヤ此國教會モ亦古昔ハコンスタンチノプルノ師父ニ直隸
シタルニ獨立戰爭頃(千八百廿一年至千八百廿七年)ニ斷々其關係ヲ
解キ千八百三十三年ニ至リ聖職者會議ヲ開キ此教會モ亦ギリシヤニ倣
ヒ全ク獨立スルコトニ決セリ却說此教會ハ其國王カブツマルノ子
ニシテ「ルーテル」教會ノ者ナル故ニ「ロシヤ」ノ如ク甚ク政府ノ干涉ヲ
受ケス教會政治等ハ凡ヘテ其教會々議ニテ決定スルト雖モ其會議ノ
議員タル者ハ毎年聖職者五人官吏二人ツ、國王ヨリ選任セラレ、ニ
由テ到底政府ノ機械タルコトヲ免レサルナリ

三 教會及ヒ習慣 此等ノ者ニ就キテハ「ギリシヤ」教會中凡ヘテ一體
ナルハ實ニ特異ナリト云フヘシ且其教義等ハ天主教トモ大抵同ニナ

ルナリ却說其概略ヲ舉シレハ此教會ハ最初七議會ノ決議ヲ受ケ三位
一體及ヒ基督ノ本位等ノ教義ニ就キ大抵天主教ト同一ナレト聖靈ノ
出ル教義ニ至リテハ天主教ト同シカラサルナリ蓋是レハ當天主教ト
同シカラサル耳ナラス凡ヘテノ三位一體ノ教義ヲ信スル者ト異ナル
ナリ此教會ハ「ローマ」教王カ全教會ノ頭首タルコトヲ否メ「アバクリン」及
ヒ遺傳即チ先師等ノ支持セル聖書外ノ默示ト稱スル者ヲ以テ信仰ノ
模範トシ之ヲ聖書ト同一視スルコトハ敢テ天主教ト異ナラス且其諸先
師中ニテハ特ニ其教會内ナル「パウル」シテ「イリ」ナセアンセシ及ヒ「キリ
ソ」ト「ム」ヲ尊重セリ又其七禮典ヲ受シルコトモ大抵天主教ト同一ナレ
ト其方法ニ至リテ稍ヤ同シカラサルナリ例ヘバ「バプテスマ」ヲ施スニ
ハ受領者ヲ三次水中ニ浸入スルナリ虔信禮ハ小兒ニ至ルマテ「バプテ
スマ」ヲ施セシ後植子ニ之ヲ受ケシムルナリ且天主教及ヒ監會教會以

如シ監督ノミヨ限ラズ教師ニモ亦之ヲ行フ大ニ晚餐ノ天主敎ノ如ク其麵包及ヒ葡萄酒ヲ以テ基督ノ肉及ヒ血ニ化セリト稱シ神ニ供メ又之ヲ拜スルコト善トスレハ普通信徒及ヒ小兒ニモ之ヲ受ケテ且其麵包ハ酵ノ入リシ物ヲ用テ成ルナリ却説此麵包等ヲ拜スルコト就キテハ此教會ノ或者ハ之ヲ全ク虚説ナリト稱スレハ實際然ラサルナリ告解ハ信徒カ教師ニ就キ其罪ヲ耳語スルニ方リ天主教ノ如ク教師カ自ラ其罪ヲ赦スルコト云ハズシテ神ニ由テ之ヲ赦スト稱シ且種々ノ懺悔法ヲ以テ效驗アル者ト教示ルナリ最期ハ實ニ特異ナル方法ニシテ數人ノ聖職者相集リ大概會堂ニテ之ヲ行ヒ止テ得サルコトヲサレハ普通信徒ノ家ニテ行フテ許サレナリ赦罪券ニ就キテ天主敎ノ如ク濫リ用テ販賣セサレ亦是ヲ以テ理由アル者ニテ之ヲ受ケルハ其生者ト死者ト關ハラス必ズ效驗アル者ガリトセリ抑モ此教會ニ

テ設ケタル聖職者結婚ノ規則ハ甚ク奇異ナル者ナリ即チ此教會ニテハ男女共ニ生涯結婚セサルヲ以テ有益ノ事ト定ムル故ニ其主教ハ常ニ修道者中ヨリ選任シ敢テ其結婚スルコトヲ許サス司祭ハ未ク接手禮ヲ受ケサル間ハ結婚スルコトヲ許セハ既ニ接手禮ヲ受ケシ後ニ至レハ之ヲ許サレナリ是ヲ以テ司祭ハ始メ妻帯セシ者ト雖モ其後之ヲ喪ヘハ又結婚スル能ハサルナリ且將來司祭ニ爲ラント欲スル者ハ決テ寡婦ヲ娶ルコトヲ許サス普通信徒モ四次以上ハ一般ニ結婚スルコトヲ禁スルナリ又此結婚ハ七禮典ノ中ニ加ユレハ姦淫セシ者ニハ離婚ヲ許スナリ死後靈魂ノ形狀ニ就キテハ天主教ノ如ク煉獄ニテ火ヲ以テ聖潔セラレト云ハサレハ中間所ニテ聖潔セラレト説クナリ祈禱ハ諸聖人特ニ處女マリアニ就キテ之ヲ行ヒ且死者ノ爲メニモ之ヲ行フナリ諸聖人ノ墳墓及ヒ遺物等ハ甚ク之ヲ貴重スルナリ此教會ハ十字

架ヲ除クノ外ハ設令隱超雕ト雖モ一切雕刻物ヲ用ヰルヲ嚴禁スレ
 且平面ノ者ハ之ヲ禁セサルカ故ニ會堂ハ更ナリ其墓所郭門官衙民舍
 及ヒ旅館等ニ至ルマテ大概十字架及ヒ諸聖人ノ畫像ヲ懸ケ之ニ燈籠
 ナリ敬禮ヲ行フナリ此教會ニテハ善行功德ヲ尊ミ特ニ斷食ヲ重ス
 ルヲ天主教ニモ超越スル故ニ祭典及ヒ斷食ノ定日甚々多ク毎年四旬
 齋ノ如キ長遠ナル斷食日四次アリ且水金兩曜日モ亦斷食日ト定ムル
 ナリ以テ一年中働カノ日支ヲ除ク外大概祭典斷食ノ日ナラサルナシ又
 其禮拜式ノ壯嚴ナルヲハ敢テ天主教ニ讓ラス會堂ニテ一般ニ聖歌ヲ
 誦ヘ且樂器ヲ用ヰサルナリ祈禱ハ唯五旬節ノ時ノミ伏跪スレ且其他
 ハ皆東向シテ立禮スルナリ此教會信徒ハ十字架ヲ切ルヲ甚々多ク恰
 モ其習僻ノ如ク爲レリ修道者ハ古昔ヨリ甚々多ク今尙ホ許多ノ男女
 修道院アリ其中ニ居ル者ハ大概ニ聖ハヤシルノ規則ヲ守ルナリ却說此

規則中ニ一ノ注意スヘキ個條アリ即チ修道者タル者ハ男女共ニ應分
 ノ力役ヲ爲サシムルヘカラスト抑モ此教會ハ其教ノ精力ナキ爲メ信徒
 ハ唯其拜禮式ノミニ満足シ真正ノ更生トハ「バプテスマ」ノ「ニシテ禮
 拜式ヲ守レハ其爲スヘキ義務ヲ盡セル者ト思ヘリ且現今ニ至リテハ
 其奮起ノ氣象ナク甚々頑固ナル故ニ神學ノ進步スルヲモナク改革ヲ
 行フ機會モ至ラスロシヤ教會ヲ除クノ外ハ他人ヲ轉教セシムルヲモ
 アラサルナリ蓋之カ爲メ彼ノ天主教ノ如ク各教派ノ競爭及ヒ十字軍
 又ハ教法詰問ノ如キ猛惡ナル教狂慘憺ナル迫害等モ亦特別ニ起ラサ
 ルナリ

第七章 輓今ノ傳道 (增加)

基督教トハ擴張スヘキ者ニシテ其信徒タル者カ之ヲ外人ニ傳道スルハ福音書中一ノ緊要ナル綱領ナリ故ニ此事ニ就キテハ既ニ舊約聖書中ニ於テモ凡ヘテノ人カ神ニ來ルヘキ勸奨及ヒ世人ハ凡ヘテ神ノ默示ヲ曉知スルトノ預言アリ特ニ新約聖書ニ至リテハ基督ノ命令セシ偏シ世界ヲ廻リテ凡ヘテノ人ニ福音ヲ宣傳セヨトノ辭(可十六ノ十五)ニ由テ倍々明白ニ爲レリ且又人類ハ必ス救ヲ求メサルヘカラサル者ニシテ神モ亦凡ヘテノ人類カ救ヲ受ケ眞理ヲ曉ルニ至ラソトテ望ミ(提前二ノ四)世界ニ傳道スヘキヲ以テ教會ニ托シテハ教會カ神ノ命令ニ從ヒ其事ニ周旋セハ必ス測知スヘカラサル祝ヲ受クルヘシ然レニ教會ハ始終此命令ニ從ヒテ此祝ヲ受クルヘキ者ニアラス即チ歴史上ニ就キテ之ヲ徵スルニ屢々此傳道ノ精神ノ陸沉セシヲアリ然レ

ニ又或時ハ此精神非常ニ發顯セシヲアリ例ヘハ使徒時代ノ如キ此精神甚ク熾シニシテ教會ハ一般ニ傳道會社ノ如キ形狀アリ信徒居住地ノ近傍ニハ機ニ乘シ各其力ノ及フ限リ傳道シ遠國ニハ特ニ傳道者ヲ派遣シテ之ヲ布教セシメ且心ヲ盡シ之ヲ周旋セシカ其傳道者ハ固ヨリ僅少ナル人数ナレニ然レニ其熱心ハ實ニ百般ノ障妨ヲ排斥スヘキ勇氣アリ加之其頃道ヲ開キ新クニ改心セシ者モ直チニ熱心ニ且周旋ヲ爲スヲ從來ノ信徒ニ讓ラス此頃傳道ノ特質ハ教會一般ニ之ニ傾嚮セシコト是レナリ然ルニ中古頃ニ及ヒ傳道ハ殆ソト修道者社會ノ專有物ノ如ク爲リ許多ノ有力ナル傳道者カ歐羅巴其他ノ未ク基督教ヲ知ラサル人民ノ中ニ至リ傳道ヲ爲シ教會ヲ建テシコトアレニ此等ハ皆教王或ヒハ修道院ノ保護ニ由リシ者ニテ敢テ教會ヲ保護ヲ受ケシコトヲス教會モ亦之ヲ周旋スル精神ナカリシナリ然ルニ輓今ノ傳道特ニ

新教ノ傳道ニ至リテハ全ク從來ノ形狀ナ一變シ傳道ハ教會ニテ爲サ
 ルヘカヲサルーノ義務タルヲ曉知シ信徒一般ニ古昔使徒時代ノ
 形狀ノ如ク力ヲ及フ限リハ各自ニ之ヲ爲シ遠方ニシテ自ラ至ル能ハ
 サル所ハ特ニ傳道者ヲ派遣シ且言語風俗等ノ殊絶セル遠國ニ於テハ
 其傳道者カ自ラ生活ヲ爲ス能ハサルニ由テ間斷ナク之ヲ周旋シ懇切
 ニ待遇スルヲ恰モ其會員又ハ代理人ノ如ク思惟セリ
 傳道ノコト大別スルニ内國傳道外國傳道ノ二種アリ尙ホ又或ヒハニ
 ダヤ人ノ傳道回々教ノ傳道等種々ニ細別スルコトアリ却說其内國傳道
 トハ從來其國ニ存在セル教會ニテ開拓地又ハ新市街等ノ爲メ傳道者
 ナ派遣シ會堂ヲ設立シ遂ニ其教會ヲ獨立セシムルマテ周旋スルコトニ
 テ例ヘハ合衆國又ハアウスタレリア等ノ如キ國ニテハ開化地ノ人民
 ハ廣漠ノ未開地ニ傳道スル爲メ甚ク盡力スルナリ蓋此書ハ内國傳道

ニ就キテハ記載スルニキ理由ナケレハ外國即チ偶像教國ニ傳道セシ概
 畧ノミヲ記載スルニシ

第一節 「ローマ」教會

一 組織 此教會ノ傳道ハ其教會内ナル諸教派ノ力ニ由テ行ハレシ
 カ就中其最モ傳道ニ勢力アリシハ「シエニエイト」派ノ者ナリ初メ此「シ
 エニエイト」派ノ開祖イグチウス、ロヨラハ傳道者學校ナル者ヲ起シ
 テ其傳道スルニキ諸國ヨリ書生ヲ集メ之ヲ教授セント希望セシカ其後
 教王グレゴリ第十五カ此教派ヨリ出テ法統ヲ嗣クニ及ビ千六百廿三
 年「ロマ」ニ於テ「プロバガンダ」即チ信仰傳播會社ナル者ヲ建設セリ却說
 此「プロバガンダ」會社ハ廣大美麗ナル建築ニシテ其社員ハ皆教宰ノ
 者ナリ且此會社中ニ「書記會計等種々ノ事務ヲ掌ル職員モ許多アリ
 又此會社ニ附屬スル傳道者學校ナル者ハ亦頗ル廣大ナル建築ニシテ

傳道諸國ヨリ許多ノ書生ヲ集メテ教授ヲ爲シ又其印刷所ニテハ諸國ノ國語ニテ著述セル種々ノ書類ヲ出版セリ蓋此等ハ皆羅馬府内ニ在リ他天主敎諸國ニモ亦此會社ノ支局許多アリ就中パリノ祭司會ト稱スル者ハ其最モ有名ナルモノナリ加之此パリニハ千六百六十二年廣大ナル傳道者學校ヲモ建設セリ蓋此等傳道ニ關スルコトハ凡テ羅馬ノ會社ニテ管掌スルナリ却說此會社ニテ新タニ傳道地ヲ開カント欲スルハ預メ後年ノ紛議ヲ防禦スル爲メ其傳道ヲ以テ必ス或一敎派ノミニ委託シ其管長ヨリ傳道者ヲ派遣セシメ敢テ他ノ敎派ニ紊亂セシメサリシナリ又其傳道ヲ爲セシ土地漸々盛大ニ爲レハ新タニ其監督ヲ置キ敎主管轄地ト爲シ且或ヒハ此監督ニ敎王ノ書簡ヲ廣シ其傳道國ノ帝王等ニ使セシムルコト恰モ諸國ノ全權公使ニ似タリ天主敎徒ハ新敎諸國ヲ以テ異敎國ト認メ之ニ派遣スル聖職者ヲ傳道者ト

稱シ又其地ヲ傳道地下稱スルカ故ニ例ベハオランダ及ヒ合衆國ノ如キモ其敎會ノ傳道地ト稱スルナリ最初此會社ヨリ出タル傳道者ハ大概スペインポルトガルノ者ナレモ近年ニ至リテハ多クフランス人ナリ此會社ニテ全敎會ヨリ收納スル金額ハ千八百八十五年ノ調査ニ據レハ凡ソ百五十拾萬圓ナレモ其過半ハフランスヨリ出ルナリ且此會社ニテ收納スル金ハ其所屬地ノ租金等許多アリ

二 作動 此敎會ハ改革以前ヨリ往々諸方ニ傳道セシコトアレモ是レハ唯或者等ノ作動ニシテ敎會全體ニ就キテハ決シテ其精神アラサリシカ改革後許多ノ信徒ヲ喪サ三十年間ノ大戰(本卷第六章ヲ參觀スヘシ)及ヒスペインイタリヤノ諸國ニ由テ之ヲ挽回セシト謀リタレモ其希望ヲ達スル能ハサルニ及ビ遂ニ偶像敎國ニ傳道シ之ヲ以テ其損耗ヲ償ハントノ志起レリ

先是第十三世紀頃シヨン、マ、モンテ、コルウノナル者ハ教王ニコラス第
 四ヨリ支那ニ傳道スヘキ命令ヲ受テ千二百九十二年即チ蒙古ノク
 ライ、カウソ(忽必烈汗)ノ時北京ニ至リ爾來十一年ノ間唯一人ニテ傳道
 セシガ教王クレメンソ第五ヨリ其結果ノ善ナル爲メニ大監督ニ任シ
 且七人ノ傳道者ヲ派遣シ之ヲ輔佐セシメラレタリ却說此人ハ蒙古語
 ナリテマビデノ詩及ヒ新約聖書ヲ翻譯シ又此七人ノ傳道者ト共ニ力
 ヲ盡シ道ヲ傳ヘ大ニ支那人ノ優待ヲ受ケシカ千三百廿八年死セリ却
 說或者カ此時報道セシ説ニ據レハ未信徒ノ改心セシ者三萬人ナリト
 アリ蓋此等改心者ハ千三百六十九年蒙古人カ支那ヨリ驅逐セラレシ
 以來漸々消滅シ全ク穢地ニ落タル種ト爲レリ第十五世紀頃スペイン
 ボルナガル人カ大ニ航海遠征ノ業ヲ勤メ亞非利加ヲ廻リ亞細亞ニ航
 シ亞米利加ニ遠征シ且殖民等ヲ爲スニ方リ修道者等モ亦多ク之ニ隨

キテ航海セシカ此等ノニク目的ハ遠人ニ福音ヲ傳ヘシトシナレトモ
 大概其同國人ヲ爲メ盡力セシ者ニテ殖民地近傍ノ偶像教徒ニ傳道セ
 シ者ハ實ニ僅少ナルナリ然ルニ第十五世紀ノ季頃「ドミニカン」及ヒ「フ
 ランシスカン」派ノ修道者等亞非利加ノ西部ナルコロンゴ川近傍ノ地ニ
 傳道シ且其教會ヲ建設セシカ此地ノ酋長ハ自ラ改心セシ耳ナラス詰
 問ヲ設ケ多クノ土人ヲ改心セシメシ故ニ第十六世紀ノ初頃天主教ノ
 者ハ此地教會ノ盛大ナルヲ及ヒ修道者ノ多數ヲ以テ自負セリ然レモ
 其後漸々衰微シ一旦「シニユイト」派ノ力ニ由テ些ク回復ノ色アリタ
 レモ久シカラステ衰微シボルナガル人カ此地ノ貿易ヲ止ムルニ及
 ヒ全ク絶滅シ人民ハ又偶像教ノ者ト爲レリ第十六世紀頃「ドミニカン」
 「フランシスカン」派ノ修道者等ハ印度ニ傳道シゴア近傍ノ殖民地ニ監
 督ヲ置キタル是レハ大概其移住人ニ傳道セシ者ニテ土人ノ改心セ

シ者ハ至リテ少ナリ然ルニ此教會傳道ノ形状ハ彼ノフランシス、ザウエルカ出ルニ及ヒ全ク其面目ヲ一新セリ却説此フランシス、ザウエルハ千五百〇六年アラノスニ生レバリニ於テ勉強シイグチシウス、ロヨラカ最初ニ同盟セシ六人ノ隨一ナルカ天性英敏ニシテ虚想ニ富ミ且未タ學校ニ在ル頃ヨリ其病院ニ於テ怠慢ナク盡力セシ爲メ熱心ト固執トヲ知ラレタリ此人ハボルネガル王カ東方ナル其所轄地ニ殖民スル爲メ傳道者ヲ求ムルニ方リ其募ニ應シ且教王ヨリ大使ノ命ヲ受ケ二人ノ同行者ヲ携ヘ急ニ印度ニ向キテ發シ千五百四十二年ゴアニ着スルニ及ヒ最初ハ移住人ノ爲メ盡力セシカ其後漸々土人ヲ教化シ遂ニ與印度及ヒ錫蘭等諸島ニ至リ許多ノ土人ヲ改心セシメ且ボルネガル人ノ生命ヲ更メシメ凡ソ七年許リ熱心ニ働キシカハ其固執及ヒ成果ノ爲メ遂ニ印度ノ

使徒ト喚ハレタリ或歴史ニ據レハ此人ハ嘗テ與印度ニ於テ僅カ一月間ニ於テ萬人ノ改心者ニ「バプテスマ」ヲ施セシドアリ蓋此人ノ建ズル教會ハ實ニ危險ナル者ニテ其間或ヒハ真正ナル信徒モナキニアラサレトモ大概ハ唯其名稱スニ過キサルナリ却説此人ハ其頃アンブロト云ヘル日本ノ薩摩ノ人カ罪ヲ犯シ刑ヲ脱シ爲メボルネガルの商船ニ乗シゴアニ來ルニ逢ヒ之ニ「バプテスマ」ヲ施シ其名ヲパウロト授ケシカ此パウロト談話スルニ及ビ日本ニ傳道セントノ志熾ンニ起リ遂ニ千五百四十九年八月ニ同行者二人及ヒ此パウロヲ携ヘ始メテ鹿兒島ニ來リ此土ニ於テ凡ソ一年許リ日本語ヲ學ヒ又パウロノ通辨ニ據リテ講義ヲ爲セシカ或些少ナル障妨ヲ受ケシ爲メ去リテ平戸ニ至リ居ルヲ數日ニシテ又山口ニ至リ其後暫クアリテ遂ニ京師ニ上レリ蓋是レハ政府ニ請ヒ國內ニ基督教ヲ弘布スル免許ヲ受ケシ爲メナリ

雖モ此頃京師兵馬騷擾之際ニシテ軍人朝ニ充テ且其志願ヲ違ス
 へキ勢アラサレハ憤然トシテ京師ヲ去リ又山口ニ歸リ時計及ヒ樂器
 其侯伯ニ贈リ其侯伯ヨリ周防國吉敷郡山口縣大道寺事從西域來朝
 之僧爲佛法紹隆可建創彼寺家之由任請望之旨所命裁許之狀如件天文
 廿一年八月廿八日大内介下ノ免許狀ヲ受ケタレハ數月ノ間此地ニ留
 リ同行者ト共ニ種々ノ障妨ヲ忍ビ能ク道ヲ傳ヘタレハ遂ニ印度ニ歸
 ラント欲シ豐後ニ至リテ其便船ヲ待ナシカ此頃府内ニ於テモ亦例ノ
 如ク道ヲ傳ヘタリ抑モ此人ハ凡ソ二年許リ日本ニ滯留シ鹿兒島平戶
 山口府内ニ於テ數百人ノ改心者ニ「バプテスマ」ヲ施シタレハ遂ニ此國
 ヲ去リシ所以ハ必ス其希望セシ如キ結果ヲ得サリシ爲ナラン却說此
 人ハ印度ニ歸國セシ後稍ヤ暫シテ又支那ニ傳道セントテ印度ヲ發セ
 シカ支那近傍ニ至リテ死セリ時ニ千五百五十二年ナリ抑モ此人ノ作

動ハ直接ノ好結果ヲ得シハ實ニ僅少ナレハ教會全體ノ者カ之カ爲
 マ亞細亞ノ廣漠ナル傳道地ニ注意スルノ念ヲ喚起シタルハ實ニ偉大
 ナル功績ト云フヘシ且此人ノ鼓舞ニ由テ諸々ノ偶像教國ニ傳道セシ
 許多ノ聖職者ハ大概其土人ノ優待ヲ受ケ道ヲ傳ユルノ機會ヲ得タリ
 却說支那傳道ノ一ニ就キ或著述家ノ說ニハ天主教徒ハ支那帝ノ免許
 ヲ得テ凡ソ六十年ノ間其國ニ傳道シタレハ遂ニ此道ヲ以テ其國內ニ
 普及セシメ能ハサシハ實ニ怪訝スヘキコナリト云ヒシカ是レハ唯
 支那帝國ノヨリナラズ其他諸國ニ於テモ大概聖職者ヲ以テ二心アル者
 ノ如ク猜疑タルニ由テナリ且此等聖職者ハ諸派互ニ相争フ爲メ基督
 教ノ價格ヲ減スルコトアリ又其傳道地ノ風俗ニ適セシムル爲メ自ラ其
 教法ヲ枉シタルニ因テ却テ其勢力ヲ喪フコトアリ例ヘハ北京ニ於テ「シ
 シニ」ト「派」者等ハ改心者ニ其祖先及ヒ孔子マリアヲ以テ神ト共ニ

拜禮シ又其祖先ノ爲ニ位牌ヲ建テ「許テ印度ニテ或シニエシユホト」
 派シ者ハ波羅門教ヲ基督教ニ修正セシト欲シ嘗テ一書ヲ著述シ其書
 中ニ耶穌基督ハ波羅門人ナリト記載シ且其著述家モ自ラ我ハ波羅門
 人ニシテ波羅門教ヲ改革スル爲メ此國ニ派遣セラレシ者ナリト云ヒ
 甚ク教會ニ傷害ヲ與ヘタリ因テ教王ハ布告ヲ以テ此等ノ作動ヲ爲ス
 コトヲ擯斥シタレト其害ハ既ニ行ハレ且當今ニ至リテモ尙ホ之レニ類
 似スル作動アリ抑モ此教會ハ許多ノ聖職者ヲ偶像教諸國ニ派遣シ廣
 ク世界ニ傳道セシ故ニ未信徒ノ改心スル者許多アリ其教會學校修道
 院モ抄カラサレトモ委シク統計ヲ知ス能ハサルナリ蓋或歴史ニ據レハ
 ポルチガルノ所轄ナル奧印度ニ於テ第十六世紀ノ中葉改心者ノ數
 三十萬人アリ日本ニ於テハ教會ノ最モ盛大ナル頃即チ信長秀吉ノ迫
 害起ル頃六十萬人ノ信徒アリ支那ニ於テハ第十七世紀ノ初頃三十萬

ノ信徒アリト記載セリ蓋其結果ノ最モ較著ナルコトハ亞米利加ニシテ
 此地ハメキシコ及ヒ南亞米利加諸國ノ土人及ヒ亞非利加ヨリ此地ニ
 移住セル黒奴ノ中ニハ僅々偶像教ヲ奉シ又ハ天主教ヨリ偶像教ニ復
 歸セシ者等ナキニアラサレトモ大概天主教ト稱セサルヘカラサル者ナ
 リ且西印度諸島ニ移住セル亞非利加ノ黒奴中ニテ「バプテスマ」ヲ受ケ
 シ者甚ク夥シク又亞細亞ノ南ナルフィリピン諸島及ヒスペインボル
 ナガルノ属地中ニ居住スル土人モ多ク改心セシ者アリ然レモ此等ハ
 大概僅カノ教ヲ聞キ「バプテスマ」ヲ受ケシ者ナレハ多クハ道ノ何物ヲ
 ルチ知ラサルカ是レハ蓋天主教ニテ無學ハ信仰ノ母ト云ヘル辭ニ從
 ヒ傳道ヲ爲セシ故ナリ却説或歴史家ハ此教會ノ傳道ニ就キ委シク統
 計ヲ知ル能ハサルヲ憾ニ此教會ノ傳道ニ就キテハ或ヒハ故意ニ之ヲ
 記載セサルコトアリ或ヒハ其成效ヲ誇大ニスルコトアリ或ヒハ其未熟ヲ

隠蔽スルコトアリテ實ニ不完全ナル者ナレハ我儕カ知見スル所ニ據レ
 ハ其結果ハ實ニ僅少ナル者ナリ且其結果ハ作動ノ大ナルニ適ハス從
 來ノ改心者ヲ除キ第十九世紀ノ改心者耳ヲ計算スレハ甚ク僅々ナル
 者ナリト云ヒシカ實ニ第十七八世紀頃ニハ著シキ結果アリタレモ今
 世紀ニ至リテハ格別進歩アラハルナリ

第二節 「ギリシヤ」教會

ギリシヤ及ヒトルキノ内ニ居住スル此教會ノ者ハ數世紀以前ヨリ既
 ニ傳道ノ精神ヲ喪キ未タ之ヲ回復スル能ハサル耳ナラス其國內ニ於
 テモ異教徒ノ傳道ニ奮勵スル能ハサルナリ蓋是レハ其國人ハ大概回
 々教徒ニシテ「ギリシヤ」教會及ヒ「ロマ」教會ノ者ヲ觀レハ皆之ヲ偶像教
 徒ト稱シ且之ヲ輕蔑スレハナリ「ロシア」教會モ亦其勢力微弱ニシテ
 古昔ヨリ異教徒國ニ傳道セシコト至リテ罕ナリ「ロシア」政府ハ其國人ヲ

其國教ニ入レント希ヒ他教派ノ者ヲ落膽セシメ又官吏ヲシテ種々其
 事ヲ説諭セシムルナリ且此國ヨリサイベリア地方ノ偶像教徒ヲ改心
 セシメントテ傳道者ヲ派遣セシコトアリシカ是レハ真正ナル傳道ノ如
 シ或ヒハ學校ヲ設ケ或ヒハ福音ヲ傳ユルコトアレモ又或ヒハ尙其國教
 ニ入ラハ政府ヨリ多少ノ保護ヲ爲スヘシト云フテ勸奨セシコトアリ蓋
 此傳道ハ實ニ微々タル者ニテ其經費モ一年貳萬圓許リニ過キサルナ
 リ此國ヨリ他國ニ傳道スルコトハ唯日本一國ノミナレモ此傳道ノ形況
 ハ能シ衆人ノ知ル所ナレハ茲ニ記載スル理由アラサルナリ抑モ此教
 會ノ傳道モ「ロマ」教會ノ如ク其統計ヲ詳知スル能ハサレハ其結果ハ奈
 何ナリヤ其傳道ハ教會ヨリ爲スヤ將テ其國教ヨリ爲スヤ尙國教ヨリ
 傳道スルナラハ政府ニ屬スルコトハ幾分ナリヤ之ヲ窺知スルニ便ナキ
 ナリ

第三節 新教

改革家ハ教會ニ萬國人民ヲ傳道スヘキ義務アルヲ知ラサリシハ
 較著ナル事實ニシテ實ニ此等ノ者ハ當時其建タル教會内ニ於テハ勢
 カアル傳道者ナレドモ偶像教徒ノ中ニ傳道スルコトハ毫モ注意セサリシ
 カ如シ蓋其注意セサリシ理由ハ一ハル―テルカ世末ニ就キテノ異説
 即チ世末ノ審判ハ將ニ來ラントスレハトルキ人ニハ神カ教主及ヒ其
 他ノ偽信徒等ニ生活ヲ爲スヲ許ス如ク其隨意ニ任カセテ生活セシム
 ヘシトノ説ノ爲メ一ハ新教諸教會ハ舊教及ヒ其他諸教派ト生存競争
 チ爲ス爲メ遠國ノ者ヲ顧慮傳道ヲ爲ス暇アテサリシ爲メナリ其他此
 頃ノ航海ハ凡ヘテポルチガルスペイン兩國ニテ專有セシ故ニ天主教
 徒ハ之カ爲メ右ニ記載セシ如ク傳道ノ精神ヲ惹起スルコトヲ得タレドモ
 新教徒ハ更ニ偶像教國ニ接スル機會ヲ得サレハ之カ爲メ甚タ其期ヲ

後レシナリ蓋是レハ實ニ新教徒ニテ耻ヘキコトナリ

一 來歴

但新教徒モ第十六世紀頃ヨリ既ニ傳道ヲ爲セシ者アリ即
 チ彼ノスウイデソ王ウサハ嘗テ傳道者ヲ其國ノ北部ナルラップト云ヘ
 ル偶像教徒ノ中ニ派遣セシコアリ(千五百五十九年)蓋此傳道ハ甚タ微
 ケタル者ニテ且久シク好結果ヲ得サリシナリセルマニノビ―テルハ
 イリソグナル者ハ嘗テ其他六人ノ者ト契約セル誓ヲ踐ム爲メ千六百
 三十二年ヨリアビシニアニ至リ數年間其地ニ傳道シ且其居留セル土
 地ノ方言ヲ以テ新約聖書ヲ翻譯シタリセルマニノエルソスト、ウソ、ウ
 エルソナル者ハ第十七世紀ノ季頃久シク國內ノ諸島ヲ奔走シ傳道ノ
 コトヲ鼓舞シ又送ニ南亞米利加ノ北部ニ航シ暫ク其地ニ傳道シ且此等
 ノ爲メ許多ノ財産ヲ費セシカ遂ニ其傳道地ニテ死セリ蓋是レハセル
 マニ南亞米利加共ニ好結果アラサリシナリ又新教徒ニテ始メテ教會

傳道スルキ義務アルコト主張セシ者ハ彼ソセシニナル敬虔家ノ
 開祖スベテナルナリ此人ハ第十七世紀頃頗ル勢力アル説ヲ以テ傳道ノ
 コトヲ獎勵セリ且彼ノ大ライブニツハ傳道ノコトニ注意シ支那ヲ以テ適
 當ノ傳道地ナリト稱シ嘗テベルリンナル理科學校ノ規則書ヲ編纂ス
 ルニ方リ其事ヲ記入セリ(千七百〇〇年)蓋教會全體ノ者ハ其後久シク
 ノ間偶像教徒ニ傳道スルコトヲ以テ妄想ナル較計ト思惟セリ
 新教徒ハ第十七世紀頃航海業ノスベインボルチガルヨリホルランド
 及ヒイソングラゾドデソマルシニ移ルニ及ヒ始メテ偶像教ノ者ニ接ス
 ル機會ヲ得是レヨリ其傳道ノ精神漸々起リ却説ホルランド人ハ其
 頃俄カニ東洋諸方ニ散在スルボルチガルソ屬島チ凡ヘテ掠奪セシカ
 千六百〇二年其國會ノ免許ヲ得テ建設セル東印度公司ハ偶像教徒ニ
 傳道スルコトヲ以テ其目的ノ一ト爲シ其後許多ノ傳道者ハ急ニ東洋ニ

航セリ蓋此等ノ者ノ作動及ビ結果ニ就キテハ今日ヨリ詳細ニ測知ス
 ル能ハサレトモ福音主義ニ契合セサル傳道モ尠カラカレトハ甚々明晰
 ナリ例ヘハ錫蘭ニテハ其大守カ未信徒ハ其國民タル權利ヲ得ルベカ
 ラス及ヒ官吏ヲラント希望スル者ハ設令微賤ノ職ト雖モ必スヘルウ
 テシク信仰個條ニ署名セサルベカラストノ規則ヲ定メ數千萬ノ土人
 等カ之カ爲メ「バアテスマ」ヲ受領セシコトヲ願ヒシニ教會ハ此者等カ僅
 ニ十戒及ヒ主ノ祈禱ノミヲ暗誦スレハ之ヲ授クルコトヲ拒マサリシナ
 リ因テ第十七世紀ノ季頃ニハ既ニ三四十萬ノ改心者アリ且瓜哇ニ於
 テモ亦同一手段ヲ以テ傳道セシ故ニ其頃大概十萬人許リク改心者ア
 リ蓋傳道ノ形狀斯クノ如クナレハ或ヒハ熱心ナル傳道者アリテ福音
 ヲ傳ヘシコトナキニアラサレトモ其教會ハ大概有名無實ノ者ナリ却説ホ
 ルランドハ其頃又ブラジル及ヒ西印度諸島ニモ傳道地ヲ設ケシカ是

レハ其後千六百六十七年イソグランドトノ戦争ニ於テホルランドガ
 失敗ヲ爲スニ及ヒ全ク消滅シ且錫蘭瓜哇ノ兩島モ其政府ヨリノ保護
 廢止スルニ及ヒ信徒漸々退會シ遂ニ全教會消滅スルニ至レリ
 新教徒ガ福音主義ノ傳道ヲ爲セシハ合衆國ナル原ト殖民地近傍ノ土
 人ニ傳道セシテ嚆矢トス此時イソグランド王ヤレンス第一カ或殖民
 會社ノ免許狀ニ土人ヲシテ眞神及ヒ救世主ヲ知り且之ニ服従スヘク
 教導セシコトヲ希望スルト記載セシカ是レハ實ニ奇異ナル事實ナリ却
 說其移住人等カ一般ニ土人ノ救ヲ得ルトニ盡力セシハ甚ク冷淡ナル
 者ナレトモ或牧師等ハ其方言ヲ學ビ稍ヤ盡力セシ故土人等モ漸々改心
 シ現今處々ノ教會ニ殘留セル古記録中ニハ多ク土人ノ姓名ヲ記載セ
 リ特ニ彼ノ有名ナルシヨン、エリオトナル者ハ嘗テ或大種族ノ方言ヲ
 以テ聖書ノ全部ヲ翻譯シ又數年間諸方ニ傳道セシニ他ノ傳道者モ亦

之ニ倣ヒ傳道スル者數人アリ却說此等聖職者ハ實ニ福音主義ニ從ヒ
 道ヲ傳ヘ學校ヲ設ケ又牧師ト爲ス爲メ其土人ヲ教育セシニ其結果ハ
 唯其土人中ニ善美ナリシ耳ナラスイソグランド教會ニ波及シ其教會
 ノ者ハ之カ爲メ此土人ニ道ヲ傳ユヘキ義務アルコトヲ悟リ千七百〇一
 年福音傳播會社ナル者ヲ建設セリ蓋此會社ハ其後百年許リヲ閱ルマ
 テ特別ナル作動アラカリシナリ
 傳道者カ外國ニ盡力シ其結果ノ能ク今日マテ連續スル者ハデノマル
 シ王ツレデリシ第四カ傳道者ヲ南印度ニ派遣セシコト(千七百〇五年)ヲ
 嚆矢トス然ルニ此傳道者ハセルマニナル敬虔家ノ者ニテツイゲンバ
 ルク及ヒアブルツヤウト云ヘル二人ノ者ナリシカ其後數年ニシテデ
 ノマルツ王カ此保護ヲ全ク廢止スルニ及ヒセルマニナルハルノ敬虔
 家ノ者之ヲ承ケ漸々相踵キテ多クノ傳道者ヲ派遣セシニ此ツイゲン

ルツ及ヒシウアハット云ヘル二人ノ者ハ甚ク有名ナル傳道者トナ
 レリ却説此シウアルツハ外國人並ニ土人等ノ爲メ甚ク景慕セラゾ特
 ニ其居留地ノ近傍ナル或「ラナヤ」(酋長)ハ其子ヲ以テ此人ノ處ニ送リ其
 教育ヲ受ケシメ此人カ死スルニ及ヒ爲メニ其墳墓ヲ建設セリ抑モ此
 傳道ハ漸々進歩シ改心セシ者凡ソ四萬人許リアリ第十七世紀頃セル
 マニニ合理論ノ猖獗シタレニ取テ滅亡スルヲナク其後他ノ傳道者ノ
 カニ由テ今日マテ連續セリ
 微々タル教會ニテ較著ナル傳道ヲ爲セシハ「モレウイアン」派ノ傳道ヲ以
 テ嚆矢トス却説此派ノ開祖ツインツヘンドルフハ固ヨリ外國ニ傳道
 スル志アリシカ千七百卅一年彼ノツイゲンバルグニ遇ヒ其說話ヲ聞
 シニ及ヒ大ニ感激シヘルノツウトニ歸リシ後急ニ其教派ノ者上商議
 セシニ自ラ西印度及ヒグリーンランド島ニ傳道セント決心セシ者數人

アリ抑モ此教派ノ者ハ此時ヨリ外國傳道ヲ以テ其根本ナル一ノ主義
 ト爲シ信徒各自ニ其金ヲ擲テ又平均信徒五十人ニ就キ一人ノ者カ外
 國ニ傳道セシコアリ且此傳道者カ外國ニ至ル時ハ常ニ處々ノ移住人
 ト共ニ航海セシカ此等ハ多々職工等ノ者ナレハ其職業ヲ以テ傳道者
 及ヒ教諭等ヲ補助セシ故ニ傳道者カ教會ヨリ受ケル經費ハ實ニ僅少
 ナリシナリ却説此等傳道者ハ多ク無學ノ者ナレニ熱心ニシテ能ク傳
 道セシ故其結果甚ク善美ナリシカ此教派ノ者カ熱心ニ作動スルコトモ
 亦實ニ他ノ教會ニテ模範トスヘキナリ
 今世紀ノ初頃ヨリイシングランド及ヒ合衆國ノ教會ニ其信仰ヲ復興シ
 隨キテ其傳道ノ精神ヲモ亦漸々發起セシメシガ現今ニ至リテハ教會
 一般ニ其影響ヲ及ホセリ且神ハ偶像教諸國ノ關鎖ヲ開キ其預定セシ
 如ク福音ノ光ヲ射入セシカ是レ亦隨キテ當今傳道ノ端緒ト爲レシニ

似たり抑モ新教諸國ノ者ハ航海ヲ務メ貿易ヲ屬ニ古昔未ダ發見セザ
 リシ國々マテ渡航シ又封鎖主義ノ諸國ヲ開導シ他ノ國々ト交通セシ
 メシカ之カ爲メ諸國偶像教ノ者ハ教會ノ前ニ嚮導セラレタリ且傳道
 者ハ其後公使等ノ往來セシ地方ハ更ナリ旅客商賈等ノ未ダ至ラサル
 村落及ヒ僻遠未開ノ地方マテ跋渉シ又ハ他ノ商賈等ニ先ダツテ未開
 野蠻ノ國ニ至リシコトモ抄カラサレハ教會一般ニ傳道ノ緊要ナルコトヲ
 悟リイングラントノ教會カ始メテ此精神ヲ起セシ以來急ニ合衆國ニ
 傳ハリ其後歐羅巴大陸ニ波及シ今日ニ至リテハ傳道會社ノ數ハ數十
 個所ニ及ビ數千人ノ傳道者ハ殆ント世界中ニ航海セシナリ

二 組織及ヒ結果

イングラントナル「バプテスト」派ノ者ハ「モレウイア
 ノ」派ノ者ニ亞キ始メテ傳道ノ爲メ結合ヲ爲シ其後教師ウイリアム、ケ
 ーリ、周旋ニ由テ傳道會社ナル者ヲ建設セリ(千七百九十二年)却説此

ウイリアム、ケーリナル者ハ原ト革履製造者ナレト始メ屢々講義ヲ爲
 セシカ其後遂ニ教師ト爲リ甚ク傳道ニ熱心シ此會社ヲ建設セシ後自
 ラ其會社ノ保護ニ由リテ印度ニ航海シ其後相嗣キテ此地ニ渡航セル
 他ノ傳道者等ト共ニカルクッタニ至リシカ東印度公司ノ者ハ甚ク傳道
 者ヲ厭ヒ其地ニ居留スルコトヲ許サ、リシカハ又其地ヨリ僅カ距リタ
 ルセラムポルト云ヘル當時テ「マールク」所屬ノ地ニ至リ北印度ノ傳道
 ヲ始メ其土地ノ方言ヲ以テ聖書ヲ翻譯シ種々ノ書籍ヲ出版シ學校ヲ
 開キ傳道ヲ務メ好結果ヲ得ント起圖セリ此人ハ其他隨行ノ或傳道者
 等ト共ニ甚ク有名ナル者ト爲レリ却説此「バプテスト」派ノ傳道會社建
 設ノ後二年ニシテ「ロンドン」傳道會社ナル者ノ建設アリ是レハ數教派
 共同シテ建設セシ者ニテ其本局ヲ「ロンドン」ニ置キシ故斯クノ如ク稱
 號ヲ唱ヘリ却説此會社カ初メニ傳道セシハ南洋諸島ナリ又彼ノ「アン

然リカシテ教會ノ者ハ千七百九十九年其傳道會社ヲ建設セシカ茲ニ一
 奇事アリ此教會ノ者ハ之ヲ建設シタレトモ其後久シク教會ニテ自ラ傳
 道セント欲スル者ヲ得サルニ由テセルマニ人ヲ備フテ之ヲ爲サシメ
 テ却説此會社カ始メニ傳道セシハ亞非利加ナリ合衆國ニテハ千八
 百十年外國傳道會社ナル者ヲ建設セシカ是レハ「ロンドン」傳道會社ト
 同シク數教派共同シテ建設セシ者ニテ其始メニ傳道セシハ印度ナリ
 却説イソングランド及ヒ合衆國ナル諸教派ノ者等ハ始メ斯クノ如ク共
 同連合シテ「ロンドン」傳道會社及ヒ外國傳道會社ヲ建設シタレトモ其後
 各教派ノ資力増加スルニ及ヒ各々獨立ノ會社ヲ建設セシカ「ロンドン」
 傳道會社及ヒ外國傳道會社ハ皆組合教會ノ者ト爲レリ抑モ歐羅巴大
 陸ニテハ一時合理論ノ流行セシ爲メ全ク傳道ノ精神ヲ喪キ唯モソウイ
 アン派ノ者ソミハ特別之ニ動カザレサルカ故ニ繼續シテ傳道シタレ

其其他「メソヂヤ」及ヒ「セルマニ」ナルハソノ者等ハ全ク之ヲ廢止セシ
 カ凡ソ五十年許リ以前ヨリ又々復興シスウイッラ「ロンドン」ナルハソノ
 者ハ純正ナル教義及ヒ敬虔ヲ發達セシムル爲メ千七百八十年一ノ會
 社ヲ建設シタリ是レハ「歐羅巴」大陸ニテ傳道會社ノ起レル權與ナリ且
 此者等ハ始メテ傳道ニ着目シ千八百十五年傳道者學校ヲ建設シ其後
 七年ニシテ外國ニ傳道者ヲ派遣シ又教會ニテ之ヲ保護スルコトニ決定
 セリ爾來諸國ニテモ又許多ノ傳道會社ヲ建設シ且信徒モ漸々之ニ注
 意スルニ至レリ却説現今傳道會社ノ總計ハ「大ブリテン」ニ凡ソ二十個
 處「歐羅巴」大陸ニ凡ソ廿五個處「亞米利加」ニ於テ廿五個處アリ且其會
 社ニ募集スル金額ハ千八百八十五年ノ調査ニ據ルニ總計七百五拾萬
 圓ナリ

此等諸會社ノ作動及ヒ其結果ニ就キテハ詳細ニ記載スル能ハサレドモ

現今或著述家ノ説ニ此傳道ノ爲メ未ク「バプテスマ」ヲ受ケサル數萬、億
 ノ者カ福音ノ好影響ヲ受ケ且其從來因習セル猛惡ナル風習ヲ脱シ執
 迷心ヲ去リ學問ヲ修メ新シキ道德ニ依リ廣シ文明ノ基礎ヲ建テシ等
 其結果ノ宏大ナルヲ決シテ文字ヲ以テ形容スル能ハサルナリ但文字
 上ニ顯ハレシ者ノミヲ述フレハ此傳道ノ爲メ既ニ永眠セシ者ヲ除キ
 唯千八百八十五年ノ教會記録ニ存在スル改心者耳凡ソ六十三萬人ア
 リ尙其家族及ヒ教會ニ關係スル者マテ合計スレハ二百三十萬人許リ
 ニ及フヘシ蓋此「バプテスマ」ヲ受ケ教會ニ入リシ者ノ中ニハ多ク有名
 無實ノ者アリ真正ナル信徒ト云フヘカラス且設令真正ノ信徒ト雖モ
 信仰冷淡ニシテ教會モ幼稚ナル者ナリ然レモ或傳道ノ報告ヲ觀レハ
 千億、萬ノ人類カ誠實ナル改心ヲ爲シ小兒ノ如キ信仰ヲ保テ熱心ナル
 祈禱ヲ捧ケ神言ヲ愛シ喜ヒテ其身ヲ奉供スル等何ソ夫レ福音ニ從フ

「」ノ較著ナルヤ又其傳道ノ廣シ及ヒシ「」ニ就キテハ例ヘハ我儕世界
 ナ一週スルニ到處皆基督信徒ノ居ラサル地ナシ即チ彼ノ「モレウ、アン」
 派ノ者カ傳道セシグリンランド島ヲ發シ南北亞米利加及ヒ西印度諸
 島ニ至レハ其土人及ヒ亞非利加ヨリ來レル從前ノ土人中ニ偶像教ノ
 習慣ヲ脱シ基督教ノ中ニ加算セラルヘキ者殆ソド六十萬人アリ又サ
 「」ノ、フランシスコヲ發シ太平洋ヲ航シ布哇ニ至リアウスグレリア及ヒ
 「」ニウ、ジョーランド南洋諸島ヲ通過スレハ亦同シク基督教ノ中ニ加算セ
 ラルヘキ者凡ソ三十萬人アリ亞細亞ニ於テハ日本支那印度並ニ印度
 群島ヘルシア小亞細亞等ノ中ニ凡ソ八十萬人アリマダガスカ島及
 「」七亞非利加大陸ノ南部ナルカフエルホッテントット等並ニコンゴ川近傍ノ
 地ニ凡ソ六十萬人アリ何ソ夫レ斯ク盛大ナルヤ蓋是レハ福音ノ種ヲ
 播キシ地ニシテ又實ニ全教會カ基督ノ命令セシ世界萬國ノ人民ニ道

ヲ傳ヘヨトノ語ヲ聞キシ証據ナリ云々云々却説若シ記載セシ外尙ホ
 茲ニ記載セサルハカラサル一事アリ即チ當今傳道者等ハ世界ニ大
 國ト稱スルキ偶像教國ノ言辭ニテハ皆既ニ聖書ヲ全部ヲ翻譯セシカ
 其他諸方ノ偶像教國ノ言辭ヲ以テ聖書ノ全部或ヒハ或部分ヲ翻譯セ
 シ者凡ソ二百五十種アリ蓋此卷尾ニ掲載スル千八百八十五年調製シ
 傳道ノ統計表及ヒ世界諸教法比較一覽表ヲ諦觀スルハ既ニ傳道ヲ爲
 ス顯ハシタル結果及ヒ尙ホ未タ及ハサル處ノ形狀ニ瞥シテ瞭然ナル
 一願シハ日本基督信徒タル者此偉大ナル作動ニ向テ急ニ其大部ヲ
 占有スルニ至ラシキナリ

教會歴史 大尾

表 覽 一 道 傳 國 外 教 ト ソ タ ス テ ロ プ 年 五 十 八 百 八 千

傳道會社本國	傳道會社	傳道者派遣所	外國傳道者	內國傳道者	信徒	本年中受洗者	信徒ノ家屬及ヒ賛成者	學校	同生徒	傳道費
大ブリテン	二十一	四百五十二	六百九十七	三千六百〇四	三十三萬三千百	一萬七千六百七十	三十二萬 二千六百二十	二千三百四十四	四十五萬五千	四百二十萬九千 七百二十七圓
歐羅巴諸國	二十五	五百五十五	七百四十六	四千二百二十五	十三萬四千四百六十	一萬九千九百二十	五十八萬〇 六百三十	三千七百六十六	八萬八千五百六十	百〇二萬四千 百二十七圓
合衆國	二十五	二千二百〇五	二千七百十二	二萬五千 三百九十一	六十三萬二千 五百六十	六萬〇二百九十	二百三十一萬 〇百五十	一萬三千八百〇六	十二萬〇四百	二百三十七萬 千四百六十二圓
總計	七十一	二千二百〇五	二千七百十二	二萬五千 三百九十一	六十三萬二千 五百六十	六萬〇二百九十	二百三十一萬 〇百五十	一萬三千八百〇六	六十六萬三千 九百六十	七百六十七萬五千 三百十六圓

表 較 比 法 教 諸 界 世

プロテスタント教	ユダヤ教	モムハムド教	偶像教諸派
ギリシヤ教	諸小派	諸小派	

全世界現今ノ人員凡ソ十四億二千五百万人ニシテ其教法ニ由テ區別スレハ即チ如次
 プロテスタント教 一億千六百万人 ユダヤ教 八百萬人
 ロマ教 一億九千万人 モハメット教 一億七千万人
 ギリシヤ教 七千八百万人 偶像教 八億五千六百万人
 諸小派 七百万人
 右キリストヲ信スル者合計三億九千一百万人 右キリストヲ信セサル者合計十億三千四百万人

名目

インゴルスタット	Ingoistadt.	インギルマン	Hamilton.
インスブルック	Innsbruck.	インズブルック	Halle.
ロマンノ	Lorenzo.	ロマンノ	Heidegger.
ロンドン	London.	ロンドン	Hartley.
ローク	Locke.	ローク	Heiling.
ロヨラ	Loyola.	ローク	Basle.
レンキン	Reuchlin.	レンキン	Baden.
ロッテルダム	Rotterdam.	レンキン	Batavia.
ロシェル	Rochelle.	レンキン	Baneroft.
ロバート	Robert.	レンキン	Barclay.
ヘーデルベルグ	Heidelberg.	レンキン	Barneveld.
		レンキン	Barnes.
		レンキン	Baohme.
		レンキン	Baur.

名目

バールトロミ	Bartholomew.	バールトロン	Hottentot.
バールト	Bairdt.	バール	Posnet.
パムロナ	Pamplona.	パロン	Polingfuoko.
パスカ	Pascal.	パル	Holennia.
パル	Padua.	パル	Bonner.
パス	Passau.	パル	Bogerman.
パル	Parma.	パル	Postal.
パル	Palatine.	パル	Port Royal.
パル	Pattison.	パル	Poland.
パル	Neander.	パル	Helvelic.
パル	New Zealand.	パル	Helinstedt.
パル	Horace.	パル	Herbert.
パル	Hobbes.	パル	Haller.
		パル	Ilgeel.

ヘンクステン	Hengstenberg.	ヘン	George.
ヘン	Herrnhut.	ヘン	Ridley.
ヘン	Britain.	ヘン	Lucerne.
ヘン	Berne.	ヘン	Wolff.
ヘン	Berlin.	ヘン	Wildhaus.
ヘン	Berkoley.	ヘン	Wallenstein.
ヘン	Bengel.	ヘン	Wartberg.
ヘン	Beker.	ヘン	Wescl.
ヘン	Perth.	ヘン	
ヘン	Penn.	ヘン	
ヘン	Thomasius.	ヘン	
ヘン	Toluck.	ヘン	
ヘン	Dollinger.	ヘン	
ヘン	Dorner.	ヘン	

名目

名目

ガルスタト
 ガブリン
 カミサルド
 カランメル
 カミロン
 カリギストス
 カイゼルヘルツ
 カンヘル
 カルシタ
 ガリツ
 ガイレル
 ガンスヴァルト
 ガル
 ガルダシル

Carstadt.
 Catherine.
 Camisard.
 Gramer.
 Cameron.
 Calixtus.
 Kaiserberg.
 Kaffir.
 Calcutta.
 Gallie.
 Geiler.
 Gansvort.
 Gall.
 Gardner.

カルギイ
 カナ
 カナン
 カンチ
 カカネ
 カルカ
 カルカ
 カル
 カン
 カン
 カン
 カン
 カン

Joachim.
 Jonas.
 Tauler.
 Dante.
 Descartes.
 Darwin.
 Laelius.
 Leslie.
 Lessing.
 Rishelien.
 Renan.
 Sorbonne.

シギイタス
 ツチル
 シギンギン
 シンタム
 シカガカ
 シインツインシマン
 シイマンギル
 ネデルラン
 ナイ
 ナーロン
 ナン
 ナン

Socinus.
 Zwolle.
 Tübingen.
 Turrelin.
 Zwickau.
 Zinzendorf.
 Ziegenbalg.
 Netherlands.
 Nîmes.
 Naylor.
 Nantes.
 Navarre.

ナゲリオン
 ナイロム
 ナクム
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン
 ナウン

Napoleon.
 Nikon.
 Knox.
 Laurens Coster.
 Leyden.
 Latimer.
 Laud.
 Laplace.
 Laynez.
 Leipzig.
 Leibnitz.
 Lapp.
 Languedoc.
 Rakow.

名目